元総社蒼海遺跡群（60）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１４．３

前橋市教育委員会

oumi60c.indd 1 2014/07/16 11:09:02

oumi60c.indd 2 2014/07/16 11:09:02

oumi60c.indd 3 2014/07/16 11:09:02

oumi60c.indd 4 2014/07/16 11:09:02

元総社蒼海遺跡群（60）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１４．３

前橋市教育委員会

oumi60c.indd 5 2014/07/16 11:09:02

oumi60c.indd 6 2014/07/16 11:09:02

元総社蒼海遺跡群（60）Ａ区全景（南から）

元総社蒼海遺跡群（60）Ｂ区全景（南から）

元総社蒼海遺跡群（60）Ｃ区全景（北から）

遺構外出土 灰釉転用硯（朱墨）

Ａ区Ｈ－11号住居跡出土　鍔

元総社蒼海遺跡群（60）出土の緑釉陶器

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（60）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府の時期と一致する古代溝やほぼ十m四方の大型住居跡を検出しました。この一筋の光がやがて拡大され上野国府の研究が多いに進展していくものと確信しております。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 26 年３月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

oumi60c.indd　9　　2014/07/16　11:09:27

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（60）埋蔵文化財発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（60）
調査場所	前橋市元総社町 1309-1 ほか
遺跡コード	25 A 159
発掘・整理担当者	前田和昭（技研コンサル株式会社）
調査員	佐野良平　中村岳彦
調査補助員	岡野　茂
発掘調査期間	平成 25 年 12 月３日～平成 26 年２月 13 日
整理・報告書作成期間	平成 26 年２月 14 日～平成 26 年３月 26 日

3　本書の原稿執筆はⅠを福田貫之（前橋市教育委員会）、Ⅴ溝・井戸・土坑・ピット、Ⅵ２については岡野、他を前田が担当した。

4　発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子　新井　寛　飯島冬子　石川承子　石田てい子　伊丹茂一　稲数美枝子　宇貫美代子　楳原義久
遠藤好則　大塚とし子　岡　眞　小笠原邦樹　小笠原文子　加藤智恵子　上沢公一　鴨田榮作　川野京子
木暮朱実　木暮孝一　木暮知二　小林克宏　齋藤政次　佐藤和彦　佐藤文江　塩野　浩　篠崎政子
杉田友香　竹澤賢司　田部井美砂子　土屋和美　中野光雄　西潟　登　萩原　誠　福島禄子　松村春樹
丸山文江　水野さかゑ　武藤　光　矢内朝夫　吉井正宏　和田　進

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6　鉄製鐔のＸ線撮影は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団保存処理室の関　邦一氏に依頼した。

7　鉄製鐔については、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの津野　仁氏に実見して頂き、御教示を受けた。

8　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

大西雅広　神谷佳明　木津博明　宮崎重雄　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター　山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴住居跡：H、溝：W、井戸：Ⅰ、土坑：D、ピット：Pである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60　全体図・・・1/400
遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　鉄製品・・・1/2　古銭・・・1/1

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　灰範囲：　遺物　須恵器（還元焔）：　施釉：

oumi60c.indd　10　　2014/07/16　11:09:27

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　　次

巻頭図版１

巻頭図版２

はじめに

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針…… 7

2　調査経過…… 7

Ⅳ　基本層序…… 7

Ⅴ　遺構と遺物

1　Ａ区

（１）竪穴住居跡…… 9

（２）溝跡…… 16

（３）井戸跡、土坑、ピット…… 16

2　Ｂ区

（１）竪穴住居跡…… 45

（２）溝跡…… 46

（２）土坑…… 47

3　Ｃ区

（１）竪穴住居跡…… 58

（２）溝跡…… 58

Ⅵ　発掘調査の成果と課題…… 64

1　集落の変遷…… 64

2　鍛冶関連遺構について…… 65

3　鉄製鐔について…… 65

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置 …… 1

Fig.2　周辺遺跡図 …… 3

Fig.3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 6

Fig.4　基本層序 …… 7

Fig.5　元総社蒼海遺跡群（60）全体図 …… 8

Fig.6　Ａ区Ｈ－１・２号住居跡 …… 17

Fig.7　Ａ区Ｈ－３・４・５・６号住居跡 …… 18

Fig.8　Ａ区Ｈ－７・27号住居跡 …… 19

Fig.9　Ａ区Ｈ－８・９・10・24号住居跡 …… 20

Fig.10　Ａ区Ｈ－11・12・20・21号住居跡 …… 21

Fig.11　Ａ区Ｈ－12・13・14・20号住居跡 …… 22

Fig.12　Ａ区Ｈ－15・17・34号住居跡 …… 23

Fig.13　Ａ区Ｈ－16・18・22号住居跡 …… 24

Fig.14　Ａ区Ｈ－18・19号住居跡 …… 25

Fig.15　Ａ区Ｈ－23・25・29号住居跡 …… 26

Fig.16　Ａ区Ｈ－26・28号住居跡 …… 27

Fig.17　Ａ区Ｈ－31号住居跡 …… 28

Fig.18　Ａ区Ｈ－30・32・33号住居跡 …… 29

Fig.19　Ａ区溝、井戸、土坑（１） …… 30

Fig.20　Ａ区土坑（２） …… 31

oumi60c.indd　11　　2014/07/16　11:09:27

Fig.21　A区土坑（３）…… 32
Fig.22　A区土坑（４）、ピット …… 33
Fig.23　A区Ｈ－１号住居跡出土遺物 …… 34
Fig.24　A区Ｈ－２・５～９号住居跡出土遺物 …… 35
Fig.25　A区Ｈ－10 ～ 18 号住居跡出土遺物 …… 36
Fig.26　A区Ｈ－19 ～ 21・23 ～ 25 号住居跡出土遺物 …… 37
Fig.27　A区Ｈ－26 ～ 29 号住居跡出土遺物 …… 38
Fig.28　A区Ｈ－30 ～ 32 号住居跡、土坑、井戸出土遺物 …… 39
Fig.29　A区遺構外出土遺物 …… 40
Fig.30　B区Ｈ－１号住居跡（１） …… 48
Fig.31　B区Ｈ－１号住居跡（２） …… 49
Fig.32　B区Ｈ－１号住居跡（３）、Ｄ－１号土坑 …… 50
Fig.33　B区Ｈ－２・３号住居跡 …… 51
Fig.34　B区Ｈ－４・５・６号住居跡 …… 52
Fig.35　B区Ｗ－１・２・３・４号溝…… 53
Fig.36　B区Ｈ－１・２号住居跡出土遺物 …… 54
Fig.37　B区Ｈ－２・３・４・５号住居跡出土遺物 …… 55
Fig.38　B区Ｈ－６号住居跡、Ｗ－４号溝、遺構外出土遺物 …… 56
Fig.39　C区Ｈ－１・２・３・４号住居跡（１） …… 59
Fig.40　C区Ｈ－１・２・３・４号住居跡（２）、Ｗ－１号溝 …… 60
Fig.41　C区Ｈ－１号住居跡出土遺物 …… 61
Fig.42　C区Ｈ－１・２・３・４号住居跡、Ｗ－１号溝、遺構外出土遺物 …… 62
Fig.43　集落の変遷 …… 64
Fig.44　元総社蒼海地区の鍛冶関連遺構 …… 65
Fig.45　鉄製十字鐔の分布 …… 66

表目次

Tab.１　周辺遺跡一覧……4
Tab.２　A区井戸・土坑・ピット計測表……16
Tab.３　A区出土遺物観察表……41
Tab.４　B区土坑計測表……47
Tab.５　B区出土遺物観察表……56
Tab.６　C区出土遺物観察表……63

写真図版目次

PL.１　A区全景（南から）　A区全景（南東から）　A区北半全景（西から）　A区南半全景（北西から）　A区北半全景（南東から）　A区Ｈ－１全景（南から）　A区Ｈ－２全景（西から）　A区Ｈ－２カマド全景（西から）

PL.２　A区Ｈ－３全景（東から）　A区Ｈ－３貯蔵穴全景（東から）　A区Ｈ－４全景（南から）　A区Ｈ－５全景（西から）　A区Ｈ－６全景（東から）　A区Ｈ－６ As-B軽石堆積状況（南から）　A区Ｈ－６ As-B軽石堆積状況（南東から）　A区Ｈ－６ 火床面検出状況（東から）

PL.３　A区Ｈ－７全景（南から）　A区Ｈ－７カマド全景（南から）　A区Ｈ－８全景（南東から）　A区Ｈ－８カマド断面（南から）　A区Ｈ－９全景（西から）　A区Ｈ－９カマド遺物出土状況（西から）　A区Ｈ－９カマド全景（西から）　A区Ｈ－10全景（西から）

PL.４　A区Ｈ－10カマド全景（西から）　A区Ｈ－11・12・20全景（西から）　A区Ｈ－11・12全景（東から）　A区Ｈ－12カマド全景（西から）　A区Ｈ－13全景（北西から）　A区Ｈ－13カマド全景（北西から）　A区Ｈ－14全景（西から）　A区Ｈ－15全景（東から）

PL.５　A区Ｈ－15カマド全景（東から）　A区Ｈ－16全景（東から）　A区Ｈ－16カマド検出状況（東から）　A区Ｈ－16カマド全景（東から）　A区Ｈ－17全景（西から）　A区Ｈ－18全景（西から）　A区Ｈ－18カマド遺物出土状況（西から）　A区Ｈ－18カマド全景（西から）

PL.６　A区Ｈ－19全景（西から）　A区Ｈ－19カマド全景（西から）　A区Ｈ－20全景（西から）　A区Ｈ－20カマド全景（西から）　A区Ｈ－21全景（西から）　A区Ｈ－22全景（東から）　A区Ｈ－23全景（北から）　A区Ｈ－23遺物出土状況（北西から）

PL.７　A区Ｈ－25全景（西から）　A区Ｈ－25カマド全景（西から）　A区Ｈ－25・26・29・32全景（南から）　A区Ｈ－26カマド全景（西から）　A区Ｈ－27全景（南西から）　A区Ｈ－27カマド全景（南西から）　A区Ｈ－28カマド全景（西から）　A区Ｈ－29カマド全景（西から）

PL.８　A区Ｈ－31全景（西から）　A区Ｈ－31カマド全景（西から）　A区Ｈ－31遺物出土状況（北西から）　A区Ｈ－32カマド全景（北から）　A区Ｈ－33カマド全景（南から）　A区Ｗ－１全景（西から）　A区Ｉ－１全景（西から）　A区Ｉ－２全景（南から）

PL.９　A区Ｉ－３全景（東から）　A区Ｄ－２・３・10、Ｐ－２・３・10全景（東から）　A区Ｄ－17全景（南から）　A区Ｄ－18全景（南から）　A区Ｄ－20全景（西から）　A区Ｄ－23全景（西から）　A区Ｄ－25全景（西から）　A区Ｄ－37全景（西から）

PL.10　B区全景（南から）　B区北半全景（南西から）　B区全景（西から）　B区Ｈ－１全景（西から）　B区Ｈ－１カマド全景（西から）　B区Ｈ－１掘り方掘削痕検出状況（南西から）　B区Ｈ－１カマド掘り方全景（西から）　B区Ｈ－２全景（西から）

PL.11　B区Ｈ－２カマド全景（西から）　B区Ｈ－２遺物出土状況（北西から）　B区Ｈ－３全景（西から）　B区Ｈ－４全景（西から）　B区Ｈ－５・６全景（西から）　B区Ｈ－５カマド全景（西から）　B区Ｈ－５遺物出土状況（北から）　B区Ｗ－１確認状況（西から）

PL.12　B区Ｗ－１断面（西から）　B区Ｗ－２全景（西から）　B区Ｗ－４全景（東から）　C区全景（東から）　C区全景（北から）　C区南壁断面（北東から）　C区西壁断面（東から）　C区Ｈ－１全景（西から）

PL.13　C区Ｈ－１遺物出土状況（北から）　C区Ｈ－２全景（北から）　C区Ｈ－３全景（北から）　C区Ｈ－４全景（西から）　C区Ｈ－４カマド全景（西から）　C区Ｗ－１全景（東から）　C区Ｗ－１東壁断面（西から）　C区Ｗ－１東西断面（南から）

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、15 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 25 年 9 月 12 日付けで前橋市長 山本　龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 25 年 11 月 22 日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整理業務委託契約を締結し調査を開始した。なお、C 区北側については、撹乱が及んでいるため、調査対象から外した。

遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（60）」（遺跡コード：25 A − 159）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（60）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

oumi60c.indd　1　　2014/07/16　11:09:29

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）　本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3km の地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高３～５ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として畑地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境（Fig. 2、Tab. 1）　本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［61］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡［18］・［19］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］、正観寺遺跡［21］などがあるがその分布は散漫である。このうち日高遺跡では浅間Ｃ軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳［７］、二子山古墳［12］、愛宕山古墳［10］、宝塔山古墳［13］、蛇穴山古墳［８］などの首長墓が多数築造された。この時期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

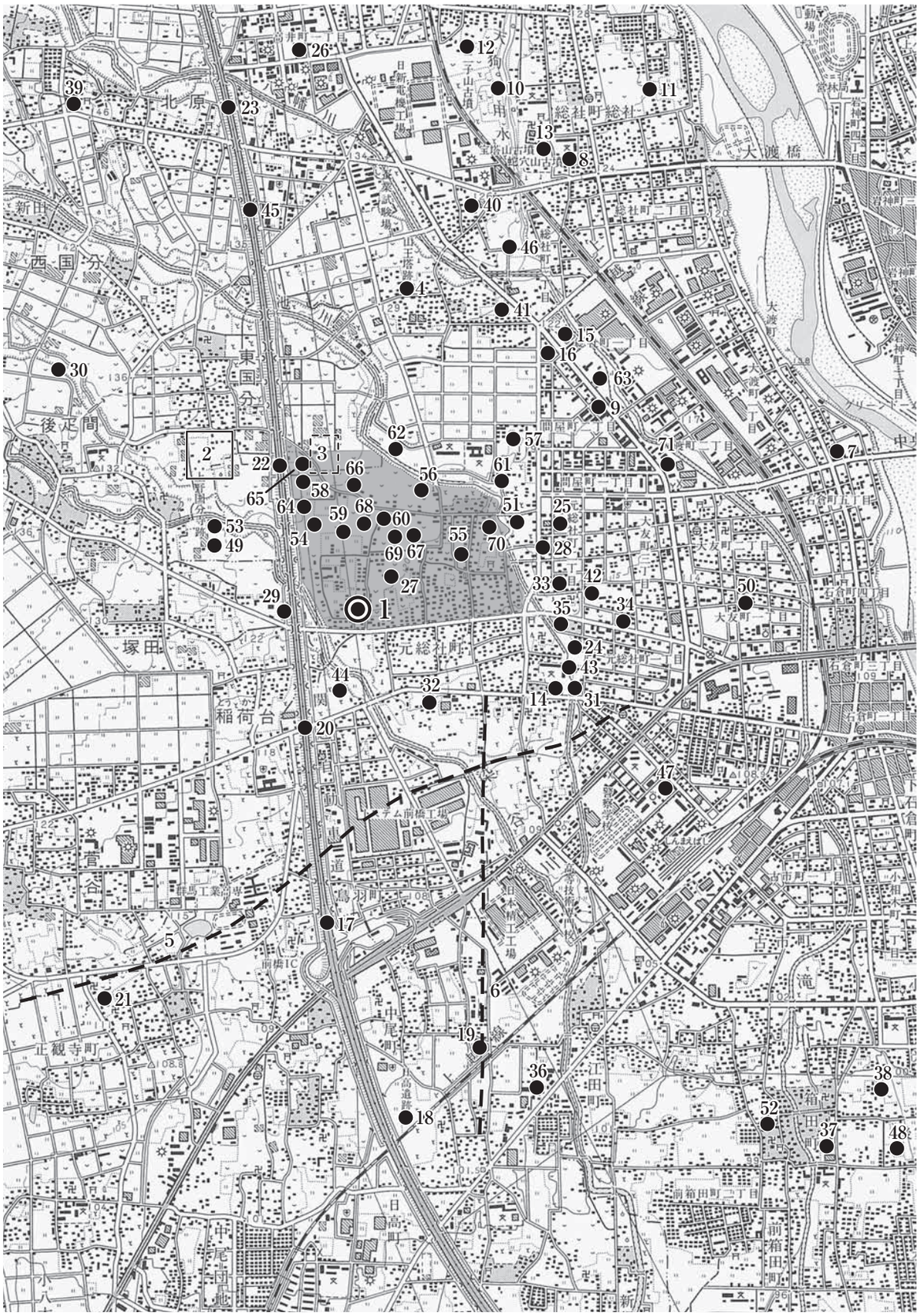
奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［２］、国分尼寺［３］、山王廃寺［４］の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ 900 m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］、元総社寺田遺跡［43］、元総社宅地遺跡［55］などがある。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形が出土している。また元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］や元総社蒼海遺跡群（７）（９）（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の東北外郭線が想定された。周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、巡方（腰帯具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55 年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀などが確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構などが確認されている。関連遺跡として中尾遺跡［17］で神社遺構、鳥羽遺跡［20］で工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この

oumi60c.indd　2　　2014/07/16　11:09:29



＝元総社蒼海遺跡群

Fig. 2　周辺遺跡図

oumi60c.indd　3　　2014/07/16　11:09:30

Tab.1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（60）	2013	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	（1974）	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	－	
6	日高道（推定）	－	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（７ｃ末）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７ｃ前半）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ後半）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡	－	縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	（1978）	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺･尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡･Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡･Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡･Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡･Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
39	熊野谷Ⅱ･Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	弥勒遺跡･Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
51	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
61	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
64	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
64	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
68	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡

oumi60c.indd　4　　2014/07/16　11:09:31

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
69	元総社小見内Ｘ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
70	総社閑泉明神北Ｖ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（２）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（３）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（６）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（９）、(10)	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
－	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	古墳：住居跡・焼土遺構、古代：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構、中世：堀跡・竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡・溝跡、古代：住居跡・竪穴状遺構、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：竪穴住居跡、中近世：掘立柱建物跡・土壙墓・火葬跡・地下式坑・蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：道路状遺構・土壙墓・火葬跡・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	古墳：住居跡、中世：道路状遺構、蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中近世：堀跡・竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・畿内産土師器、中世：土壙墓・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡、平安：住居跡・水田跡・竈構築材採掘坑、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（38）	2012	古墳～奈良・平安：住居跡・土坑、中世：溝
－	元総社蒼海遺跡群（39）	2012	古墳：住居跡、奈良：溝、平安：土坑、中世：ピット・井戸
－	元総社蒼海遺跡群（40）	2013	縄文：住居跡、古墳～奈良・平安：住居跡・鍛冶遺構、中世以降：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（41）	2013	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・鍛冶工房跡、中世：掘立柱建物跡・道路状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（42）	2013	遺構なし
－	元総社蒼海遺跡群（43）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（44）	2013	平安：住居跡、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（45）	2013	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡、地下式坑
－	元総社蒼海遺跡群（46）	2013	平安：住居跡、中世：井戸
－	元総社蒼海遺跡群（47）	2013	中世：溝跡・柱列跡・井戸
－	元総社蒼海遺跡群（48）	2013	2014年刊行予定
－	元総社蒼海遺跡群（49）	2013	平安：住居跡、中世：井戸
－	元総社蒼海遺跡群（50）	2013	平安：住居跡、中世：井戸
71	大渡道場遺跡	2011	古墳：水田跡、平安：住居跡、中世：貨幣埋納遺構・掘立柱建物跡・地下式坑・土壙墓・火葬墓・火葬跡・溝跡・竪穴状遺構

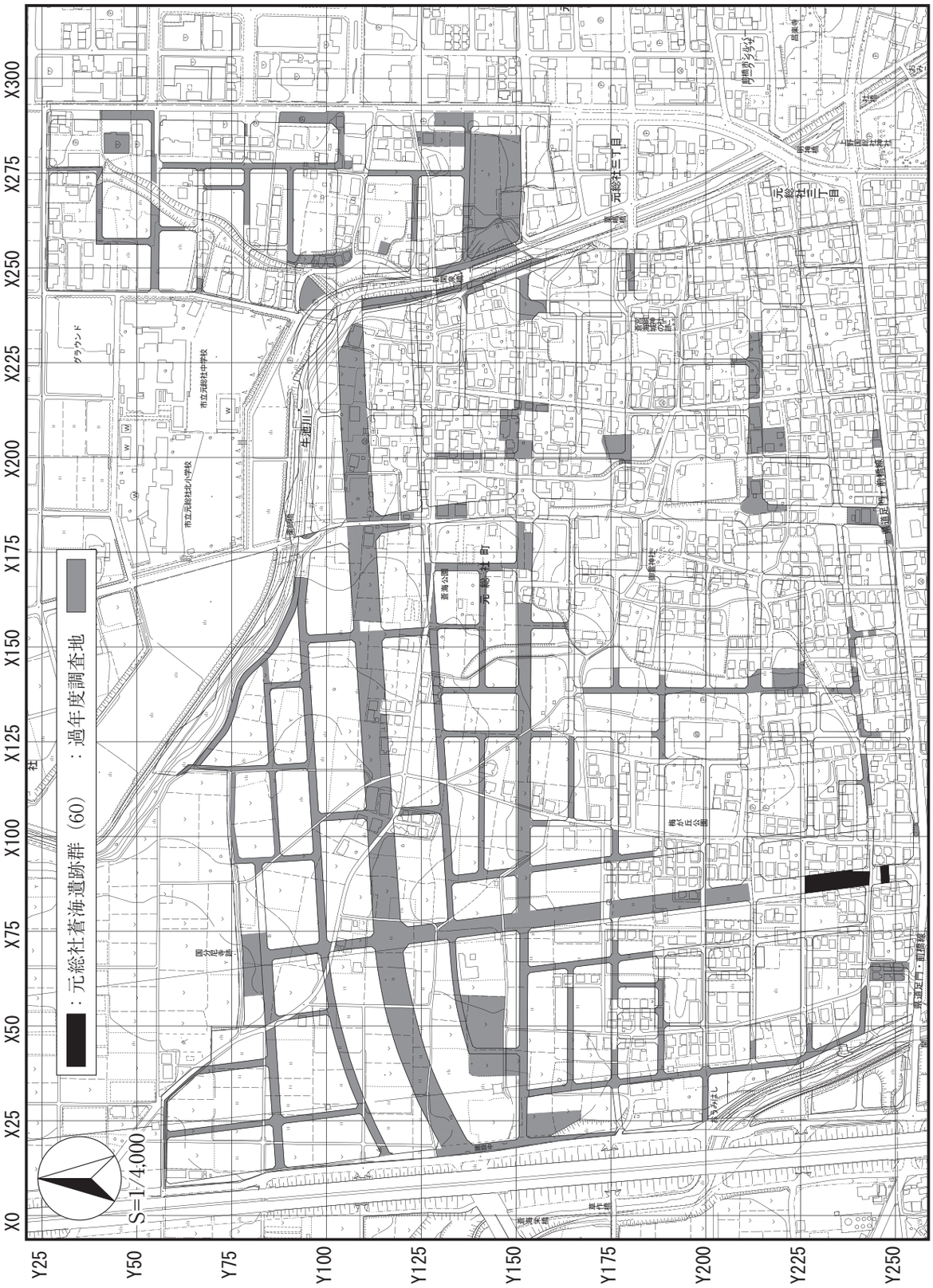
寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石などの石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

また本遺跡の南約 1.5km にはＮ－ 64°－Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5 ｍの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（41）では鍛冶工房が検出され、金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。対照的に、集落の分布は多いものの本遺跡周辺での生産遺跡の分布は希薄なものとなっている。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡［71］の貨幣埋納遺構から 572 枚に及ぶ銭貨が撚紐を通した「緡（さし）」の状態で六緡出土した。

oumi60c.indd 5 2014/07/16 11:09:32


：元総社蒼海遺跡群（60）　：過年度調査地
S=1/4,000
X0
X25
X50
X75
X100
X125
X150
X175
X200
X225
X250
X275
X300
Y25
Y50
Y75
Y100
Y125
Y150
Y175
Y200
Y225
Y250
元総社三丁目
元総社二丁目
元総社一丁目
元総社町
蒼海公園
牛池川
市立元総社小学校
市立元総社中学校
グラウンド
高橋医院
高橋病院
高橋神社
高橋橋
高橋通り
高橋通り・山王橋線
高橋通り・新橋線
高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・元総社町
高橋通り・蒼海公園
高橋通り・牛池川
高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社小学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・市立元総社中学校
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・グラウンド
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋医院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋病院
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋神社
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋橋
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・山王橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・新橋線
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社三丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社二丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社一丁目
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・元総社町
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・蒼海公園
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・牛池川
高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通り・高橋通

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は 1,190 ㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X = 44000.000、Y = − 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
（60）　X 86、Y 227	X = 43092.000 m、Y = − 71856.000 m	X = 43446.916 m、Y = − 72147.760 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25 バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは№遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

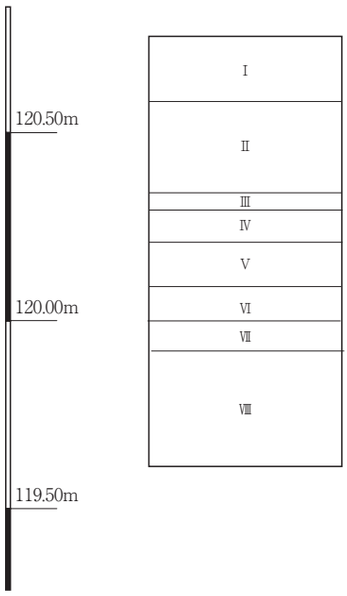
遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行なった。記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いて撮影し、調査区全景撮影については高所作業車での撮影を実施した。

2　調査経過

発掘調査は表土掘削を平成 25 年 12 月３日から 12 月 10 日まで実施した。表土掘削以降、順次調査を進め、12 月 20 日にＢ区、平成 26 年１月 17 日にＣ区、２月５日にＡ区の全景撮影を実施した。その後、２月 13 日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。２月 14 日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

Ⅳ　基本層序

Ａ区からＣ区までの南北に位置する調査範囲では、北西から南東へと緩やかに傾斜した地形となっている。Ⅰ～Ⅲ層までは人為的に地形が改変され、Ⅳ～Ⅵ層の As-B 軽石混土層はほぼ全域に堆積しており、Ａ区では As-B 軽石一次堆積層に覆われた遺構も検出している。現況地形から遺構確認面まではＡ区北側が最も深く、Ｂ区南端が浅くなっている。Ｃ区は調査区全域にわたり激しい撹乱を受けていることから、As-B 軽石を含む土層は確認されていない。基本層序においては、各調査地点の堆積状況に大きな差異が認められないため、比較的上位の土層が残存しているＡ区にて観察を行なった。



基本層序
Ⅰ　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、造成土層。
Ⅱ　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや強い、旧表土層。
Ⅲ　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、砕石等混入した撹乱土層。
Ⅳ　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや強い、白色粒をやや多く、As-B軽石粒を少量含む。
Ⅴ　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-B軽石混土層。軽石粒をやや多く含む。
Ⅵ　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-B混土層。
Ⅶ　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を微量含む。（遺構確認面）
Ⅷ　黄褐色土（10YR5/6）締まりやや強い、粘性弱い、総社砂層。

Fig.4　基本層序

oumi60c.indd　7　　2014/07/16　11:09:36

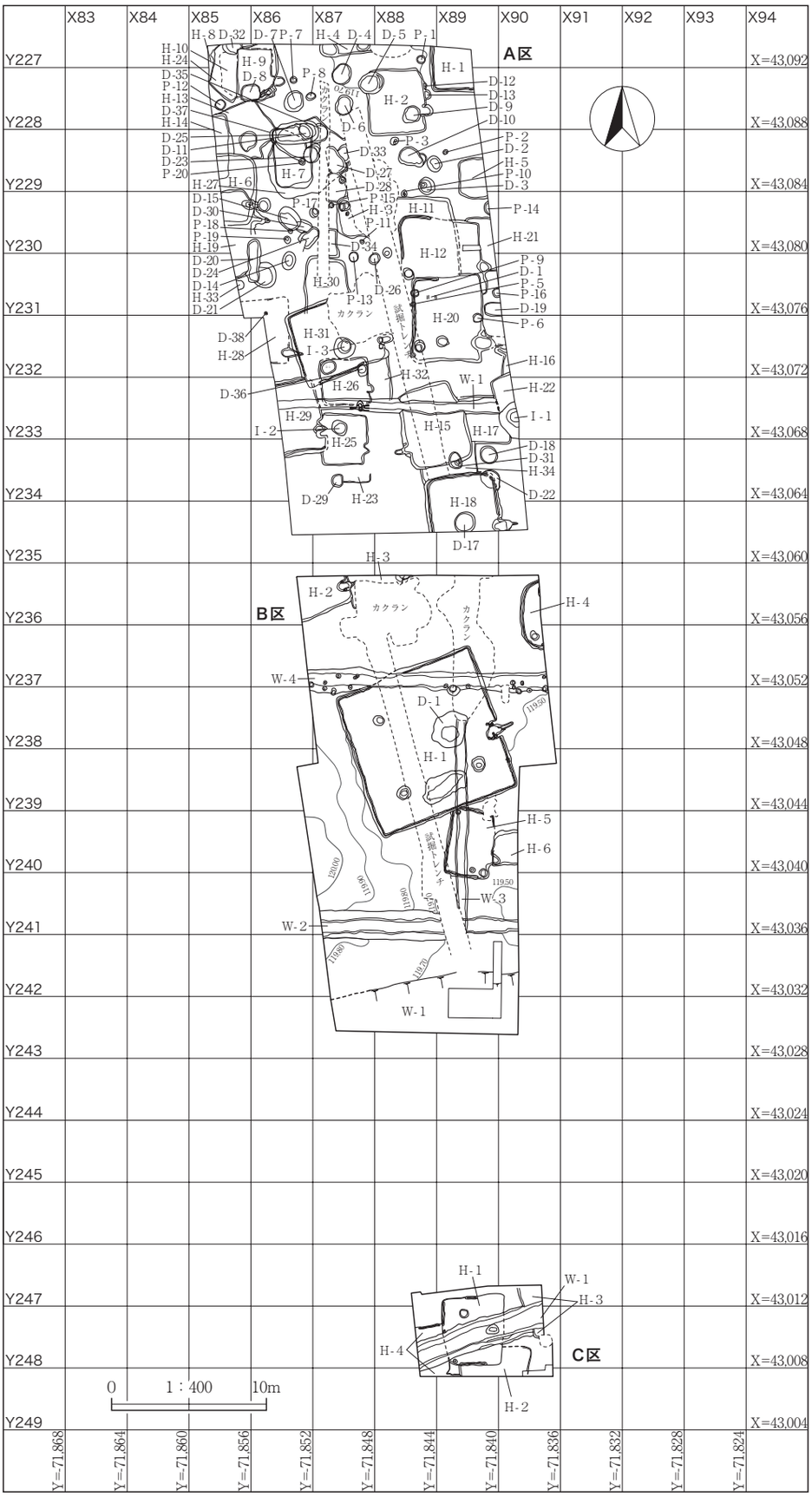


Fig. 5　全体図

oumi60c.indd 8 2014/07/16 11:09:36

Ⅴ　遺構と遺物

１　Ａ区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. ６・23、PL. １・14）

位置　Ｘ 88・89、Ｙ 226・227　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**規模**　東西軸（2.87）ｍ、南北軸（2.96）ｍ、壁現高 0.29 ｍ。調査区北東端において住居跡南西隅部のみ検出であり、大半は調査区外となる。　**面積**　（6.37）㎡　**床面**　比較的平坦で締まりは弱い。　**重複**　無し。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黒褐色土で構築されている。　**出土遺物**　覆土中より土師器坏１点、床面直上より土師器甕２点、砥石１点、こも編石 13 点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から７世紀後半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ６・24、PL. １・14）

位置　Ｘ 87・88、Ｙ 227・228　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**規模**　東西軸 3.84 ｍ、南北軸 4.33 ｍ、壁現高 0.27 ｍ。　**面積**　13.82 ㎡　**床面**　凹凸があり、締まりがやや強い。　**重複**　Ｄ－５・９・12・13 と重複し、新旧関係はＤ－12・13→本遺構→Ｄ－５・９である。　**カマド**　東壁南寄りに１基検出。確認長 0.78 ｍ、燃焼部幅 0.73 ｍ、袖の残存長は右側（南）が 0.22 ｍ、左側（北）が 0.23 ｍを測り、両袖は砂岩製の袖石を芯材として構築されている。煙道は壁外に 0.45 ｍ突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口から南西方向に焼土粒を含む灰層が床面直上に堆積している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　カマド付近を中心として、須恵器高台付坏が６点（１・３～７）、須恵器坏が１点（２）、須恵器甕が１点（８）、土師器甕が１点（９）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ７、PL. ２）

位置　Ｘ 87、Ｙ 230　**主軸方向**　Ｎ－84°－Ｅ　**規模**　東西軸（1.90）ｍ、南北軸（2.84）ｍ、壁現高 0.26 ｍ。住居東半は攪乱により削平されている。　**面積**　（2.04）㎡　**床面**　凹凸があり、締まりがやや弱い。　**重複**　無し。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　北西側に長軸 0.71 ｍ、短軸 0.64 ｍ、深さ 0.47 ｍを測る楕円形の貯蔵穴が検出された。　**柱穴**　長軸 0.25 ｍ、短軸 0.21 ｍ、深さ 0.17 ｍを測るピット状の掘り込みが１基検出しているが、柱穴かは不明。　**掘り方**　As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　破片を含め、出土遺物は無い。　**時期**　遺物出土および重複遺構がないために、本遺構の帰属時期は不明である。

Ｈ－４号住居跡（Fig. ７、PL. ２）

位置　Ｘ 87・88、Ｙ 226・227　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西軸（3.42）ｍ、南北軸（0.38）ｍ、壁現高 0.72 ｍ。調査区北端において南端部のみ検出であり、北半は調査区外となる。　**面積**　（1.56）㎡　**床面**　硬質な地山硬化床。　**重複**　無し。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　長軸 1.24 ｍ、短軸 0.81 ｍ、深さ 0.14 ｍ、長軸 0.82 ｍ、短軸 0.45 ｍ、深さ 0.16 ｍをそれぞれ測る楕円形の浅い掘り込みが住居南側東西隅に１基ずつ検出しているが、貯蔵穴かは不明。　**柱穴**　検出されず。　**出土遺物**　図示し得た遺物はない。　**時期**　本遺構の帰属時期は不明である。

Ｈ－５号住居跡（Fig. ７・24、PL. ２・14）

位置　Ｘ 89、Ｙ 228・229　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西軸（1.92）ｍ、南北軸 2.68 ｍ、壁現高 0.47 ｍ。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（3.71）㎡　**床面**　平坦で締まりがやや弱い。　**重複**　無し。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　床面直上（２）と覆土中（１）から土師器坏が１点ずつ、計２点出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から６世紀後半～７世紀初頭と想定される。

oumi60c.indd　9　　2014/07/16　11:09:36

Ｈ－６号住居跡（Fig. 7 ・24、PL. 2 ・14）

位置　X 85・86、Y 228・229　**主軸方向**　N － 90°－ E　**規模**　東西軸（2.61）m、南北軸 4.65 m、壁現高 0.27 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。　**面積**　（8.49）㎡　**床面**　若干の凹凸があり、部分的に床面硬化がみられる。　**重複**　H － 13・14・19 と重複し、新旧関係はH － 13 →H － 14 →H － 19 →本遺構である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　東壁面下位より土師質坏２点（１・２）、床面直上より土師質高台付坏（４）、平瓦（５）、覆土中より土師質坏（３）が出土している。本遺構から出土している土師質坏はいずれも、所謂「かわらけ状の坏」である。　**備考**　本遺構は、床面から 10 ～ 15cm の間層を挟んで、天仁元年（1108）に浅間山から降下した As-B 軽石一次堆積層を覆土としている。As-B 軽石は赤灰色火山灰層と軽石層からなり、As-Kk 層は確認されていない。住居中央には南北幅 1.09 m、東西幅（0.73）m の範囲で、よく硬化した炉状の火床面が検出している。焼土層上は緻密で軟質な白色灰層が全体を覆っており、内から牛と考えられる大型哺乳動物の小骨片が少量出土している。この白色灰を覆うように黒色灰が堆積し、上位に住居覆土が直接堆積している。　**時期**　覆土堆積物および出土遺物の傾向から 11 世紀後半と想定される。

Ｈ－７号住居跡（Fig. 8 ・24、PL. 3 ・14）

位置　X 86、Y 227・228　**主軸方向**　N － 3°－ W　**規模**　東西軸 2.57 m、南北軸 3.94 m、壁現高 0.09 m。**面積**　8.30 ㎡　**床面**　平坦で締まりがやや弱い。　**重複**　D － 11・23・25・35・37、H － 27 と重複し、新旧関係はD － 37 →H － 27 →D － 35 →D － 23・34 →本遺構→D － 11 である。　**カマド**　北壁東寄りに 1 基検出。確認長 0.59 m、燃焼部幅 0.40 m、煙道は壁外に 0.08 m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口から南西方向に灰層が床面直上に堆積している。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂質土ブロックを含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　南壁付近床面直上より、土師質坏１点（１）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀台と想定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig. 9 ・24、PL. 3 ・14）

位置　X 85、Y 226・227　**主軸方向**　N － 90°－ E　**規模**　東西軸（2.32）m、南北軸（0.49）m、壁現高 0.28 m。調査区北西端部での検出であり、大半は調査区外となる。　**面積**　（0.80）㎡　**床面**　平坦で締まりがやや強い。　**重複**　H － 24 と重複し、新旧関係はH － 24 →本遺構である。　**カマド**　東壁に 1 基検出。確認長 0.58 m、燃焼部幅（0.38）m、煙道は壁外に 0.37 m突出している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。**掘り方**　黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　カマド覆土中より、土師質高台付坏１点（１）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

Ｈ－９号住居跡（Fig. 9 ・24、PL. 3 ・14）

位置　X 85・86、Y 226・227　**主軸方向**　N － 90°－ E　**規模**　東西軸 2.35 m、南北軸 3.18 m、壁現高 0.22 m。　**面積**　6.40 ㎡　**床面**　平坦で締まりがやや強い。　**重複**　H － 10・24、D － 8 ・32 と重複し、新旧関係はH － 24 →H － 10 →D － 8 ・32 →本遺構である。　**カマド**　東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.03 m、燃焼部幅 0.64 mを測り、煙道は壁外に 0.77 m突出している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　カマド崩落土中より灰釉陶器皿（１）、土師質高台付坏（２・３）、床面直上より煤が付着した磨石が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－ 10 号住居跡（Fig. 9 ・25、PL. 3 ・ 4 ・14）

位置　X 85・86、Y 226・227　**主軸方向**　N － 90°－ E　**規模**　東西軸 3.82 m、南北軸 3.71 m、壁現高 0.18 m。　**面積**　（11.71）㎡　**床面**　比較的平坦で、やや締まる。　**重複**　H － 9・24、D － 8 ・32 と重複し、新旧関係はH － 24 →本遺構→D － 8 ・32 →H － 9 である。　**カマド**　検出していないが、貯蔵穴の検出状況から判断

oumi60c.indd　10　　2014/07/16　11:09:36

すると、東壁南寄りに存在した可能性が高い。　**貯蔵穴**　東壁南寄りに１基検出。長軸 0.99 m、短軸 0.41 m、深さ 0.36 mを測る。カマド崩落土の流れ込みと思われる灰層が堆積し、部分的に被熱箇所がある。　**柱穴**　検出せず。　**掘り方**　As-C 軽石を少量含んだ黒褐色土で構築される。　**出土遺物**　床面直上から須恵器高台付坏（１）、羽釜（２）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－ 11 号住居跡（Fig.10・25、PL. ４・14）

位置　X 88・89、Y 229・230　**主軸方向**　N － 94°－ E　**規模**　東西軸（5.07）m、南北軸（7.59）m、壁現高 0.35 m。　**面積**　（19.06）㎡　**床面**　全体的によく硬化している。　**重複**　Ｈ－ 12・20 と重複し、新旧関係はＨ－ 12 →本遺構→Ｈ－ 20 である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　南西側から長軸 0.75 m、短軸 0.67 m、深さ 0.27 m、平面楕円形、西側から長軸 0.66 m、短軸 0.58 m、深さ 0.38 m、平面楕円形の計２基が検出されている。**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　As-C 軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　遺物は住居南半に集中して出土した。１・２は土師質坏で所謂「かわらけ状の坏」、３は土師質坏で底部が欠損している。４は土師質坏底部を転用した紡錘車、５は鉄製鐔で、円形の耳と切羽内の間は十字に繋がれており、錆により上部が変形している。破損した耳の内外のみに緑青が付着している。６は刀子で両端が欠損している。７は椀形鍛冶滓である。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀台と想定される。

Ｈ－ 12 号住居跡（Fig.10・11・25、PL. ４・14）

位置　X 88・89、Y 229・230　**主軸方向**　N － 90°－ E　**規模**　東西軸（5.77）m、南北軸 5.14 m、壁現高 0.26 m。　**面積**　（18.83）㎡　**床面**　カマド前を中心に硬化している。　**重複**　Ｈ－ 11・20・21 と重複し、新旧関係はＨ－ 21 →本遺構→Ｈ－ 11 →Ｈ－ 20 である。　**カマド**　東壁南寄りに１基検出。確認長 0.92 m、燃焼部幅 0.89 m、煙道は壁外に 0.61 m突出している。天井部は完全に崩落しているが、燃焼部内壁の焼土化や灰層が弱く、焚口外の崩落土に焼土粒と灰が僅かに混入するのみである。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックと As-C 軽石粒を少量含む暗褐色土により構築されている。　**出土遺物**　カマドより須恵器高台付坏（１）、内面黒色処理須恵器坏（２）、羽釜（３）の計３点が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

Ｈ－ 13 号住居跡（Fig.11・25、PL. ４・14）

位置　X 85・86、Y 227・228　**主軸方向**　N － 145°－ E　**規模**　東西軸（3.20）m、南北軸 3.52 m、壁現高 0.14 m。**面積**　（7.86）㎡　**床面**　全体的によく硬化している。　**重複**　Ｈ－６・７・10・14、Ｄ－８・37 と重複し、新旧関係は本遺構→Ｄ－ 37 →Ｈ－ 14 →Ｈ－ 10 →Ｄ－８→Ｈ－７→Ｈ－６である。　**カマド**　南壁中央に１基検出。確認長 0.75 m、燃焼部幅 0.66 m、煙道は壁外に 0.50 m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口から北西方向に灰層の堆積が確認される。燃焼部壁構築部材として軒平瓦が使用されている。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄褐色砂粒ブロックを微量含む暗褐色土により構築されている。　**出土遺物**　カマド覆土より須恵器高台付坏（１）、覆土より土器転用紡錘車片（２）、カマド構築部材として軒平瓦（３）が出土している。この軒平瓦は上野国分寺創建期Ⅱに該当する偏行唐草文Ｐ 010 である。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－ 14 号住居跡（Fig.11、PL. ４）

位置　X 85、Y 226・227　**主軸方向**　N － 94°－ E　**規模**　東西軸（1.22）m、南北軸（4.22）m、壁現高 0.09 m。調査区西壁において東半部のみ検出であり、西半は調査区外となる。　**面積**　（3.09）㎡　**床面**　やや凹凸があり、硬化は弱い。　**重複**　Ｈ－６・13 と重複し、新旧関係はＨ－ 13 →本遺構→Ｈ－６である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　細かい凹凸面に少量の黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　図示し得た遺物はない。　**時期**　重複関係から判断すると、10 世紀末～ 11 世紀前半と想定される。

oumi60c.indd　11　　2014/07/16　11:09:36

Ｈ－15号住居跡（Fig.12・25、PL. 4 ・ 5 ・14）

位置　X 88・89、Y 232・233　**主軸方向**　N － 104°－W　**規模**　東西軸 4.37 m、南北軸 5.41 m、壁現高 0.41 m。　**面積**　18.19 ㎡　**床面**　全体的にやや硬化している。　**重複**　W － 1 、H － 17・34、D － 31 と重複し、新旧関係はW － 1 、H － 34 →本遺構→H － 17 →D － 31 である。　**カマド**　西壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.11 m、燃焼部幅 0.61 m、煙道は壁外に 0.60 m突出している。天井部は完全に崩落しており、燃焼部側壁は被熱により、よく焼土化している。焚口外部の灰層の流出は少ない。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C 軽石粒を少量含む暗褐色土により構築される。　**出土遺物**　床面直上より須恵器高台付坏（1）、こも編石（2）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀初頭と想定される。

Ｈ－16号住居跡（Fig.13、PL. 5）

位置　X 89・90、Y 231　**主軸方向**　N － 9°－W　**規模**　東西軸（0.56）m、南北軸（1.75）m、壁現高 0.45 m。調査区東壁においてカマドおよび西壁付近のみの検出であり、大半は調査区外となる。　**面積**　（0.64）㎡　**床面**　やや硬化が弱い。　**重複**　H － 22 と重複し、新旧関係は本遺構→H － 22 である。　**カマド**　西壁に 1 基検出。確認長 0.92 m、燃焼部幅 0.47 m、煙道は壁外に 0.74 m突出している。両側壁は３個ずつ、天井部は４個の粗粒安山岩を構築部材として使用している。燃焼部の焼土　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず　**掘り方**　浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを充填して構築されている。　**出土遺物**　小破片のみで、図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向から７世紀後半から８世紀初頭と想定される。

Ｈ－17号住居跡（Fig.12・25、PL. 5 ・14）

位置　X 89・90、Y 232・233　**主軸方向**　N － 83°－ E　**規模**　東西軸（3.52）m、南北軸 3.17 m、壁現高 0.24 m。　**面積**　（6.51）㎡　**床面**　平坦で硬化が弱い。　**重複**　H － 15・22・34、I － 1 、W － 1 と重複し、新旧関係はH － 34、W － 1 →H － 15 →本遺構→H － 22 → I － 1 である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを充填して構築されている。　**出土遺物**　覆土中より須恵器坏（1）、床面直上より土師質坏（2）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

Ｈ－18号住居跡（Fig.13・14・25、PL. 5 ・14）

位置　X 88 ～ 90、Y 233・234　**主軸方向**　N － 82°－ E　**規模**　東西軸 4.88 m、南北軸（4.06）m、壁現高 0.36 m。調査区南壁において北半のみ検出であり、住居跡南壁付近は調査区外となる。　**面積**　（14.90）㎡　**床面**　全体的によく硬化している。　**重複**　H － 34、D － 17・22 と重複し、新旧関係はH － 34 →本遺構→D － 17・22 である。　**カマド**　東壁に 1 基検出。確認長 1.66 m、燃焼部幅 0.74 m、煙道は壁外に 0.88 m突出している。燃焼部奥壁が急激に立ち上がり、煙道の掘り込みは浅い。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロック、As-C 軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。　**出土遺物**　覆土中から須恵器盤（1）、土師器坏（2 ～ 4）、土師器埦（5）、こも編石（6）が出土している。　**時期**　出土遺物に若干の時期差が窺われ、７世紀半ばから８世紀中葉と想定される。

Ｈ－19号住居跡（Fig.14・26、PL. 6 ・14）

位置　X 85・86、Y 228 ～ 230　**主軸方向**　N － 81°－ E　**規模**　東西軸（1.93）m、南北軸（5.73）m、壁現高 0.36 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。　**面積**　（8.63）㎡　**床面**　カマド付近と住居中央部のみ硬化している。　**重複**　H － 6 、D － 16・20・21 と重複し、新旧関係はD － 21 →本遺構→D － 16・20 →H － 6 である。　**カマド**　東壁北側に２基検出。新旧関係は南側が新しく、北側が古い。北カマドは軸方向 N － 87°－ E、確認長 0.28 m、燃焼部幅 0.42 m、煙道先端はD － 16 と重複しており、突出部の残存値は 0.14 m である。火床部に焼土層が確認されるものの、灰層および住居内への崩落土の流れ込みは認められな

oumi60c.indd　12　　2014/07/16　11:09:36

い。南カマドは軸方向Ｎ－103°－Ｅ、確認長1.36ｍ、燃焼部幅0.76ｍ、煙道は壁外に0.66ｍ突出している。向かって右手前と左奥壁に構築部材と思われる粗粒安山岩が各１点出土しており、灰層が焚口から住居内へ北西方向に堆積している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　As-C軽石粒を少量含む暗褐色土により構築されている。　**出土遺物**　所謂、「かわらけ状の坏」が３点、カマド覆土から、構築部材と考えられる円筒埴輪片が１点出土している。土師質坏は１がカマド、２・３が住居覆土、４がカマド覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から11世紀台と想定される。

Ｈ－20号住居跡（Fig.10・11・26、PL.４・６・14）

位置　Ｘ88～91、Ｙ230・231　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西軸4.71ｍ、南北軸5.80ｍ、壁現高0.28ｍ。　**面積**　22.54㎡　**床面**　全体的によく硬化している。　**重複**　Ｈ－11・12・16、Ｄ－１、Ｐ－５・６・９と重複し、新旧関係はＨ－16→Ｈ－12→Ｈ－11→本遺構→Ｐ－５・６・９、Ｄ－１である。　**カマド**　東壁南寄りに１基検出。確認長2.04ｍ、燃焼部幅0.96ｍ、煙道は壁外に1.29ｍ突出している。構築部材として右奥壁に平瓦と粗粒安山岩、煙道にかけて丸瓦が各１点出土している。　**貯蔵穴**　住居中央南寄りから長軸0.81ｍ、短軸0.69ｍ、深さ0.52ｍ、平面楕円形、南西隅から長軸0.79ｍ、短軸0.67ｍ、深さ0.55ｍ、平面楕円形の計２基が検出されている。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸にAs-C軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　土師質坏（１～３）、手捏土器（４）、丸瓦（５）、平瓦（６・７）、Ｔ字状鉄製品（８）、磨石（９）が出土している。出土位置は床面直上（１）、カマド（５～７）、貯蔵穴（２・８）、覆土（３・４・９）である。　**時期**　出土遺物の傾向から11世紀台と想定される。

Ｈ－21号住居跡（Fig.10・26、PL.６・15）

位置　Ｘ89・90、Ｙ229・230　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**規模**　東西軸（2.06）ｍ、南北軸（3.45）ｍ、壁現高0.27ｍ。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（2.76）㎡　**床面**　住居中央部がやや硬化している。　**重複**　Ｈ－12と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－12である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土で構築されている。　**出土遺物**　床面直上から須恵器高台付坏（１）が１点出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－22号住居跡（Fig.13、PL.６）

位置　Ｘ89・90、Ｙ232・233　**主軸方向**　Ｎ－105°－Ｅ　**規模**　東西軸（1.49）ｍ、南北軸（2.40）ｍ、壁現高0.59ｍ。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（2.22）㎡　**床面**　全体的によく硬化している。　**重複**　Ｈ－16、Ｗ－１、Ｉ－１と重複し、新旧関係はＷ－１→Ｈ－16→本遺構→Ｉ－１である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸面に黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　小破片のみで図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀台と想定される。

Ｈ－23号住居跡（Fig.15・26、PL.６・15）

位置　Ｘ87、Ｙ233　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西軸（2.17）ｍ、南北軸（1.19）ｍ、壁現高0.12ｍ。表土掘削時に既に一部床面が露出している状況であり、残存部のみの調査となった。　**面積**　（1.71）㎡　**床面**　弱い硬化面が認められる。　**重複**　Ｈ－25、Ｄ－29と重複し、新旧関係はＨ－25→本遺構→Ｄ－29である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックを少量、As-C軽石粒を微量含む黒褐色土により構築される。　**出土遺物**　床面直上より須恵器高台付坏（１・２）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

Ｈ－24号住居跡（Fig.９・26、PL.15）

位置　Ｘ85、Ｙ226・227　**主軸方向**　Ｎ－126°－Ｅ　**規模**　東西軸（2.94）ｍ、南北軸（2.73）ｍ、壁現高0.08

oumi60c.indd　13　　2014/07/16　11:09:37

m。　面積　（1.80）㎡　床面　全体的に硬化が弱い。　重複　H－８・９・10、D－32と重複し、新旧関係は本遺構→H－８・10→D－32→H－９である。　カマド　検出されず。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築される。　出土遺物　床面直上より土師器甕（１）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から８世紀前半と想定される。

H－25号住居跡（Fig.15・26、PL.７・15）

位置　X 87、Y 232・233　主軸方向　N－91°－E　規模　東西軸3.03 m、南北軸3.39 m、壁現高0.12 m。　面積　8.57 ㎡　床面　カマド付近のみ硬化がみられる。　重複　H－23・29、I－２と重複し、新旧関係はH－29→本遺構→H－23→I－２である。　カマド　東壁南寄りに１基検出。確認長0.60 m、燃焼部幅0.42 m、煙道は壁外に0.35 m突出している。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　As-C軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。　出土遺物　床面直上から、須恵器高台付坏２点（１・２）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

H－26号住居跡（Fig.16・27、PL.７・15）

位置　X 87、Y 231・232　主軸方向　N－89°－E　規模　東西軸3.38 m、南北軸3.10 m、壁現高0.32 m。　面積　8.47 ㎡　床面　全体的に硬化が弱い。　重複　H－31・32、W－１、D－36と重複し、新旧関係はH－31、W－１→H－32→本遺構→D－36である。　カマド　東壁南寄りに１基検出。確認長0.55 m、燃焼部幅0.57 m、煙道は壁外に0.31 m突出している。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　浅い凹凸面にAs-C軽石を微量含む黒褐色土により構築される。　出土遺物　床面直上より、灰釉陶器埦（１・２）、須恵器坏（３）、羽釜（４・５）、小型の土釜（６）、板状鉄製品（７）、白色碁石状の丸石（８）、磨石（９）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から10世紀半ばと想定される。

H－27号住居跡（Fig.８・27、PL.７）

位置　X 86・87、Y 227～229　主軸方向　N－59°－E　規模　東西軸（5.20）m、南北軸（4.49）m、壁現高0.03 m。　面積　（18.85）㎡　床面　全体的に薄い硬化面が認められる。　重複　H－７、D－11・23・25・27・28・33・35・37、P－20と重複し、新旧関係はD－37→本遺構→D－33・35→D－23・25・27・28、P－20→H－７→D－11である。　カマド　東壁に１基検出。煙道部の大半はトレンチにより削平されている。確認長（0.50）m、燃焼部幅（0.23）m、煙道は壁外に（0.01）m突出している。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　As-C軽石を少量含む黒褐色土により構築される。　出土遺物　カマド付近床面直上より、須恵器高台付坏が出土している（１・２）。　時期　出土遺物の傾向から10世紀台と想定される。

H－28号住居跡（Fig.16・27、PL.７）

位置　X 85・86、Y 226・227　主軸方向　N－90°－E　規模　東西軸（3.21）m、南北軸（4.19）m、壁現高0.20 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。なお、表土掘削時に既にカマド構築材の石が露出している状況であり、一部断面での確認となっている。　面積　（7.00）㎡　床面　部分的に非常に弱い硬化面が認められる。　重複　H－31、D－38と重複し、新旧関係はH－31→本遺構→D－38である。　カマド　東壁南寄りに１基検出。確認長1.41 m、燃焼部幅0.59 m、煙道は壁外に0.90 m突出している。構築部材と思われる粗粒安山岩３点が覆土中より出土している。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　As-C軽石を少量含む暗褐色により構築される。　出土遺物　カマドより須恵器坏（１）、羽釜（２）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から10世紀半ばと想定される。

H－29号住居跡（Fig.15・27、PL.７・15）

位置　X 86～88、Y 232～233　主軸方向　N－97°－E　規模　東西軸（2.97）m、南北軸5.05 m、壁現高0.59 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。　面積　（10.69）㎡　床面　全体的によく硬化している。　重複　H－25・31、W－１と重複し、新旧関係はH－31→本遺構→H－25、W－１である。

oumi60c.indd　14　　2014/07/16　11:09:37

カマド　東壁南寄りに１基検出。確認長0.90 m、燃焼部幅0.58 m、袖の残存長は右側（南）が0.70 m、左（北）が0.40 m、煙道は壁外に0.22 m突出している。煙道の壁面への掘り込みは少ない。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　黒褐色土により構築されている。　出土遺物　床面直上より土師器坏（１～５）、土師器甕（６）、刀子（７）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から８世紀半ばと想定される。

Ｈ－30 号住居跡（Fig.18・28、PL.15）

位置　Ｘ86・87、Ｙ230・231　主軸方向　Ｎ－90°－Ｅ　規模　東西軸（3.06）m、南北軸（4.40）m、壁現高0.19 m。カマドの存在が想定される南東側は、撹乱により削平されている。　面積　（6.57）㎡　床面　やや凹凸があり、硬化は弱い。　重複　Ｈ－31と重複しており、新旧関係はＨ－31→本遺構である。　カマド　検出されず。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを含む黒褐色土を充填して構築されている。　出土遺物　床面直上より灰釉陶器埦（１）、須恵器高台付坏（２）、刀子（３）磨石（４）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

Ｈ－31 号住居跡（Fig.17・28、PL. ８・15）

位置　Ｘ86～88、Ｙ230～232　主軸方向　Ｎ－69°－Ｅ　規模　東西軸（5.80）m、南北軸4.99 m、壁現高0.52 m。検出であり、住居跡中央から北東にかけては撹乱により削平されている。　面積　（16.23）㎡　床面　全体的によく硬化している。　重複　Ｈ－26・28・29・30・32、Ｉ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－29→Ｈ－28・30・32→Ｈ－26→Ｉ－３である。　カマド　東壁南寄りに１基検出。確認長1.01 m、燃焼部幅0.53 m、煙道は壁外に0.69 m突出している。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。　出土遺物　床面直上より土師器坏（１～３）、土師器皿（４）、こも編石（５～７）が出土している。２はやや古相を示す。　時期　出土遺物の傾向から７世紀後半から８世紀初頭と想定される。

Ｈ－32 号住居跡（Fig.18・28、PL. ７・８・15）

位置　Ｘ87・88、Ｙ231・232　主軸方向　Ｎ－178°－Ｅ　規模　東西軸（3.03）m、南北軸（3.58）m、壁現高0.16 m。　面積　（9.81）㎡　床面　カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。　重複　Ｈ－26・31、Ｉ－３、Ｗ－１と重複し、新旧関係はＷ－１、Ｈ－31→本遺構→Ｈ－26→Ｉ－３である。　カマド　南壁西寄りに検出。確認長0.69 m、燃焼部幅0.32 m、煙道は壁外に0.06 m突出している。煙道の壁面への掘り込みは少ない。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　黄色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む黒褐色土により構築されている。　出土遺物　床面直上より土師質高台付坏（１）、砥石（３）磨石（４）、覆土中より土師質坏（２）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

Ｈ－33 号住居跡（Fig.18、PL. ８）

位置　Ｘ85、Ｙ230　主軸方向　Ｎ－78°－Ｅ　　調査区西壁において、カマド煙道部のみ検出であり、大半は調査区外となる。　面積　（0.23）㎡　床面　不明。　重複　無し。　カマド　主軸方向検出長0.44 m、直交幅0.61 m。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　不明。　出土遺物　カマド覆土中より須恵器坏（１）が出土している。　時期　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－34 号住居跡（Fig.12）

位置　Ｘ88・89、Ｙ226・227　主軸方向　Ｎ－６°－Ｗ　規模　東西軸（3.76）m、南北軸（2.31）m、壁現高0.22 m。　面積　（2.90）㎡　床面　やや硬化している。　重複　Ｈ－15・17・18・34、Ｄ－31と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－18→Ｈ－17→Ｈ－15→Ｄ－31である。　カマド　検出されず。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　検出されず。　掘り方　浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。　出土遺物　図示し得た遺物はない。　時期　重複関係から、７世紀後半以前と想定される。

oumi60c.indd　15　　2014/07/16　11:09:37

（2）溝跡

W－1号溝跡（Fig.19、PL. 8）

位置　X 86～90、Y 232　主軸方向　N－89°－E　規模　長さ（14.18 m）　上幅1.06 m　下幅0.66 m　深さ0.57 m　形状等　東西方向に走向し、断面U字状を呈する。　重複　H－15・17・22・26・29・32、I－1と重複している。　新旧関係は、H－29→本遺構→H－15・17・22・26・32、I－1である。　出土遺物　須恵器、土師器、石製品が出土しているが、図示にいたらず。　時期　重複関係から8世紀半ば以降、10世紀以前と考えられる。　備考　通水の痕跡は認めらない。

（3）井戸、土坑、ピット（Fig.19～23、PL. 8・9・15）

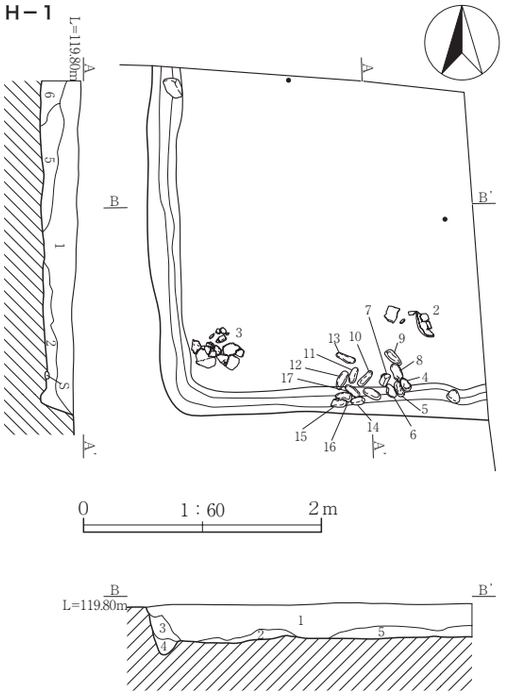
A区では井戸3基、土坑38基、ピット18基を確認している。各計測値については「Tab. 2　A区井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Tab. 2　A区井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
I－1	X 90、Y 232	2.41	(1.24)	(1.70)	(楕円形)
I－2	X 87、Y 232	0.96	0.89	1.18	円形
I－3	X 87、Y 231	1.36	1.34	(1.64)	円形
D－1	X 88・89、Y 230・231	(0.24)	0.60	0.29	(方形)
D－2	X 88・89、Y 228	1.05	0.87	0.21	楕円形
D－3	X 88、Y 228・229	1.10	1.03	0.41	円形
D－4	X 87、Y 226・227	1.38	1.22	0.10	円形
D－5	X 87・88、Y 227	1.67	1.40	0.32	円形
D－6	X 87、Y 227	1.31	1.13	0.37	方形
D－7	X 86、Y 227	1.39	1.23	0.26	円形
D－8	X 85・86、Y 227	1.34	1.05	0.21	長方形
D－9	X 88、Y 227	1.26	1.10	0.11	円形
D－10	X 88、Y 228	1.70	1.20	0.34	不整形
D－11	X 86・87、Y 227・228	1.07	0.77	0.29	(楕円形)
D－12	X 88、Y 227	0.46	0.19	0.21	(不整形)
D－13	X 88、Y 227	0.58	(0.38)	0.19	(方形)
D－14	X 86、Y 229・230	1.18	0.83	0.18	楕円形
D－15	X 86、Y 229	1.62	1.22	0.36	楕円形
D－16	X 86、Y 229	0.88	0.87	0.25	円形
D－17	X 89、Y 234	(1.26)	1.33	0.24	楕円形
D－18	X 89、Y 233	1.18	1.07	0.29	円形
D－19	X 89・90、Y 230・231	(1.15)	0.87	0.50	(長方形)
D－20	X 85・86、Y 229・230	2.80	0.72	0.65	不整長方形
D－21	X 85・86、Y 230	(1.84)	1.64	0.25	(楕円形)
D－22	X 89・90、Y 233	(1.41)	(1.11)	0.41	(楕円形)
D－23	X 86・87、Y 228	1.27	1.02	0.75	不整円形
D－24	X 86・87、Y 229	(1.50)	0.99	0.32	不整長方形
D－25	X 86・87、Y 227・228	2.75	1.46	0.73	長方形
D－26	X 87・88、Y 229・230	0.78	0.65	0.34	円形
D－27	X 87、Y 228	(1.81)	(1.11)	0.29	(長方形)
D－28	X 87、Y 228・229	(1.90)	(1.43)	0.25	(長方形)
D－29	X 87、Y 232	0.83	0.74	0.33	円形
D－30	X 86、Y 229	(0.71)	0.83	0.30	(楕円形)
D－31	X 89、Y 233	1.10	0.83	0.40	楕円形
D－32	X 85、Y 226	1.27	0.72	(0.12)	(楕円形)
D－33	X 87、Y 228	(1.00)	1.01	0.29	(楕円形)
D－34	X 87、Y 229・230	1.86	(0.53)	0.24	(長方形)
D－35	X 86・87、Y 227・228	(1.34)	(1.12)	0.19	(楕円形)
D－36	X 87、Y 231	0.75	0.64	0.57	円形
D－37	X 86、Y 228	(2.94)	(1.30)	(0.40)	(楕円形)
D－38	X 86、Y 230	(0.19)	(0.18)	(0.11)	(方形)
P－1	X 86、Y 226	0.57	0.54	0.40	円形
P－2	X 89、Y 228	0.35	0.30	0.07	円形
P－3	X 88、Y 228	0.52	0.49	0.25	円形
P－4	欠　番				
P－5	X 88、Y 230	0.32	0.31	0.13	円形
P－6	X 89、Y 230・231	0.64	0.58	0.41	円形
P－7	X 86・87、Y 227	0.50	0.46	0.17	円形
P－8	X 86、Y 227	0.64	0.46	0.11	楕円形
P－9	X 88、Y 230	0.53	0.46	0.33	円形
P－10	X 88、Y 228・229	0.28	0.27	0.27	楕円形
P－11	X 87、Y 229	0.32	(0.28)	0.18	円形
P－12	X 85、Y 227	0.70	0.69	0.08	円形
P－13	X 87、Y 229・230	0.64	0.62	0.14	円形
P－14	X 89、Y 229	(0.91)	(0.32)	0.38	(楕円形)
P－15	X 87、Y 229	0.33	0.33	0.12	楕円形
P－16	X 89、Y 230	0.61	(0.43)	0.40	方形
P－17	X 86・87、Y 229	0.61	0.60	0.59	円形
P－18	X 86、Y 229	0.29	0.26	0.20	円形
P－19	X 86、Y 229	0.48	0.40	0.26	楕円形

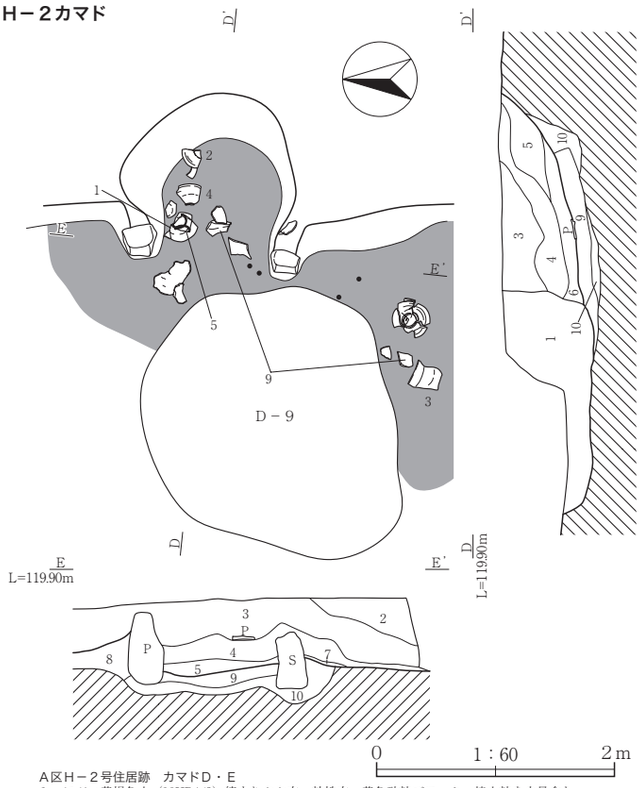
oumi60c.indd　16　　2014/07/16　11:09:37

H－1



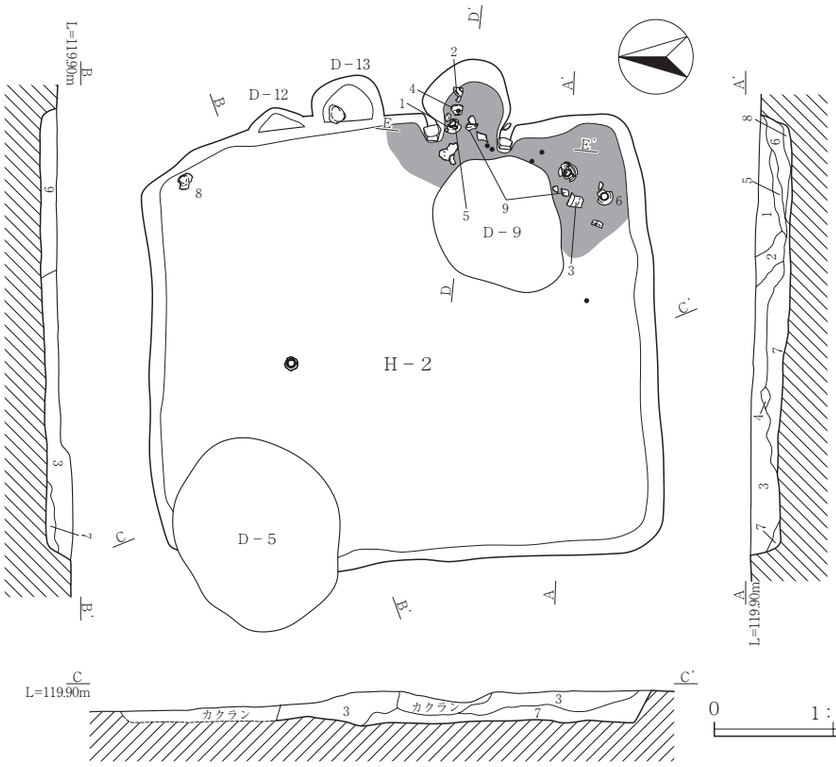
A区H－１号住居跡　A・B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒をやや多く、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む。
4　にぶい褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂質土をやや多く含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロック、焼土を少量含む。
6　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性やや有、炭化物をやや多く、褐色粘質土ブロックを微量含む。

H－2カマド



A区H－２号住居跡　カマドD・E
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒ブロック、焼土粒を少量含む。
2　褐色土（10YR4/4）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロック、焼土粒を多く含む。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロック、焼土粒を少量含む。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、焼土粒、粘土ブロック、灰を主体とする。
5　褐色土（7.5YR4/3）締まり有、粘性やや有、焼土粒・ブロックをやや多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、灰層。
7　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、掻き出された外側の灰溜まり。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性強い、粘質土を主体とし、黄色砂を少量含むカマド袖部。
9　褐色土（7.5YR4/3）締まりやや強い、粘性やや有、よく焼土化した火床面。
10　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂ブロックを少量含む。

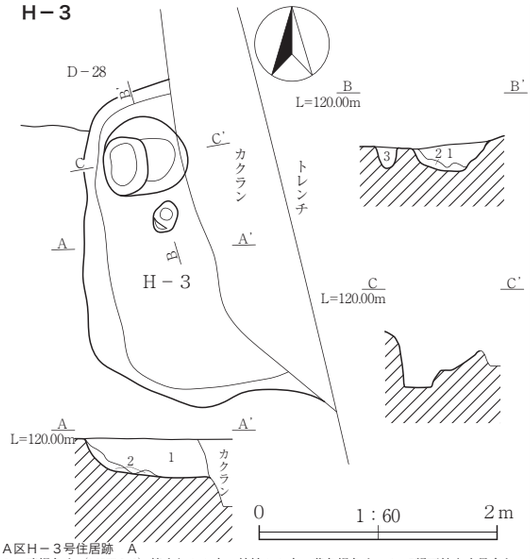
H－2



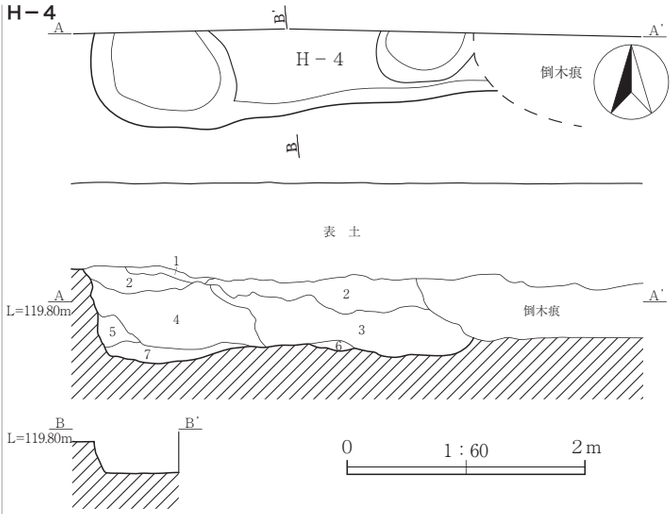
A区H－２号住居跡　A・B・C
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒をやや多く、Hr-FAブロック、焼土を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロック、As-C軽石粒をやや多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒をやや多く、焼土、炭化物を少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性やや有、硬化した３層のブロックを主体とする。
5　明褐色土（7.5YR5/6）締まりやや有、粘性有、焼土ブロック、褐色粘質土をやや多く、As-C軽石粒を少量含む。
6　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや有、粘性やや有、焼土、炭化物を少量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有、Hr-FAブロック、黒色土ブロックを少量、As-C軽石粒を微量含む。
8　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を主体とし、焼土を微量含む。

Fig.6　A区H－１・２号住居跡

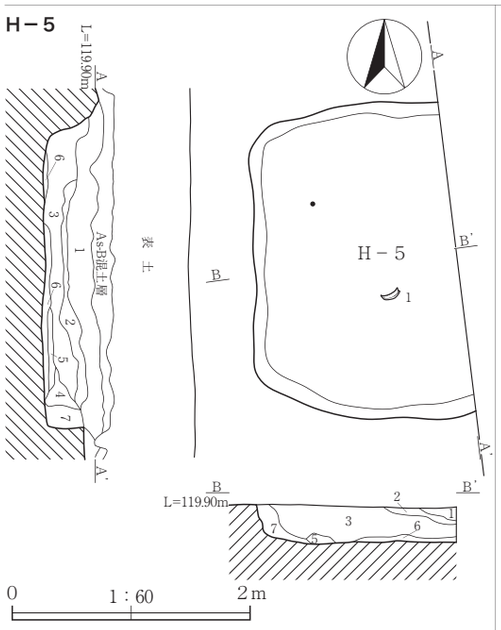
oumi60c.indd　17　　2014/07/16　11:09:38



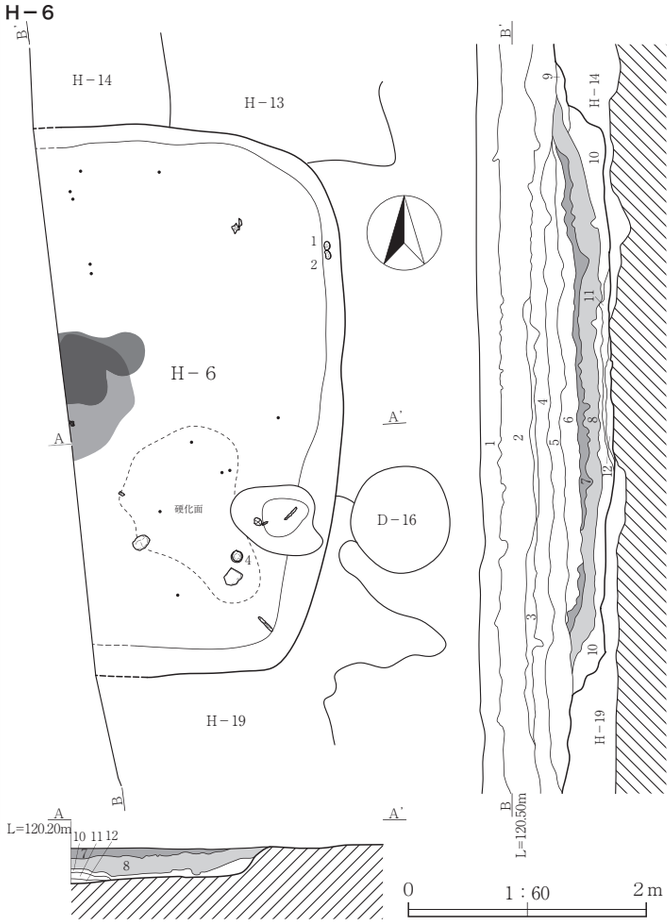
A区H－３号住居跡　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄色褐色土、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、炭化物少量、As-C軽石粒微量含む。
A区H－３号住居跡　B・C
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂粒ブロックをやや多く、焼土ブロックを少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂粒を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄色砂粒を少量含む。



A区H－４号住居跡　A
1　灰黄褐色土（10YR6/2）締まりやや強い、粘性やや有、As-B軽石粒を多く含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒および黄褐色砂粒ブロックを少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒および黄褐色砂粒ブロックをやや多く含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂粒ブロックを少量含む。
6　黒色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、炭化物を多く、焼土を少量含む。
7　黒褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂粒ブロックをやや多く含む。



A区H－５号住居跡　A・B
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性やや有、As-C軽石粒を少量、Hr-FAを微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、Hr-FAブロックを少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱い、粘性やや有、As-C軽石粒、炭化物、Hr-FAを少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有、炭化物を少量、As-C軽石粒を微量含む。
5　黒色土（10YR2/2）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を多く、焼土を少量含む。
6　黒褐色土（10YR2/3）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂粒ブロックをやや多く含む。
7　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、黄褐色砂粒ブロックをやや多く、As-C軽石粒を微量含む。



A区H－５号住居跡　A・B
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、造成土層。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや強い、旧表土層。
3　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、砕石等混入した撹乱土層。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや強い、白色粒をやや多く、As-B軽石粒を少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-B軽石混土層。軽石粒をやや多く含む。
6　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、As-B軽石混土層。軽石粒を多く、赤灰色火山灰ブロックを少量含む。
7　赤灰色土（2.5YR5/1）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石１次堆積層。軽石層上位の火山灰層。
8　黒褐～黄灰色土（2.5Y3/1～4/1）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石１次堆積層。最下位に青灰色の火山灰層が極薄く堆積する。
9　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、10層を主体として８層を微量含む崩落土層。
10　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや強い、軽石層直下、床面直上の覆土層。混入物は少ない。
11　黒色土（10YR2/1）締まりやや弱い、粘性弱い、火床面を覆う黒色灰層。
12　褐灰色土（10YR6/1）締まり弱い、粘性弱い、火床面を直接覆う白色灰層。軟質。

Fig.7　A区H－３・４・５・６号住居跡

oumi60c.indd　18　　2014/07/16　11:09:39

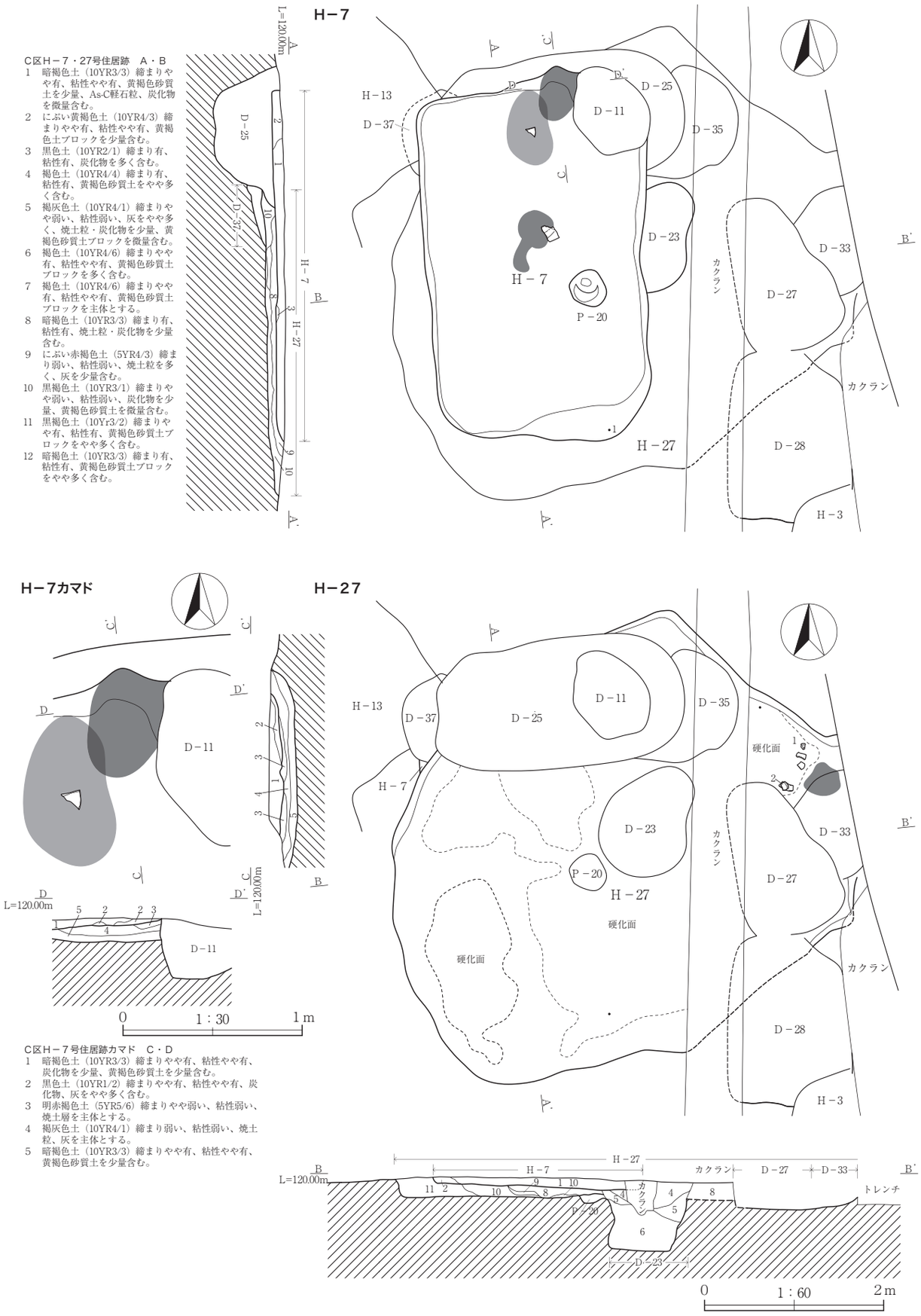
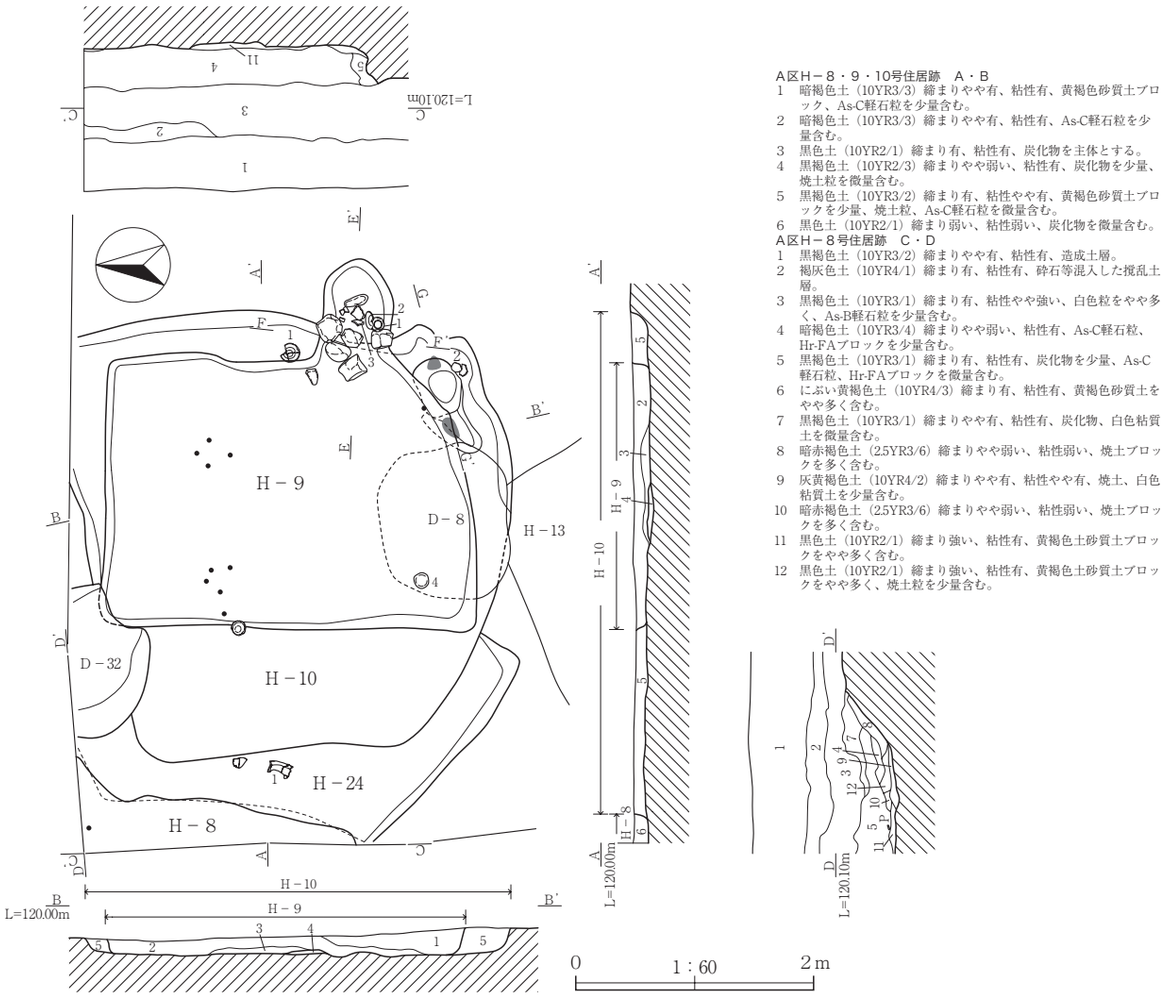


Fig.8　A区H－7・27号住居跡

oumi60c.indd　19　　2014/07/16　11:09:39

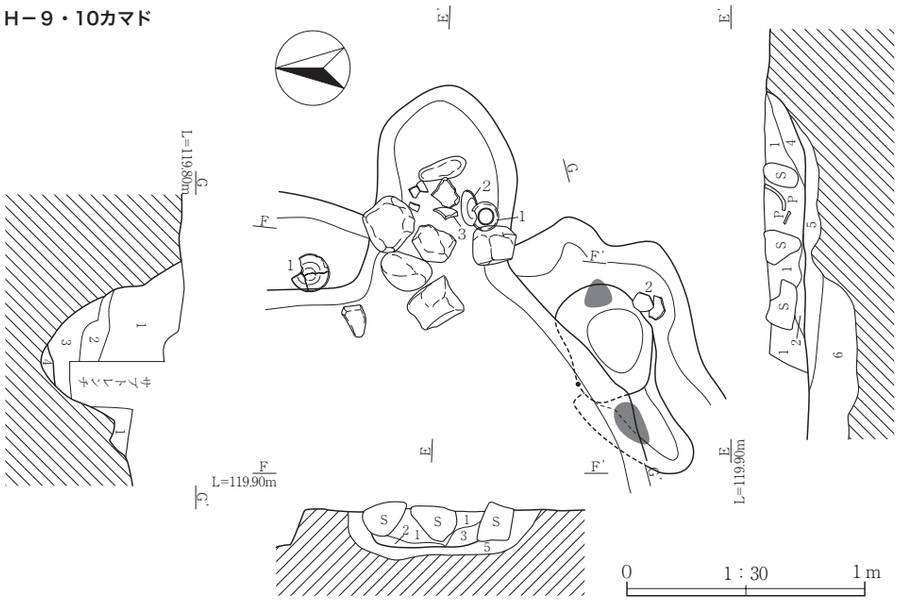
H－8・9・10・24



A区H－８・９・10号住居跡　A・B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土ブロック、As-C軽石粒を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
3　黒色土（10YR2/1）締まり有、粘性有、炭化物を主体とする。
4　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱い、粘性有、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロックを少量、焼土粒、As-C軽石粒を微量含む。
6　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を微量含む。

A区H－８号住居跡　C・D
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、造成土層。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、砕石等混入した撹乱土層。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや強い、白色粒をやや多く、As-B軽石粒を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱い、粘性有、As-C軽石粒、Hr-FAブロックを少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、炭化物を少量、As-C軽石粒、Hr-FAブロックを微量含む。
6　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土をやや多く含む。
7　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性有、炭化物、白色粘質土を微量含む。
8　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土ブロックを多く含む。
9　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性やや有、焼土、白色粘質土を少量含む。
10　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土ブロックを多く含む。
11　黒色土（10YR2/1）締まり強い、粘性有、黄褐色土砂質土ブロックをやや多く含む。
12　黒色土（10YR2/1）締まり強い、粘性有、黄褐色土砂質土ブロックをやや多く、焼土粒を少量含む。

H－9・10カマド



A区H－９号住居跡カマド　E・F
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、焼土粒、炭化物を少量含む。
2　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物、焼土粒、灰を多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を多く含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土粒を微量含む。
5　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや有、粘性有、焼土粒を微量含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、黄色砂粒ブロックを少量含む。

A区H－10号住居跡カマド　G
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土をやや多く、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、灰をやや多く、黄褐色砂質土を少量含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、灰を主体とする。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。

Fig.9　A区H－８・９・10・24号住居跡

oumi60c.indd　20　　2014/07/16　11:09:40

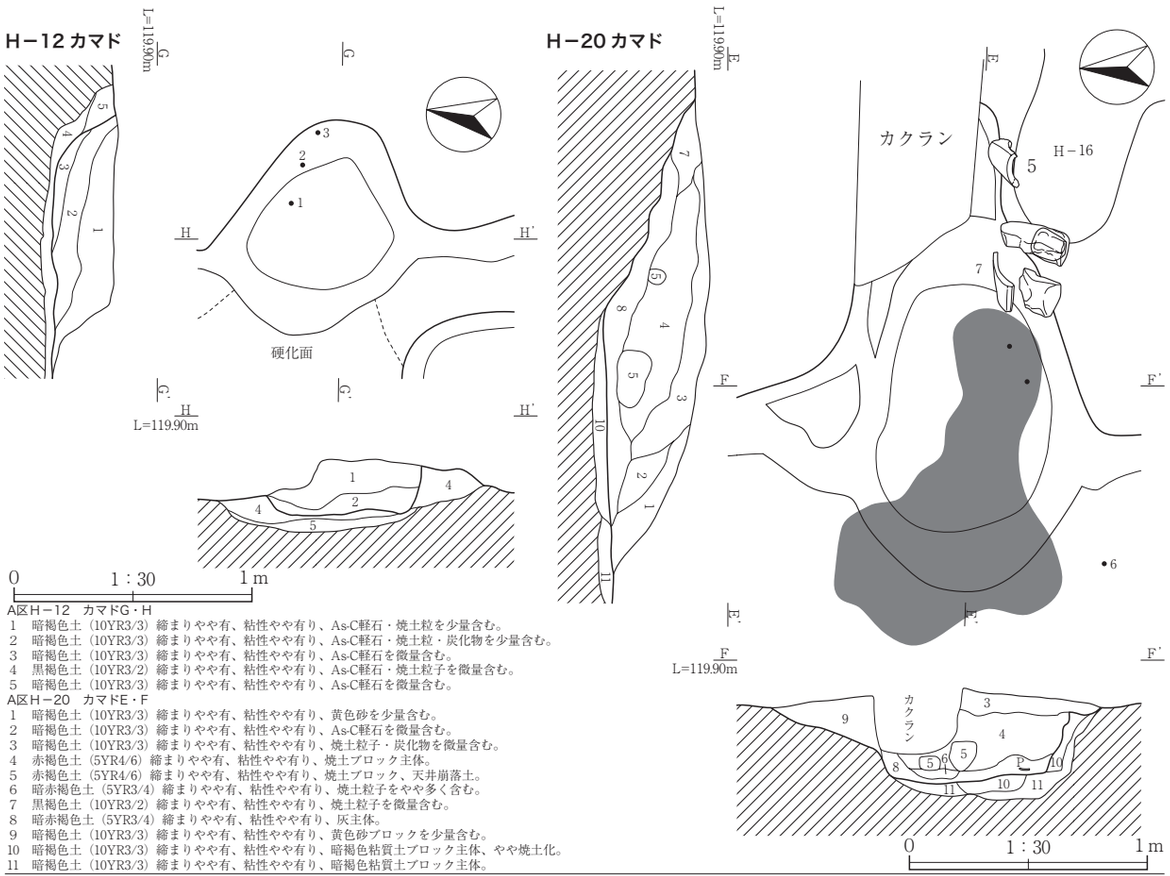
A区Ｈ－11・12・20・21号住居跡、Ｄ－１号土坑　Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石混土主体。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土・灰を少量、灰白色粘質土粒を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土・灰白色粘質土粒を少量含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや有、粘性やや有り、灰・炭化材主体、焼土粒を少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、灰を少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を少量含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性やや有り、黄褐色粘質土ブロック主体、焼土粒を少量含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、黄褐色砂質土を少量含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、黄褐色砂質土・焼土粒・As-C軽石を微量含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-B軽石混土を少量含む。
11　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒を少量含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒を多く含む。
13　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を微量含む。
14　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒を少量含む。
15　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、炭化物を少量、灰を微量含む。
16　灰白色土（10Y7/1）締まり弱い、粘性弱い、灰主体。
17　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を少量、炭化物を微量含む。
18　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石をやや少量含む。
19　表土層
20　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-B混土層。
21　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石をやや多く含む。
22　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒をやや多く含む。
23　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒子・炭化物を少量含む。
24　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒を微量含む。

A区Ｈ－11号住居跡、Ｄ－１・２号土坑　Ｉ・Ｊ
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・黄色砂質土を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・黄色砂質土を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒を微量含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性やや有り、灰・焼土ブロック主体。
5　黄褐色土（10YR5/6）締まりやや有、粘性やや有り、黄色砂質土主体。

A区Ｈ－20号住居跡、Ｄ－１・２号土坑　Ｋ・Ｌ
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒子・炭化物を少量含む。

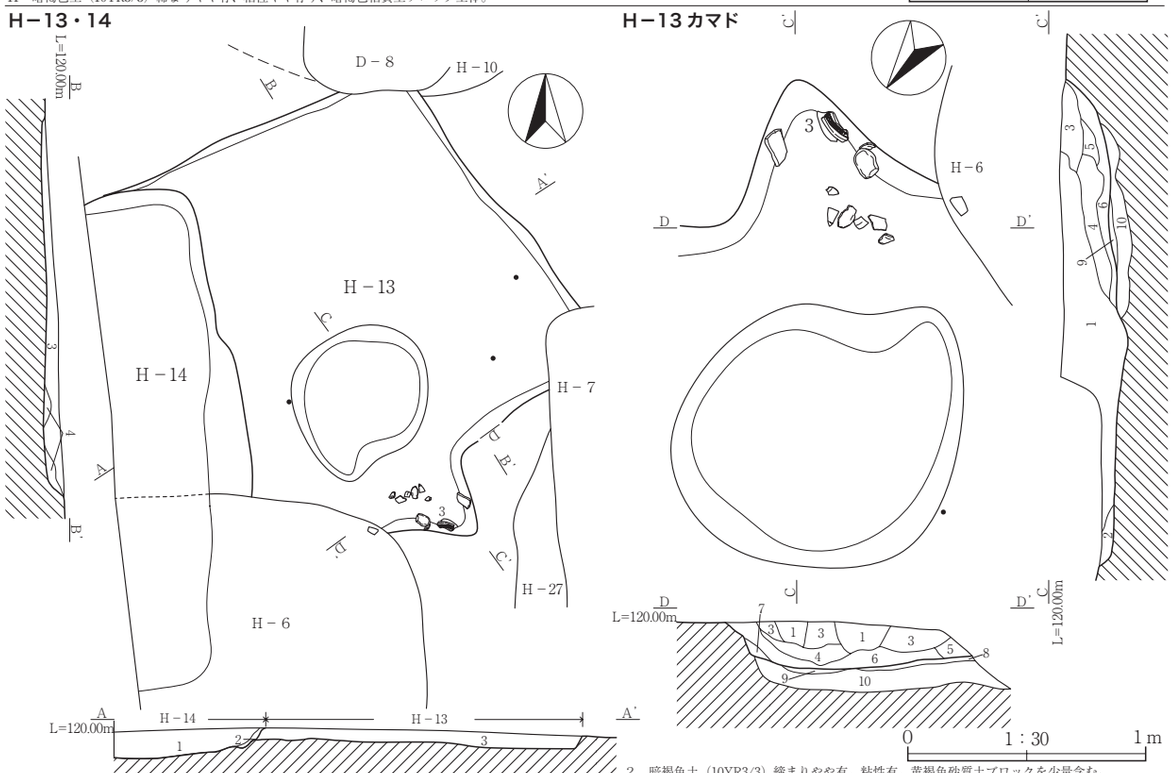
Fig.10　Ａ区Ｈ－11・12・20・21号住居跡

oumi60c.indd　21　　2014/07/16　11:09:41



A区H－12　カマドG・H
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を微量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石・焼土粒子を微量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を微量含む。

A区H－20　カマドE・F
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、黄色砂を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、As-C軽石を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒子・炭化物を微量含む。
4　赤褐色土（5YR4/6）締まりやや有、粘性やや有り、焼土ブロック主体。
5　赤褐色土（5YR4/6）締まりやや有、粘性やや有り、焼土ブロック、天井崩落土。
6　暗赤褐色土（5YR3/4）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒子をやや多く含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有り、焼土粒子を微量含む。
8　暗赤褐色土（5YR3/4）締まりやや有、粘性やや有り、灰主体。
9　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、黄色砂ブロックを少量含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、暗褐色粘質土ブロック主体、やや焼土化。
11　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有り、暗褐色粘質土ブロック主体。

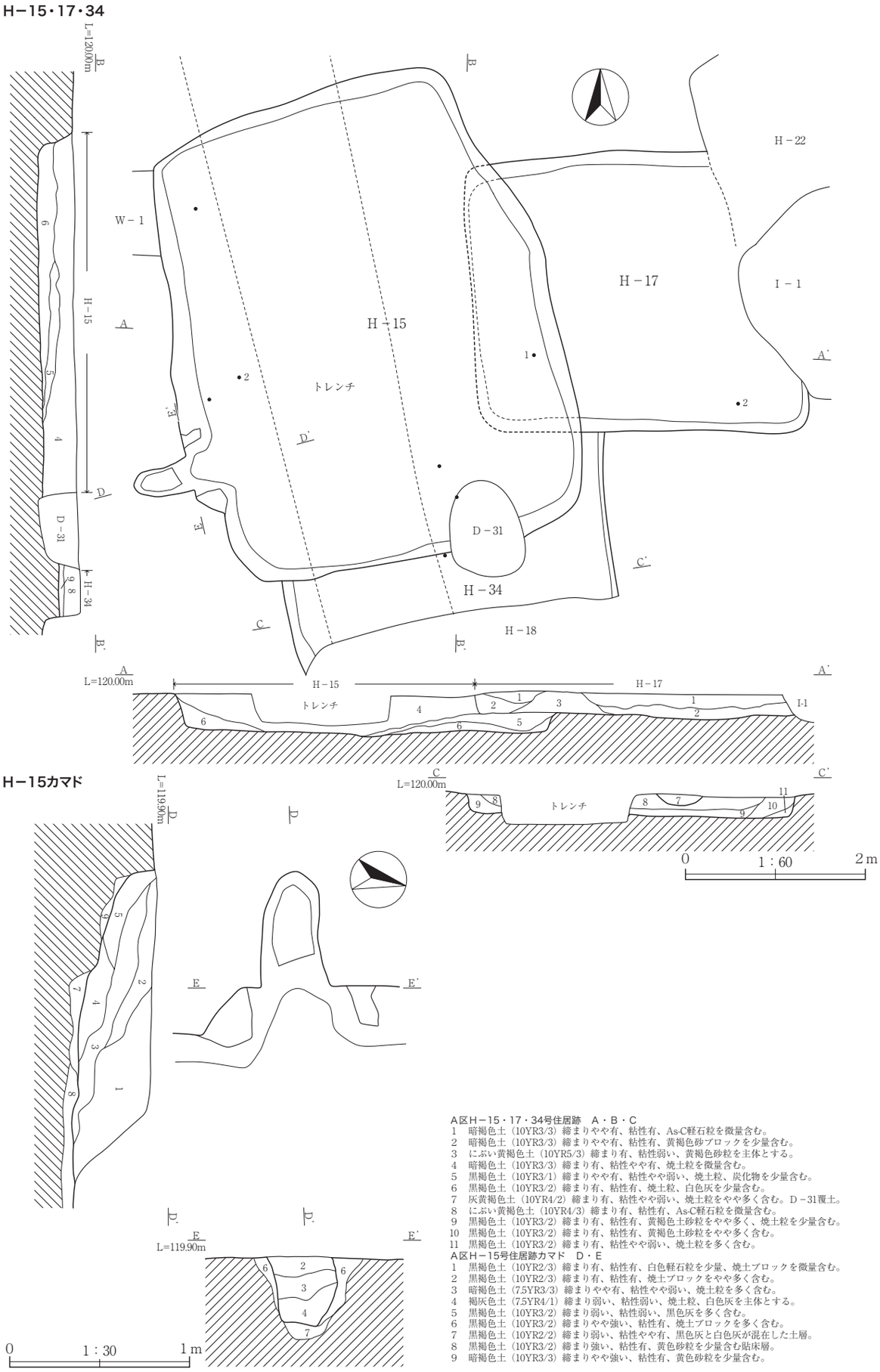


A区H－13・14号住居跡　A・B
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土、As-C軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、Hr-FA粒をやや多く含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性有、炭化物をやや多く含む。

A区H－13号住居跡カマド　C・D
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、焼土ブロック、As-C軽石粒を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性有、焼土粒をやや多く、As-C軽石粒、白色粘質土を少量含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性有、焼土粒、白色粘質土を少量含む。
5　褐灰色土（10YR4/1）白色粘質土ブロックを主体とする。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、焼土粒、炭化物、灰をやや多く、白色粘質土を少量含む。
7　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む貼床層。
9　褐色土（7.5YR4/3）締まり有、粘性やや有、やや焼土化した火床面
10　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土を微量含む。

Fig.11　A区H－12・13・14・20号住居跡

oumi60c.indd　22　　2014/07/16　11:09:42

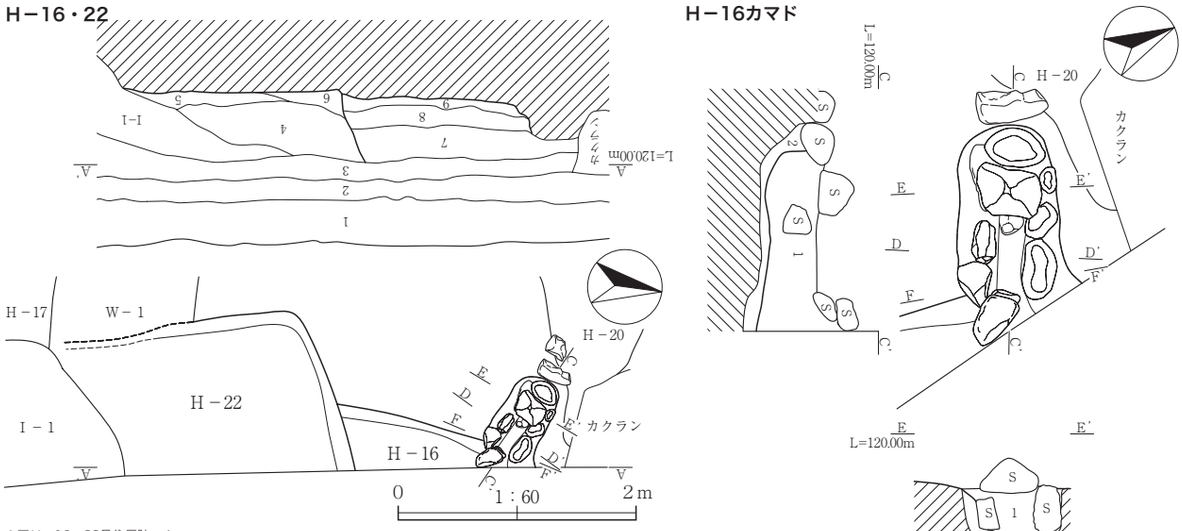


A区H－15・17・34号住居跡　A・B・C
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂ブロックを少量含む。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）締まり有、粘性弱い、黄褐色砂粒を主体とする。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、焼土粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒、炭化物を少量含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、焼土粒、白色灰を少量含む。
7　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性やや弱い、焼土粒をやや多く含む。D－31覆土。
8　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
9　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄褐色土砂粒をやや多く、焼土粒を少量含む。
10　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄褐色土砂粒をやや多く含む。
11　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、焼土粒を多く含む。

A区H－15号住居跡カマド　D・E
1　黒褐色土（10YR2/3）締まり有、粘性有、白色軽石粒を少量、焼土ブロックを微量含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり有、粘性有、焼土ブロックをやや多く含む。
3　暗褐色土（7.5YR3/3）締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒を多く含む。
4　褐灰色土（7.5YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、焼土粒、白色灰を主体とする。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まり弱い、粘性弱い、黒色灰を多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、焼土ブロックを多く含む。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり弱い、粘性やや有、黒色灰と白色灰が混在した土層。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性有、黄色砂粒を少量含む貼床層。
9　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性有、黄色砂粒を少量含む。

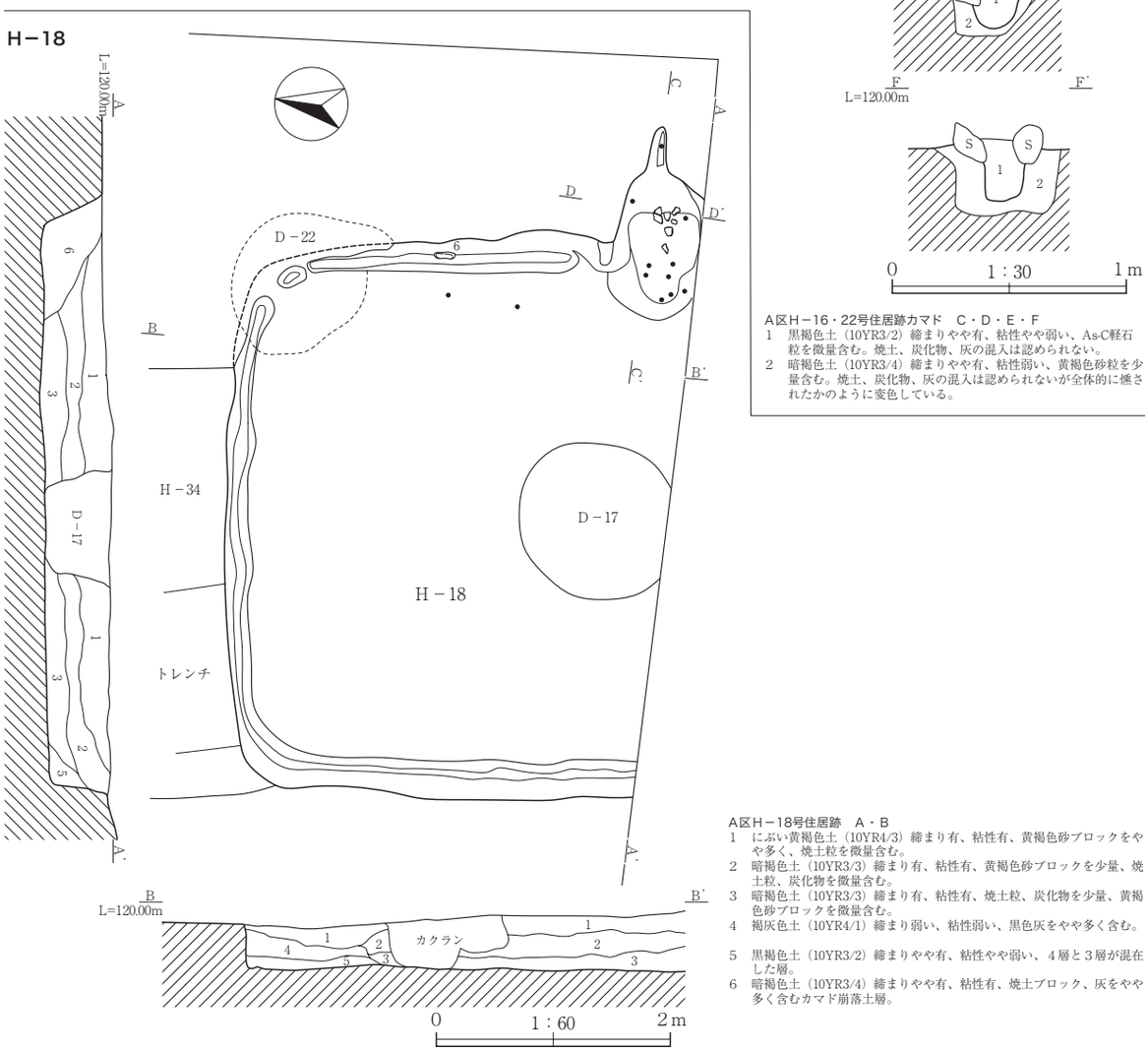
Fig.12　A区H－15・17・34号住居跡

oumi60c.indd　23　　2014/07/16　11:09:42



A区H－16・22号住居跡　A
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、造成土層。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや強い、旧表土層。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや強い、白色粒をやや多く、As-B軽石粒を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、小礫を少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂粒を少量ふくむ。
6　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや有、粘性やや弱い、黄褐色砂粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、As-C軽石粒を微量含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、黄褐色砂粒を少量、As-C軽石粒を微量含む。
9　暗褐色土（10YR3/4）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂粒をやや多く、As-C軽石粒を微量含む。

A区H－16・22号住居跡カマド　C・D・E・F
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや弱い、As-C軽石粒を微量含む。焼土、炭化物、灰の混入は認められない。
2　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや有、粘性弱い、黄褐色砂粒を少量含む。焼土、炭化物、灰の混入は認められないが全体的に燃されたかのように変色している。

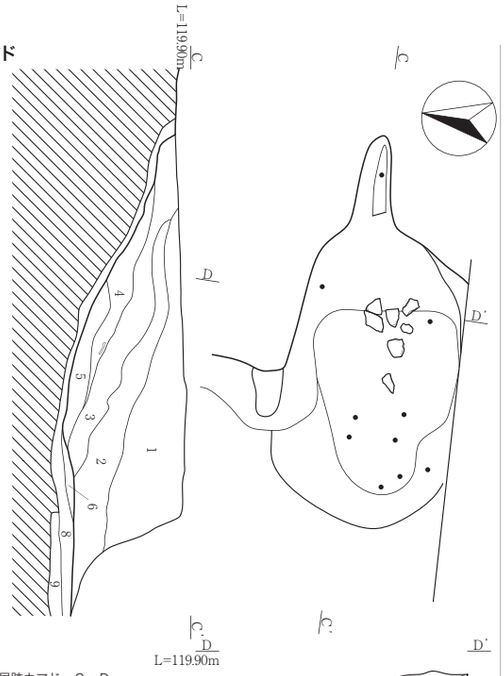


A区H－18号住居跡　A・B
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂ブロックをやや多く、焼土粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂ブロックを少量、焼土粒、炭化物を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、焼土粒、炭化物を少量、黄褐色砂ブロックを微量含む。
4　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、黒色灰をやや多く含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや弱い、４層と３層が混在した層。
6　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや有、粘性有、焼土ブロック、灰をやや多く含むカマド崩落土層。

Fig.13　A区H－16・18・22号住居跡

oumi60c.indd　24　　2014/07/16　11:09:43

H－18カマド



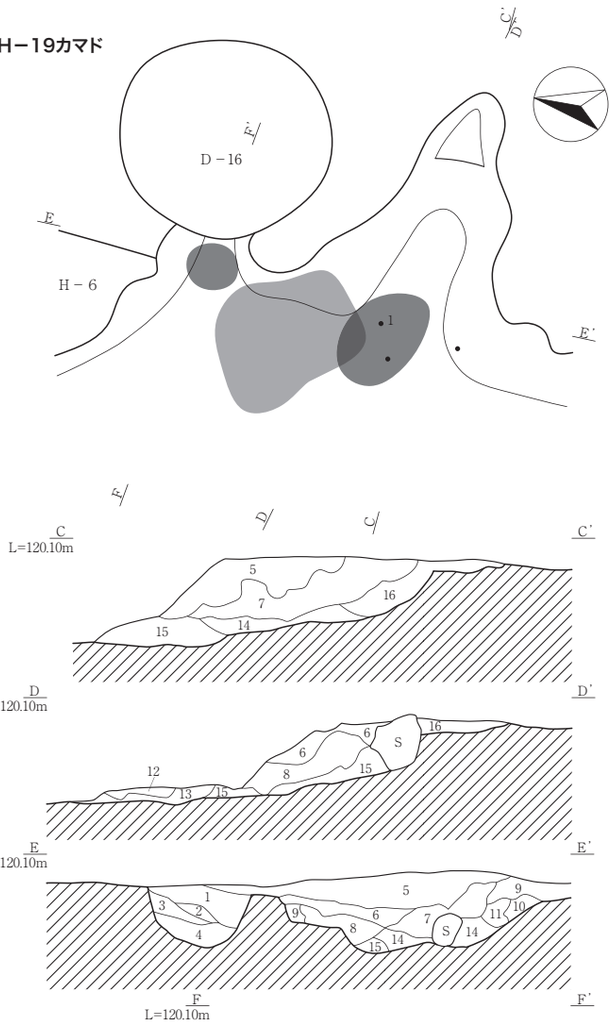
A区H－18号住居跡カマド　C・D

1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、焼土粒、粘質土ブロックを微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土粒、粘質土ブロック、黒色灰をやや多く含む。
3　黒褐色土（7.5YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、黒色灰を主体とし、焼土粒を微量含む。
4　にぶい赤褐色土（5YR4/3）締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒・ブロックを主体とする。
5　褐灰色土（7.5YR5/1）締まり弱い、粘性弱い、燃焼面直上の白色灰層。
6　褐色土（7.5YR4/3）締まり有、粘性有、硬質な焼土を主体とする。火床面か。
7　明赤褐色土（2.5YR5/8）締まり強い、粘性弱い、よく被熱して焼土化したカマド側壁。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性有、部分的に被熱して焼土化した掘り方層。
9　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性有、As-C軽石粒、黄色砂粒を少量含む。住居掘り方層。

A区H－19号住居跡　A・B

1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、造成土層。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや強い、旧表土層。
3　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、砕石等混入した撹乱土層。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや強い、白色粒をやや多く、As-B軽石粒を少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-B軽石混土層。軽石粒をやや多く含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土ブロックを少量、As-C軽石粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性やや弱い、黄褐色砂質土、炭化物を少量含む。
8　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性やや有、黄褐色砂質土をやや多く含む。
9　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土をやや多く、灰を少量含む。
10　黒色土（10YR2/1）締まりやや有、粘性やや有、炭化物、黄褐色砂質土を少量含む。
11　黒色土（10YR1.7/1）締まりやや有、粘性やや有、焼土ブロックを少量、黄褐色砂質土を微量含む。
12　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性有、白色粘質土ブロックをやや多く含む。
13　暗赤褐色土（5YR3/2）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土を主体とし、灰を少量含む。

H－19カマド



A区H－19号住居跡カマド　C・D・E・F

1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、焼土粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、炭化物をやや多く、焼土粒を少量含む。
3　赤褐色土（10YR4/8）締まり有、粘性弱い、焼土ブロックを主体とする。
4　暗赤褐色土（10YR3/6）締まり有、粘性弱い、焼土ブロックを多く含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性弱い、焼土ブロックをやや多く含む
6　黒色土（10YR2/1）締まり有、粘性有、炭化物を多く、As-C軽石粒を少量含む。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性弱い、大ぶりの焼土ブロックをやや多く含む。
8　暗灰色土（N3/）締まり弱い、粘性弱い、灰を主体とする。
9　暗灰色土（N3/）締まり弱い、粘性弱い、灰を主体とし、黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
10　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性やや有、焼土粒、炭化物を少量含む。
11　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、焼土粒を少量、As-C軽石粒を微量含む。
13　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、焼土粒、As-C軽石粒を少量含む。
14　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、褐色粘質土を多く、焼土ブロックを少量含む。
15　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、炭化物を多く含む。
16　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、焼土粒、炭化物を少量含む。

H－19

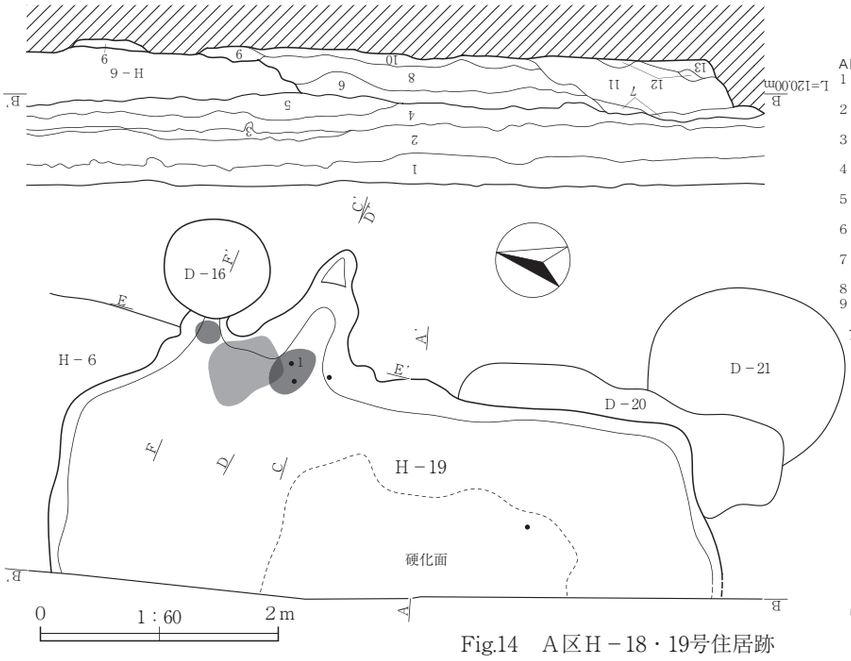
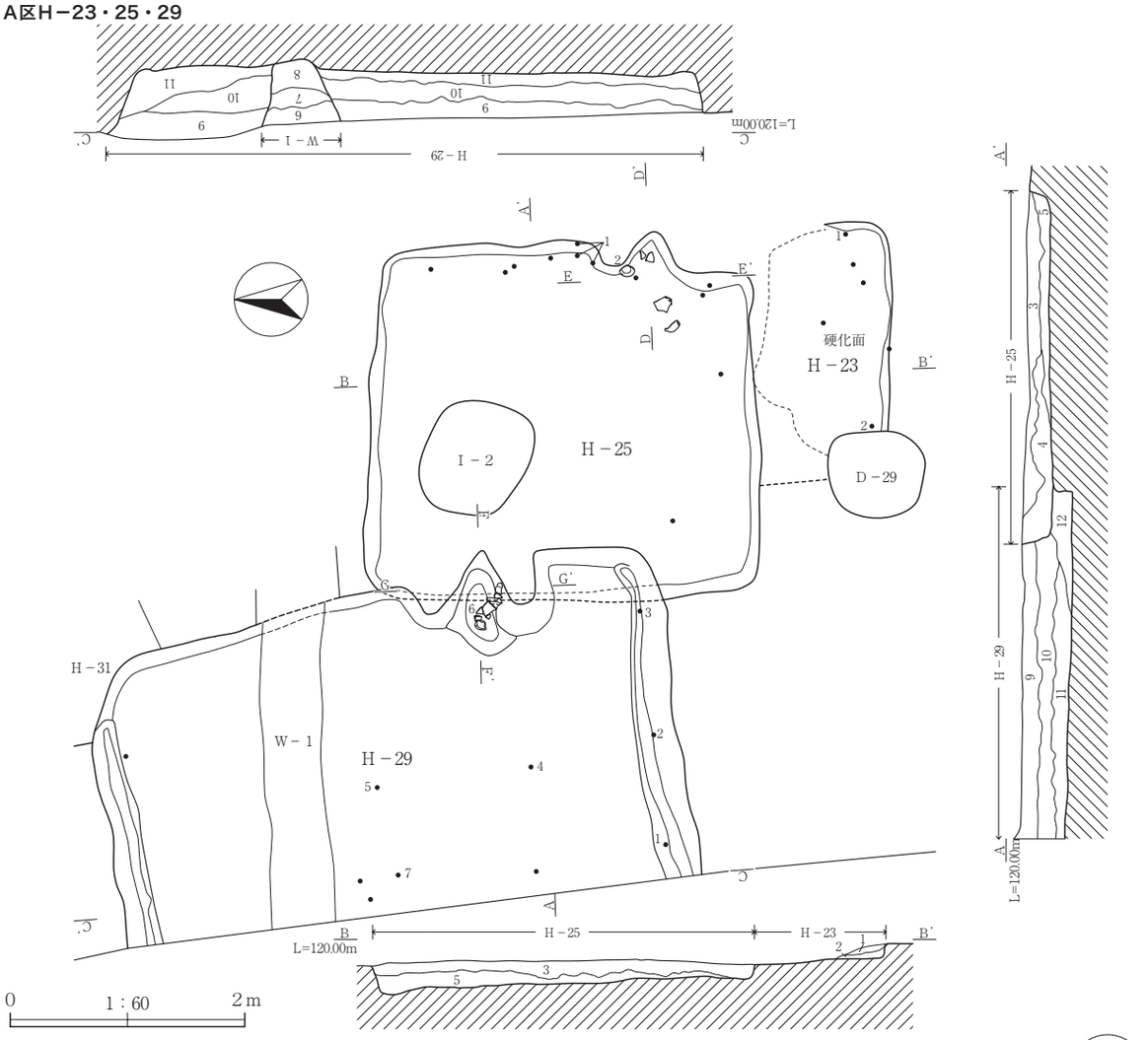


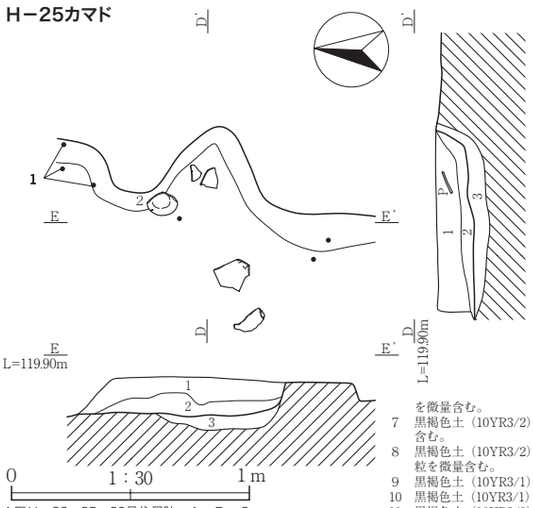
Fig.14　A区H－18・19号住居跡

oumi60c.indd　25　　2014/07/16　11:09:44

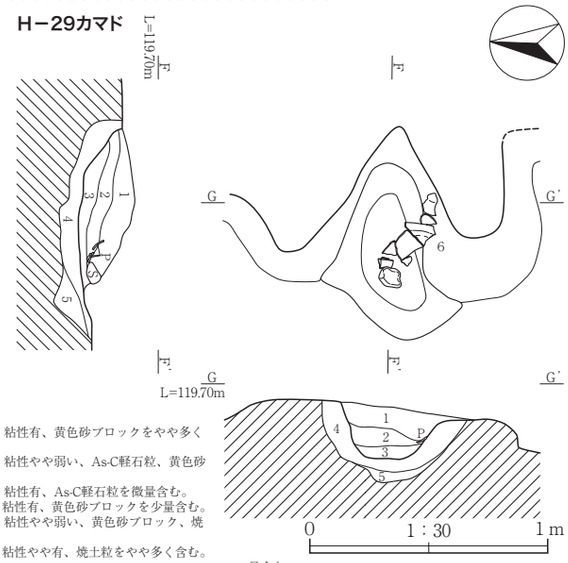
A区H－23・25・29



H－25カマド



H－29カマド



A区H－23・25・29号住居跡　A・B・C

1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、焼土ブロックを少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、黄色砂ブロックを少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや弱い、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、焼土粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂ブロックをやや多く含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
9　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
10　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄色砂ブロックを少量含む。
11　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、黄色砂ブロック、焼土粒をやや多く含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、焼土粒をやや多く含む。

A区H－25号住居跡カマド　D・E

1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、焼土粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり弱い、粘性弱い、黒色灰を主体として、焼土粒をやや多く含む。
3　にぶい赤褐色土（5YR4/3）締まりやや有、粘性弱い、よく被熱した焼土層。

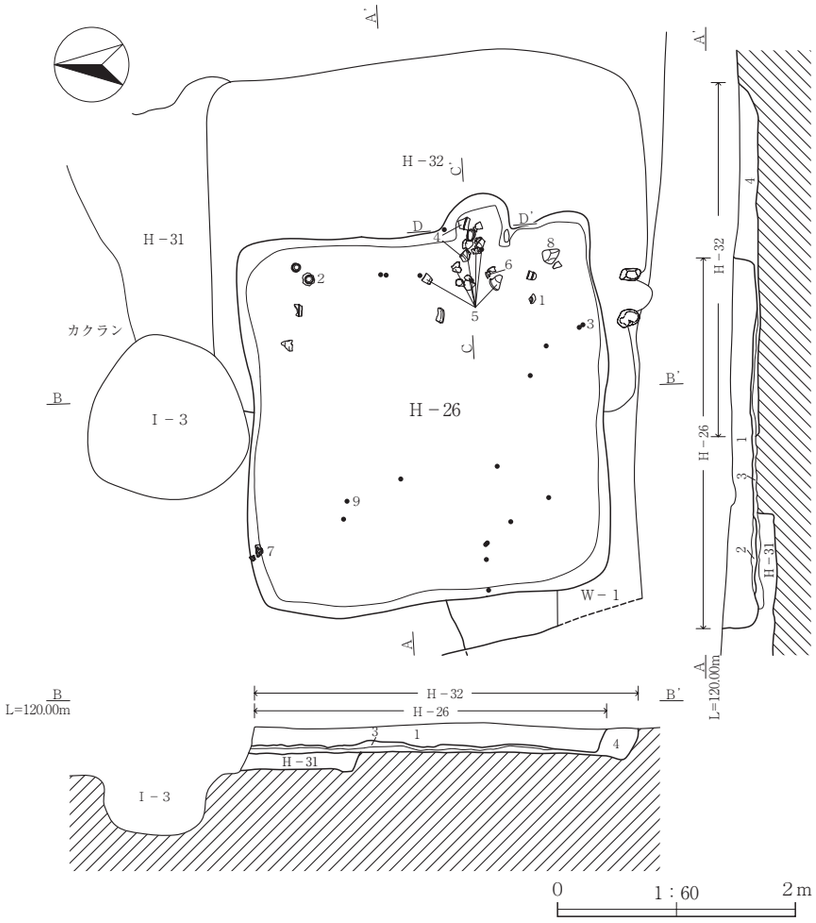
A区H－29号住居跡カマド　F・G

1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、焼土粒、黄色砂粒を微量含む。
2　暗赤褐色土（5YR3/2）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土ブロックを多く含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土粒、黄色砂粒を主体とする。
4　暗赤褐色土（5YR3/2）締まり有、粘性弱い、被熱してよく焼土化した側壁・底面。

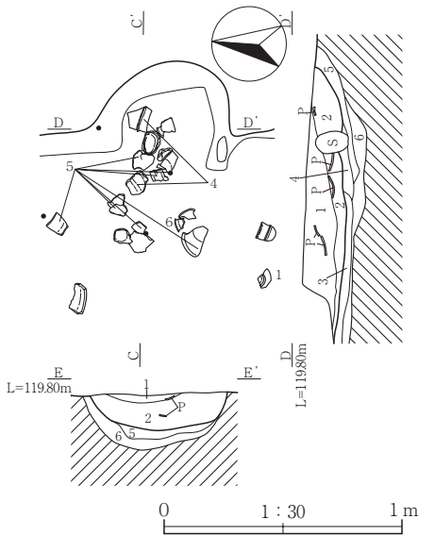
Fig.15　A区H－23・25・29号住居跡

oumi60c.indd　26　　2014/07/16　11:09:44

H－26



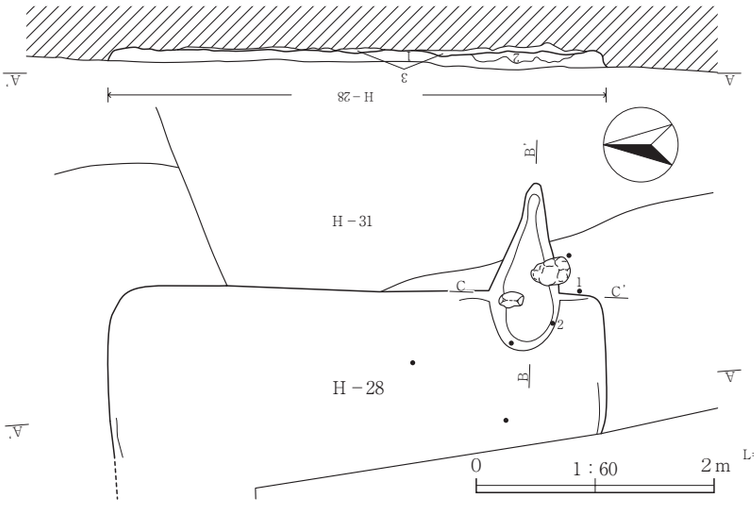
H－26カマド



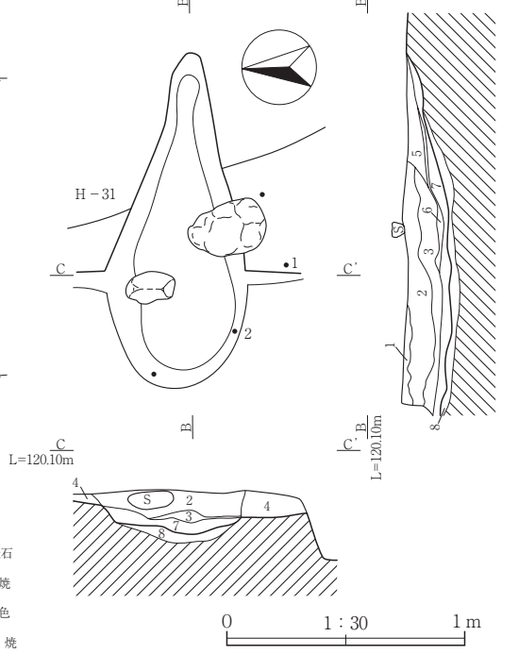
A区H－26号住居跡　A・B
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
2　褐灰色土（5YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、床面直上に堆積する灰層
3　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強い、粘性やや強い、黄色砂ブロックを少量含む貼層床。
4　暗褐色土（10YR3/3）やや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。

A区H－26号住居跡カマド　C・D
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒、焼土粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、焼土粒を主体とし、灰をやや多く含む。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む貼床層。
4　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、白色灰を主体として、焼土粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、やや被熱した掘り方層。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、褐色砂粒を微量含む。

H－28



H－28カマド



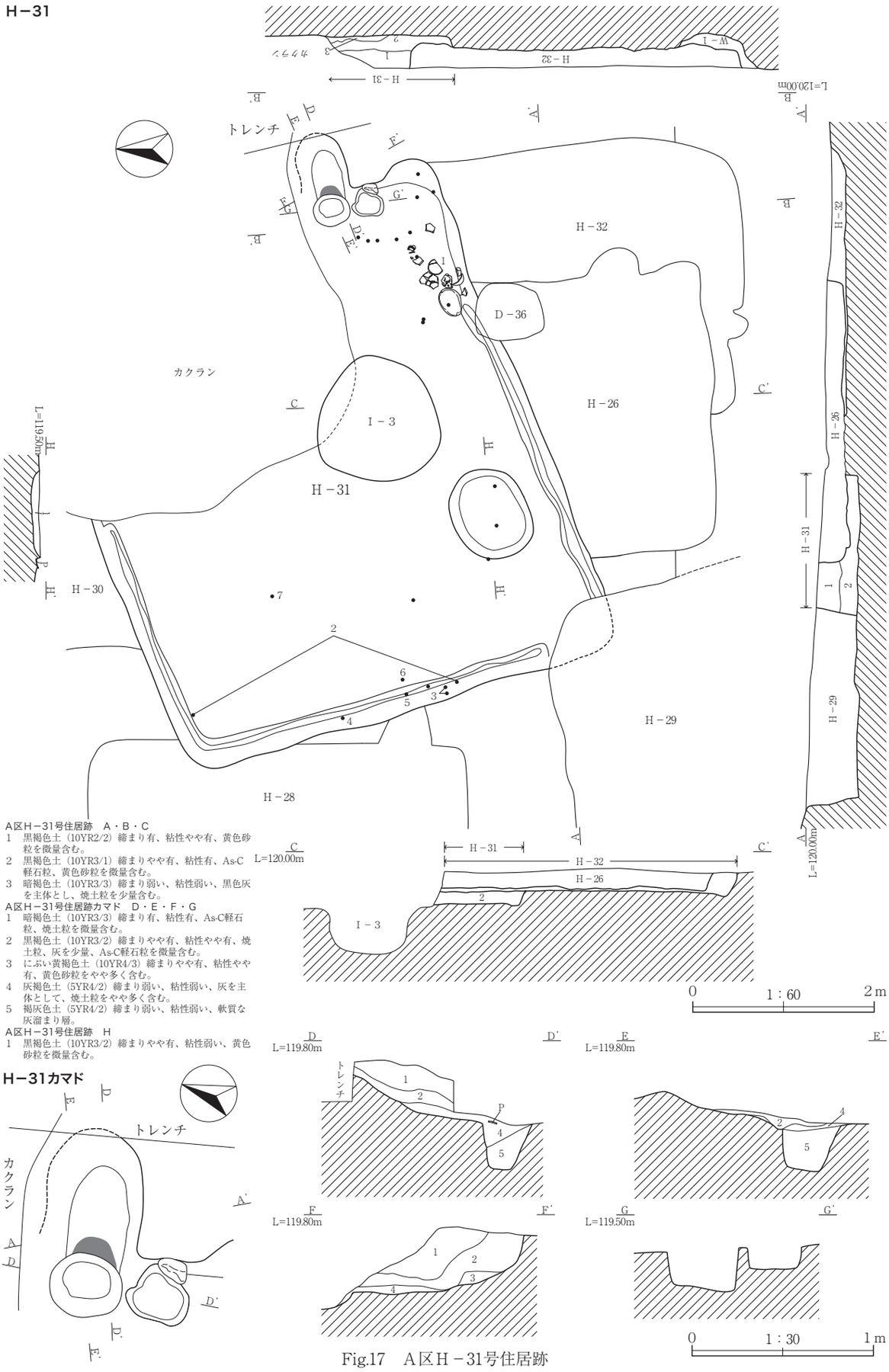
A区H－28号住居跡　A
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、黄色砂粒、As-C軽石粒を少量含む。
2　にぶい赤褐色土（5YR4/3）締まり有、粘性有、焼土粒を主体とするカマド崩落土層
3　黒褐色土（10YR3/1）締まり強い、粘性有、黄色砂粒を微量含む貼床層。

A区H－28号住居跡カマド　B・C
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性有、焼土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、焼土粒・ブロック、黒色灰を主体とする。
3　褐灰色土（5YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、白色灰を主体とする。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性弱い、焼土ブロックをやや多く含む。
6　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、白色灰を主体とする灰層。
7　灰褐色土（5YR4/2）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土粒、白色灰が混在する。火床面相当か。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、やや被熱した地山層。

Fig.16　A区H－26・28号住居跡

oumi60c.indd　27　　2014/07/16　11:09:45

H－31



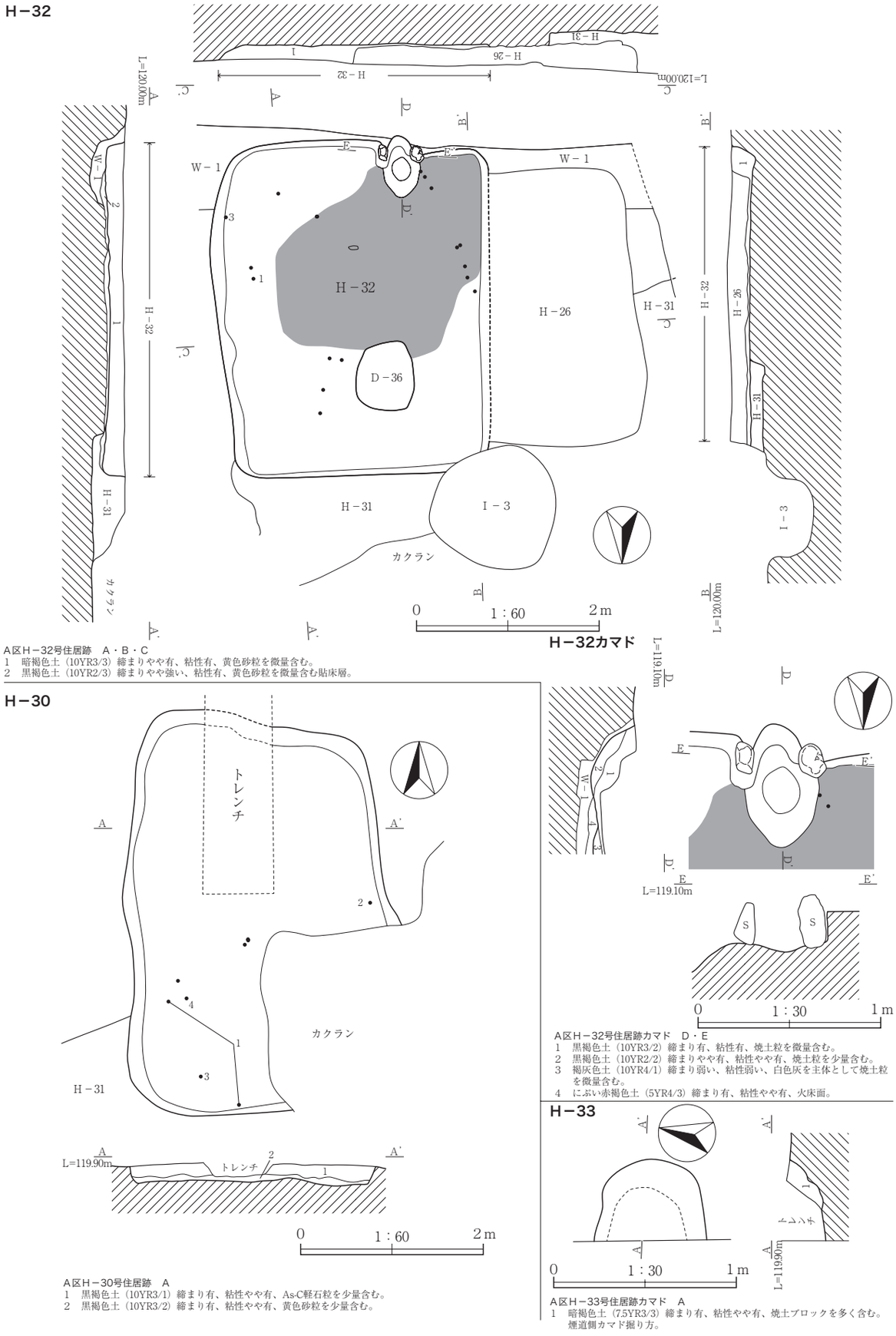
A区H－31号住居跡　A・B・C
1　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性やや有、黄色砂粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性有、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黒色灰を主体とし、焼土粒を少量含む。

A区H－31号住居跡カマド　D・E・F・G
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、焼土粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有、焼土粒、灰を少量、As-C軽石粒を微量含む。
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性やや有、黄色砂粒をやや多く含む。
4　灰褐色土（5YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、灰を主体として、焼土粒をやや多く含む。
5　褐灰色土（5YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、軟質な灰溜まり層。

A区H－31号住居跡　H
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性弱い、黄色砂粒を微量含む。

Fig.17　A区H－31号住居跡

oumi60c.indd　28　　2014/07/16　11:09:46



A区H－32号住居跡　A・B・C
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強い、粘性有、黄色砂粒を微量含む貼床層。

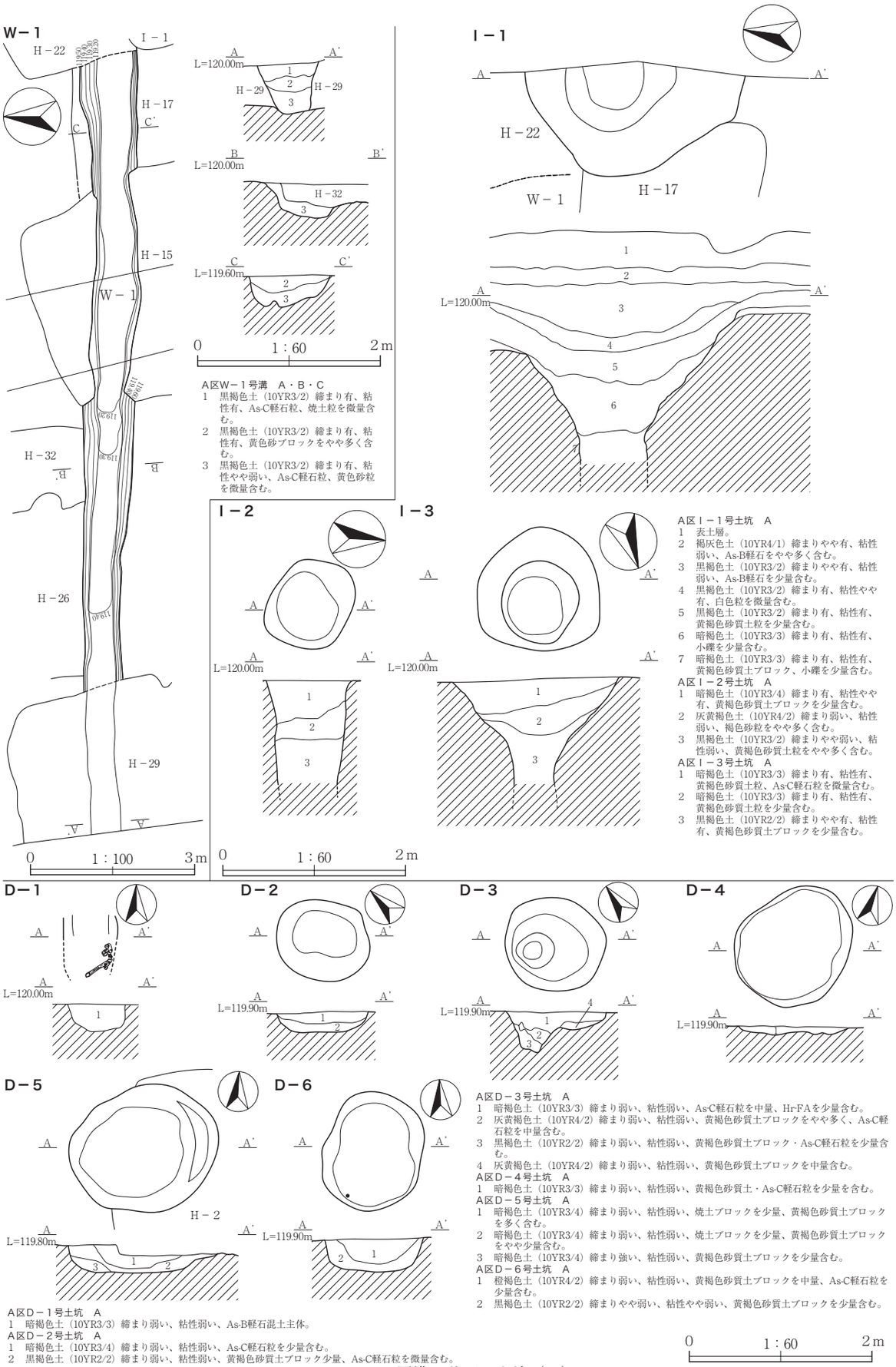
A区H－32号住居跡カマド　D・E
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、焼土粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性やや有、焼土粒を少量含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性弱い、白色灰を主体として焼土粒を微量含む。
4　にぶい赤褐色土（5YR4/3）締まり有、粘性やや有、火床面。

A区H－30号住居跡　A
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性やや有、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、黄色砂粒を少量含む。

A区H－33号住居跡カマド　A
1　暗褐色土（7.5YR3/3）締まり有、粘性やや有、焼土ブロックを多く含む。
煙道側カマド掘り方。

Fig.18　A区H－30・32・33号住居跡

oumi60c.indd　29　　2014/07/16　11:09:46



A区W－1号溝　A・B・C
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、焼土粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂ブロックをやや多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。

A区Ｉ－１号土坑　A
1　表土層。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや有、粘性弱い、As-B軽石をやや多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性弱い、As-B軽石を少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、白色粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土粒を少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、小礫を少量含む。
7　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土ブロック、小礫を少量含む。

A区Ｉ－２号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり有、粘性やや有、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、褐色砂粒をやや多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土粒をやや多く含む。

A区Ｉ－３号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土粒、As-C軽石粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂質土粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。

A区Ｄ－３号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を中量、Hr-FAを少量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックをやや多く、As-C軽石粒を中量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロック・As-C軽石粒を少量含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを中量含む。

A区Ｄ－４号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土・As-C軽石粒を少量を含む。

A区Ｄ－５号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、焼土ブロックを少量、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、焼土ブロックを少量、黄褐色砂質土ブロックをやや少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）締まり強い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。

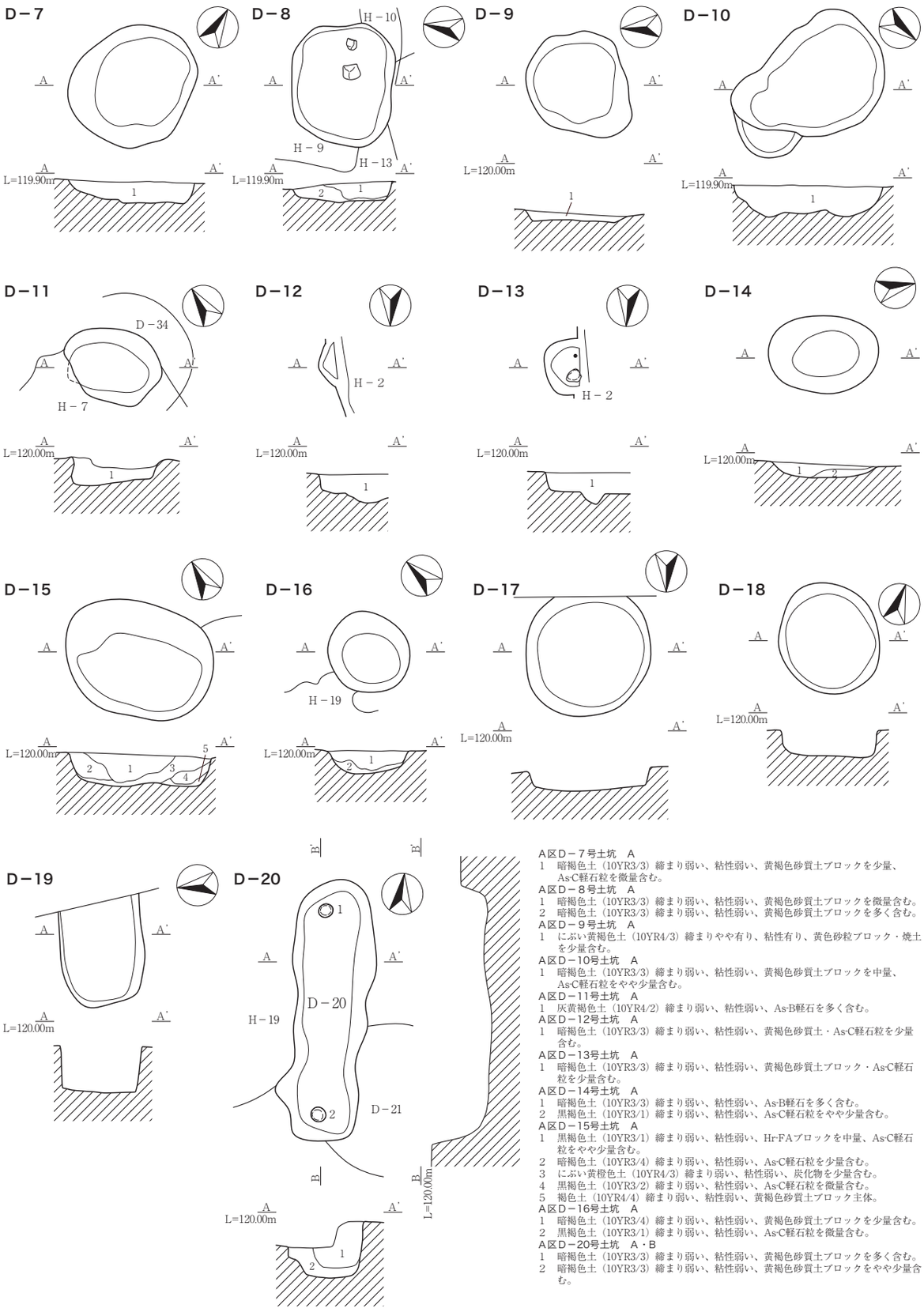
A区Ｄ－６号土坑　A
1　橙褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを中量、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。

A区Ｄ－１号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石混土主体。

A区Ｄ－２号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロック少量、As-C軽石粒を微量含む。

Fig.19　A区溝、井戸、土坑（1）

oumi60c.indd　30　　2014/07/16　11:09:47



A区D－７号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを少量、As-C軽石粒を微量含む。

A区D－８号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。

A区D－９号土坑　A
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有り、粘性有り、黄色砂粒ブロック・焼土を少量含む。

A区D－10号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを中量、As-C軽石粒をやや少量含む。

A区D－11号土坑　A
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。

A区D－12号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土・As-C軽石粒を少量含む。

A区D－13号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロック・As-C軽石粒を少量含む。

A区D－14号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒をやや少量含む。

A区D－15号土坑　A
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、Hr-FAブロックを中量、As-C軽石粒をやや少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を少量含む。
3　にぶい黄橙色土（10YR4/3）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を微量含む。
5　褐色土（10YR4/4）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロック主体。

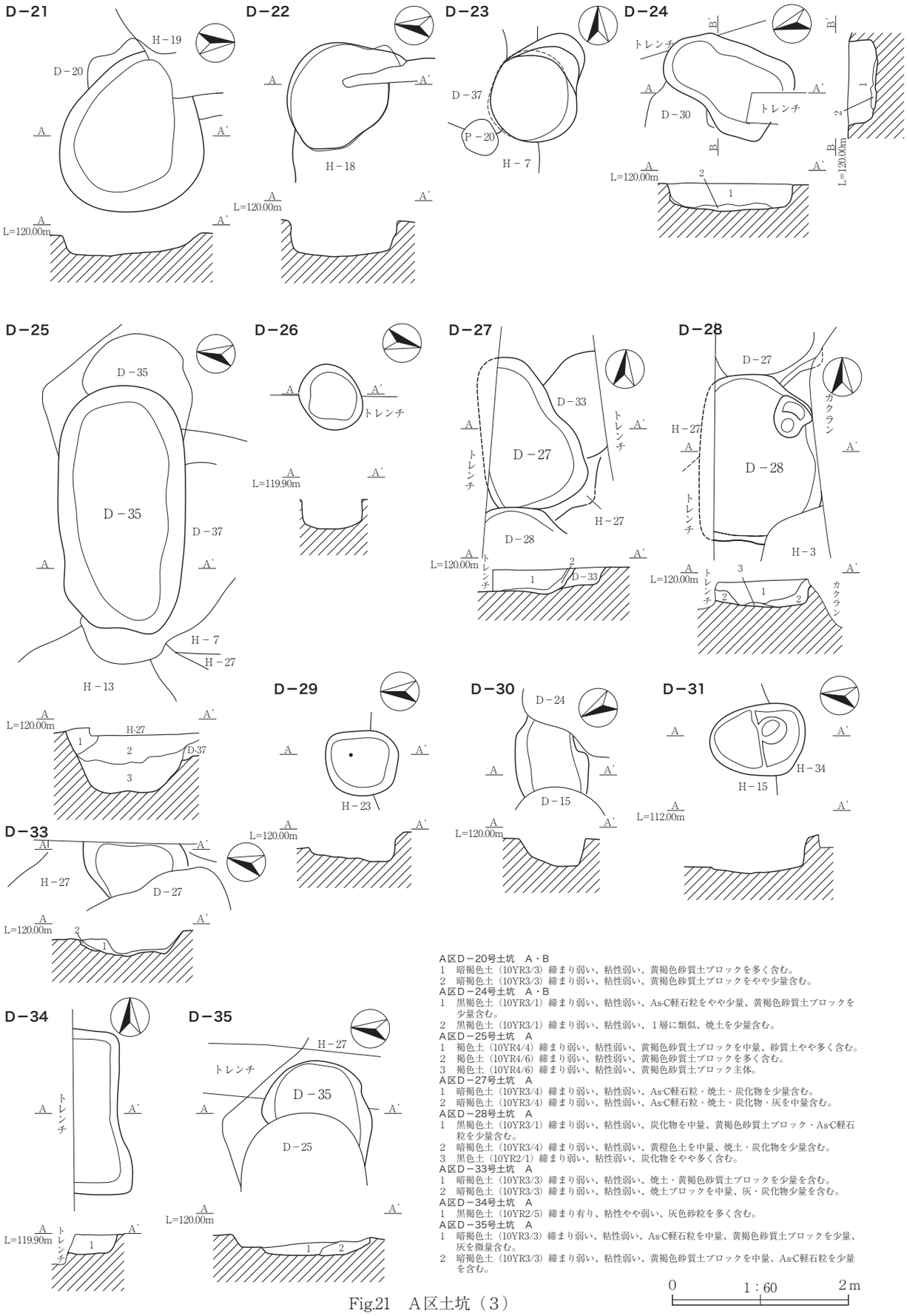
A区D－16号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を微量含む。

A区D－20号土坑　A・B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックをやや少量含む。

0　1：60　2m

Fig.20　A区土坑（2）

oumi60c.indd　31　　2014/07/16　11:09:48

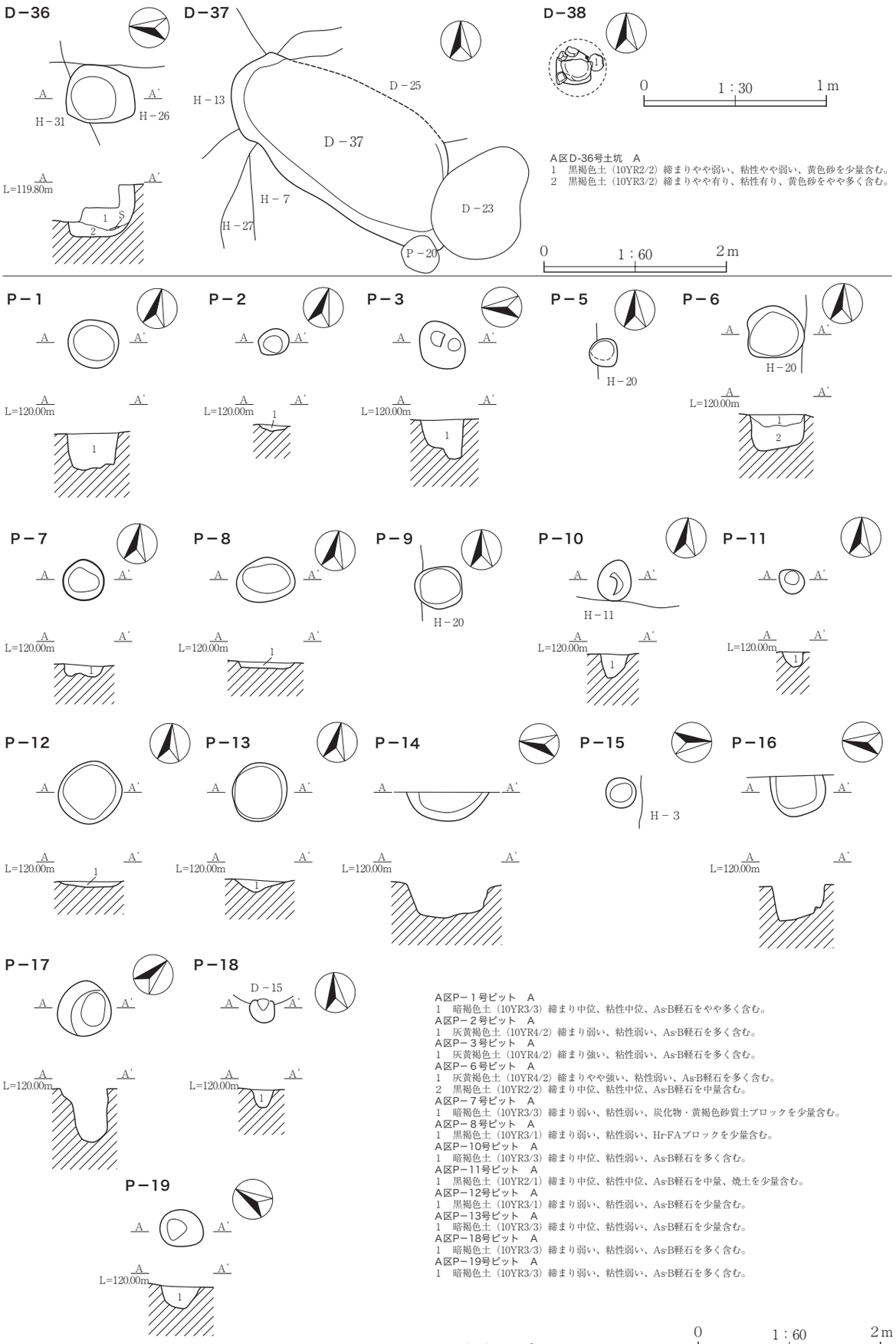


A区D－20号土坑　A・B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックをやや少量含む。
A区D－24号土坑　A・B
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒をやや少量、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、1層に類似、焼土を少量含む。
A区D－25号土坑　A
1　褐色土（10YR4/4）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを中量、砂質土やや多く含む。
2　褐色土（10YR4/6）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。
3　褐色土（10YR4/6）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質土ブロック主体。
A区D－27号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒・焼土・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒・焼土・炭化物・灰を中量含む。
A区D－28号土坑　A
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物を中量、黄褐色砂質土ブロック・As-C軽石粒を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性弱い、黄橙色土を中量、焼土・炭化物を少量含む。
3　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性弱い、炭化物をやや多く含む。
A区D－33号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、焼土・黄褐色砂質土ブロックを少量を含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、焼土ブロックを中量、灰・炭化物少量を含む。
A区D－34号土坑　A
1　黒褐色土（10YR2/5）締まり有り、粘性やや弱い、灰色砂粒を多く含む。
A区D－35号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-C軽石粒を中量、黄褐色砂質土ブロックを少量、灰を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、黄褐色砂質ブロックを中量、As-C軽石粒を少量を含む。

0　1：60　2m

Fig.21　A区土坑（3）

oumi60c.indd　32　　2014/07/16　11:09:48



A区D-36号土坑　A
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有り、粘性有り、黄色砂をやや多く含む。

A区P－１号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり中位、粘性中位、As-B軽石をやや多く含む。
A区P－２号ピット　A
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
A区P－３号ピット　A
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
A区P－６号ピット　A
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり中位、粘性中位、As-B軽石を中量含む。
A区P－７号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、炭化物・黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
A区P－８号ピット　A
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、Hr-FAブロックを少量含む。
A区P－10号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり中位、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
A区P－11号ピット　A
1　黒褐色土（10YR2/1）締まり中位、粘性中位、As-B軽石を中量、焼土を少量含む。
A区P－12号ピット　A
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を少量含む。
A区P－13号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり中位、粘性弱い、As-B軽石を少量含む。
A区P－18号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。
A区P－19号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり弱い、粘性弱い、As-B軽石を多く含む。

Fig.22　A区土坑（４）、ピット

oumi60c.indd　33　　2014/07/16　11:09:49

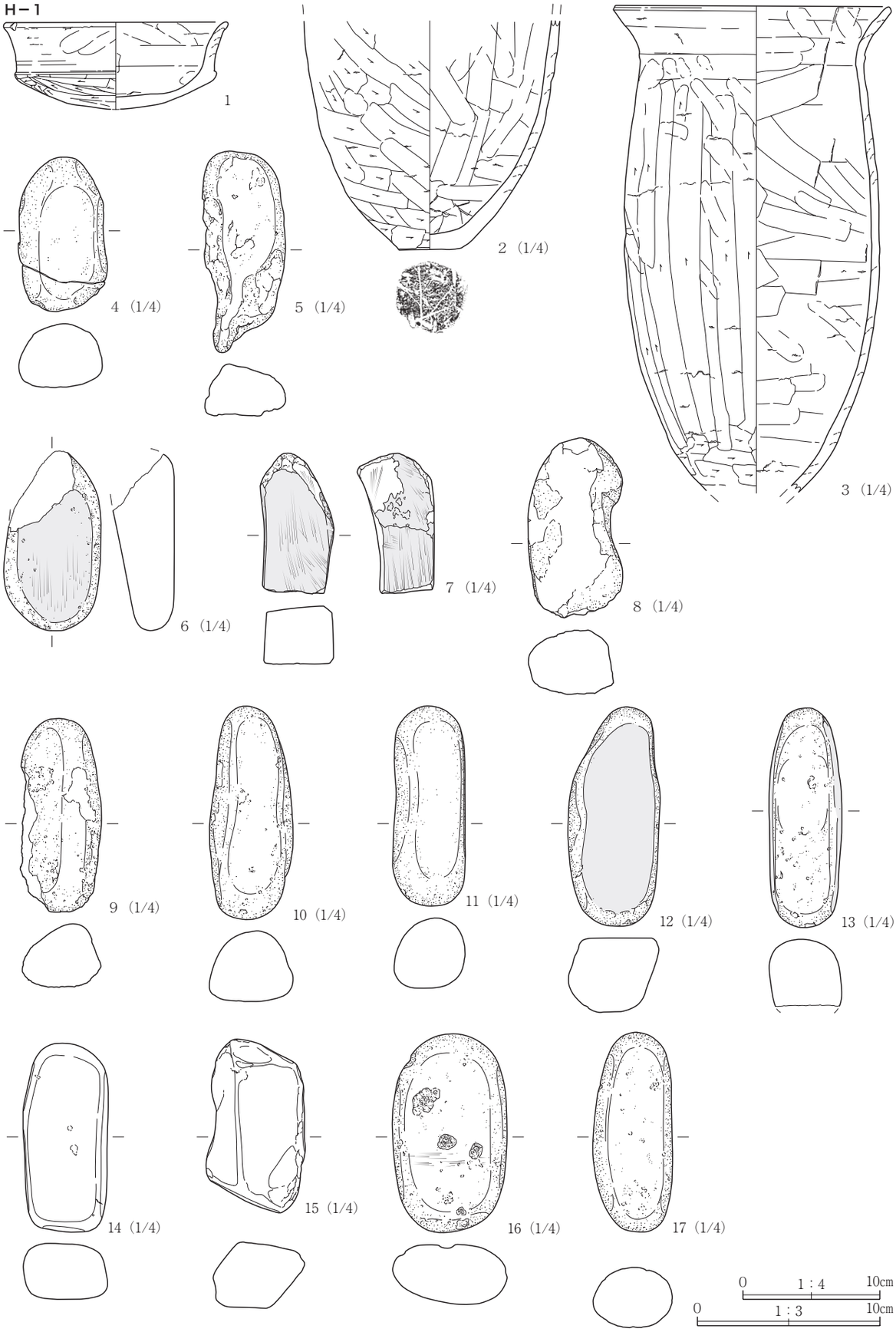


Fig.23　A区H－1号住居跡出土遺物

oumi60c.indd 34 2014/07/16 11:09:50

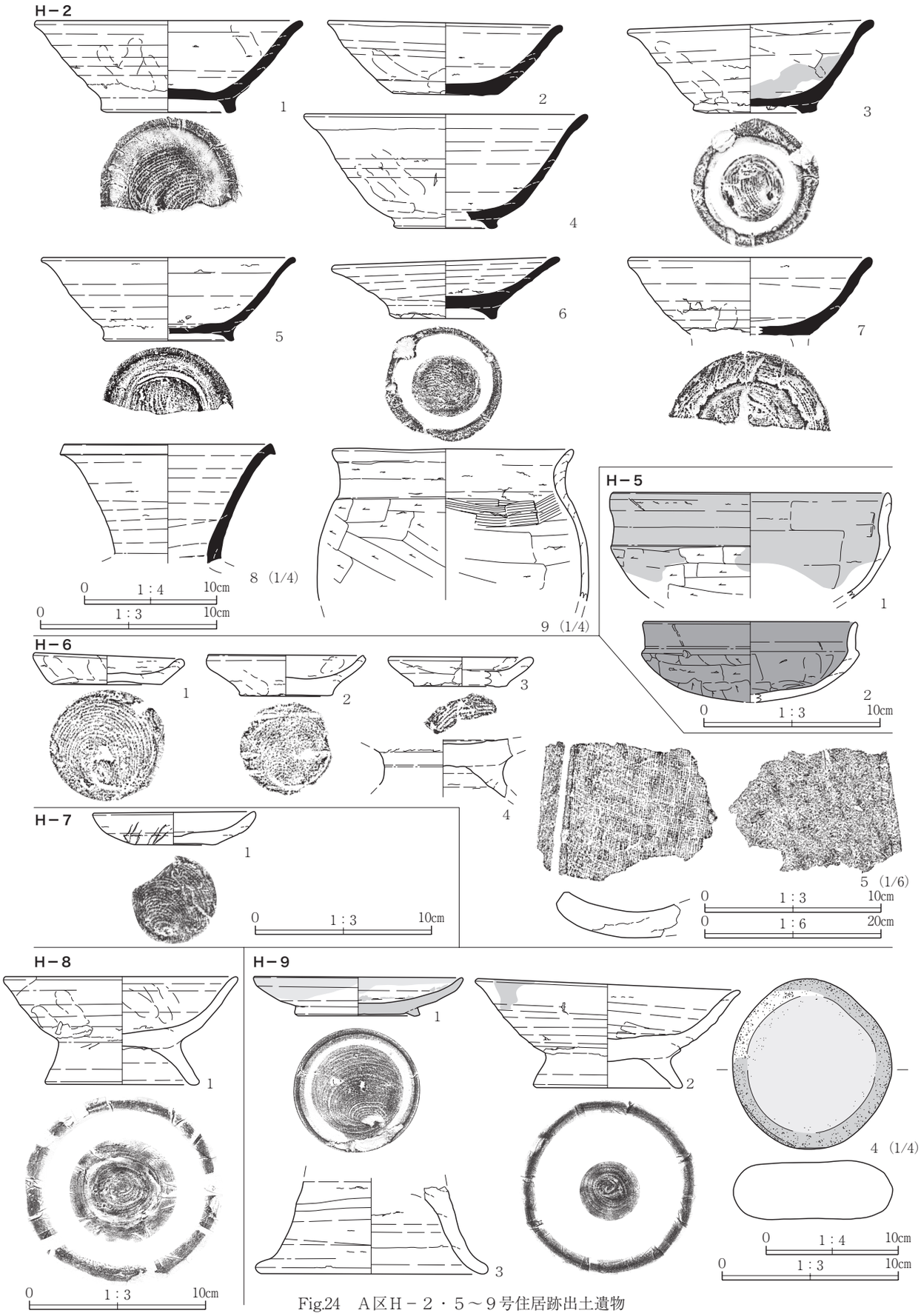


Fig.24　A区H－２・５～９号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　35　　2014/07/16　11:09:54

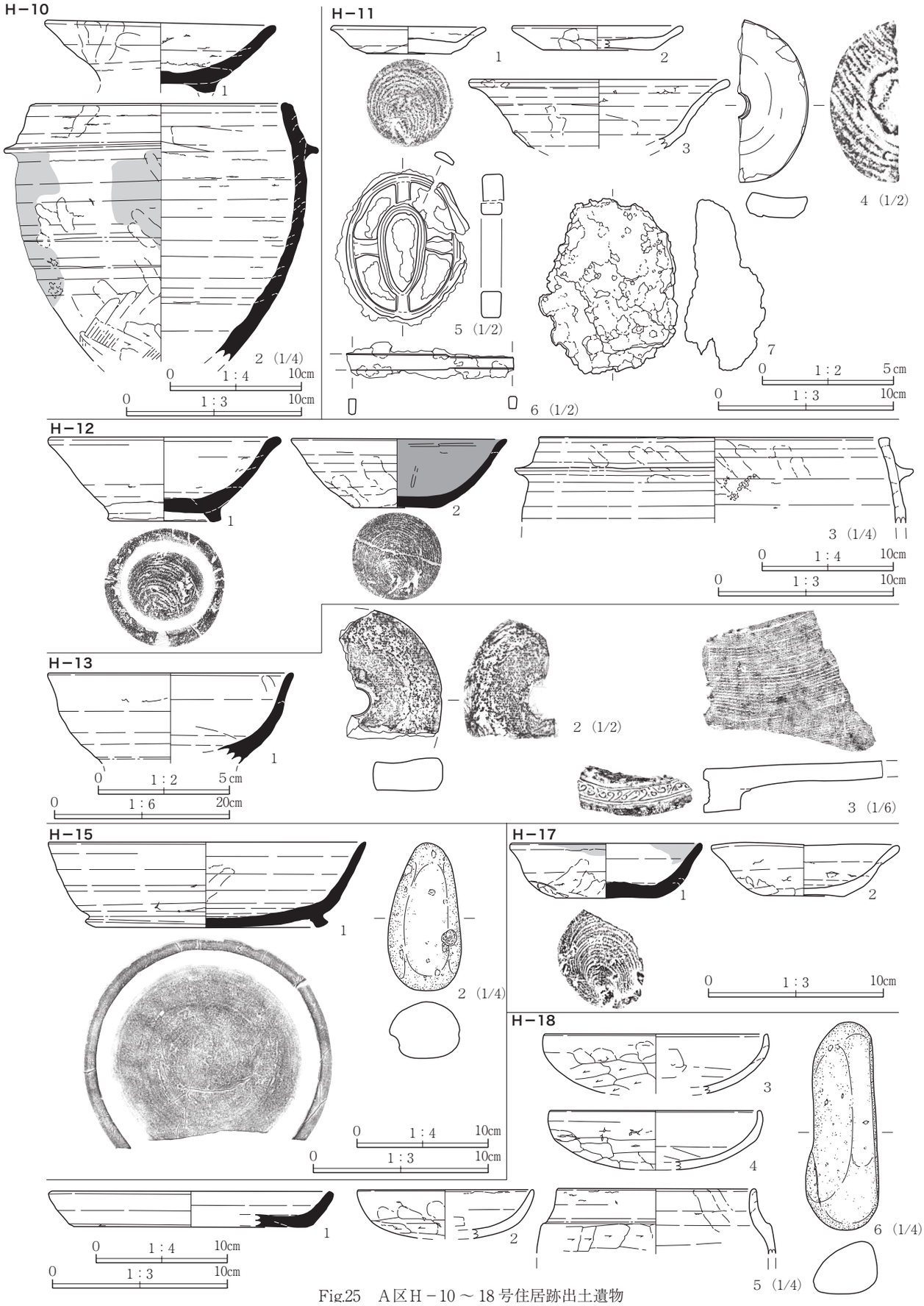


Fig.25　A区H－10～18号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　36　　2014/07/16　11:09:55

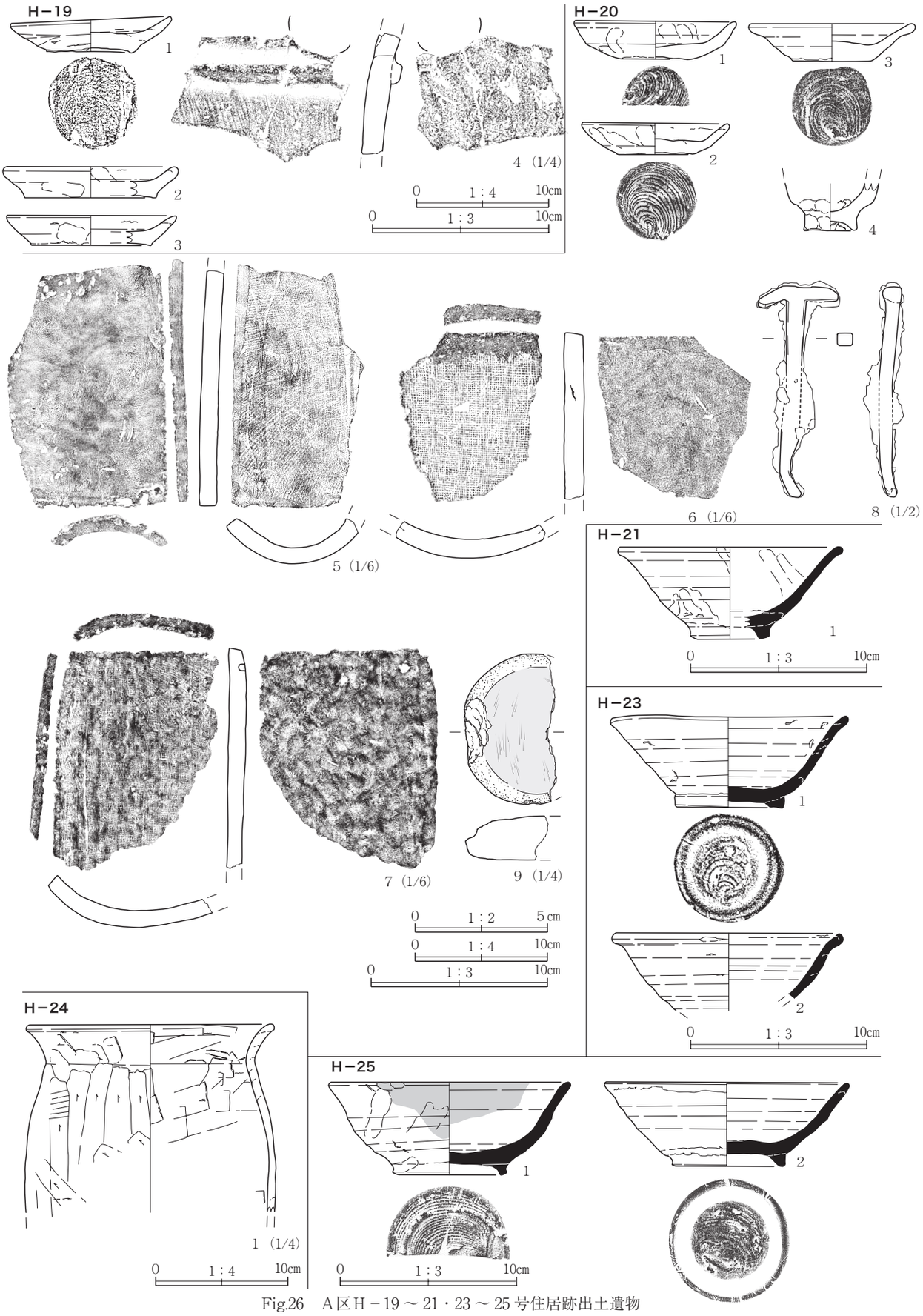


Fig.26　A区H－19～21・23～25号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　37　　2014/07/16　11:10:08

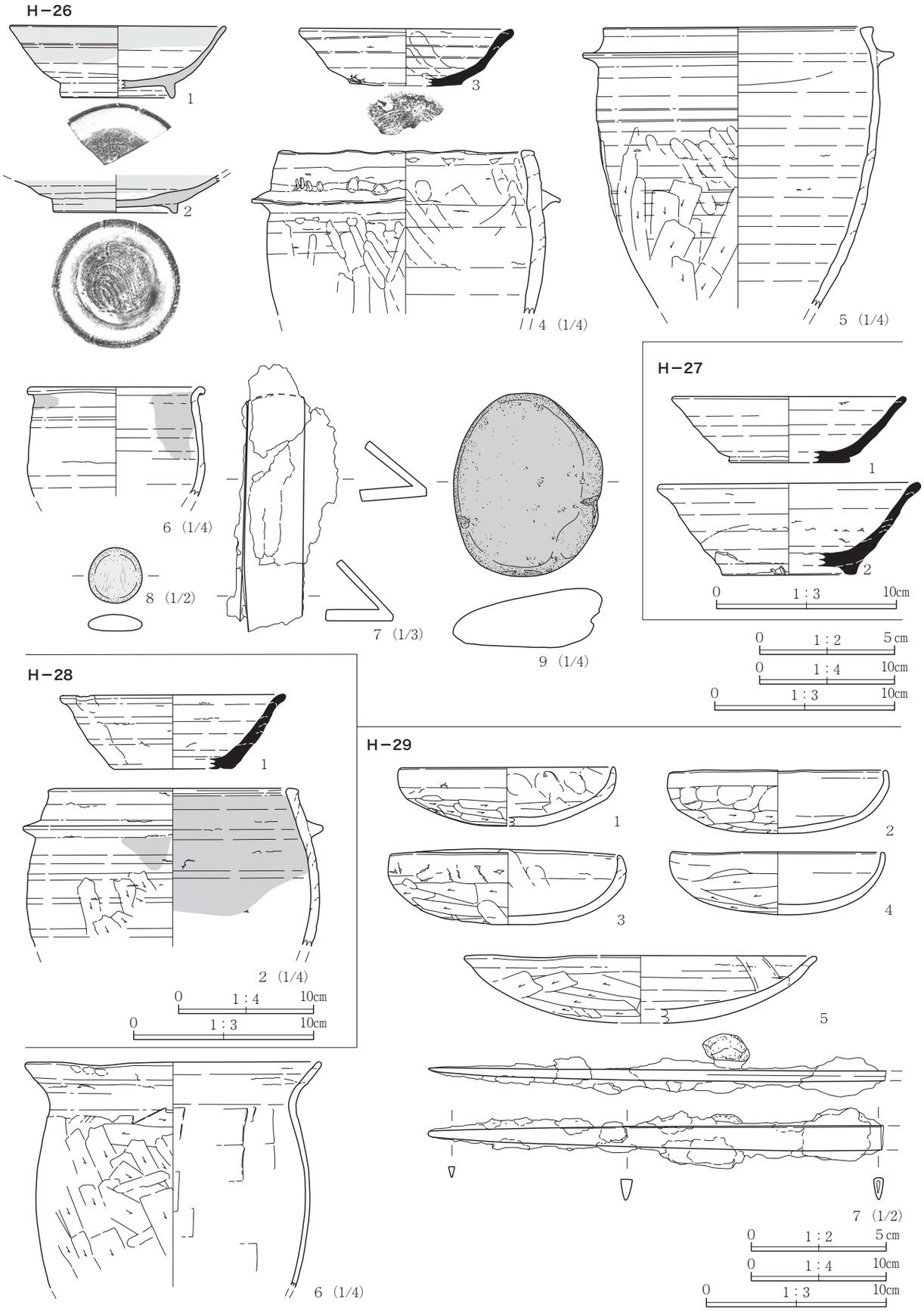


Fig.27　A区H－26～29号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　38　　2014/07/16　11:10:09

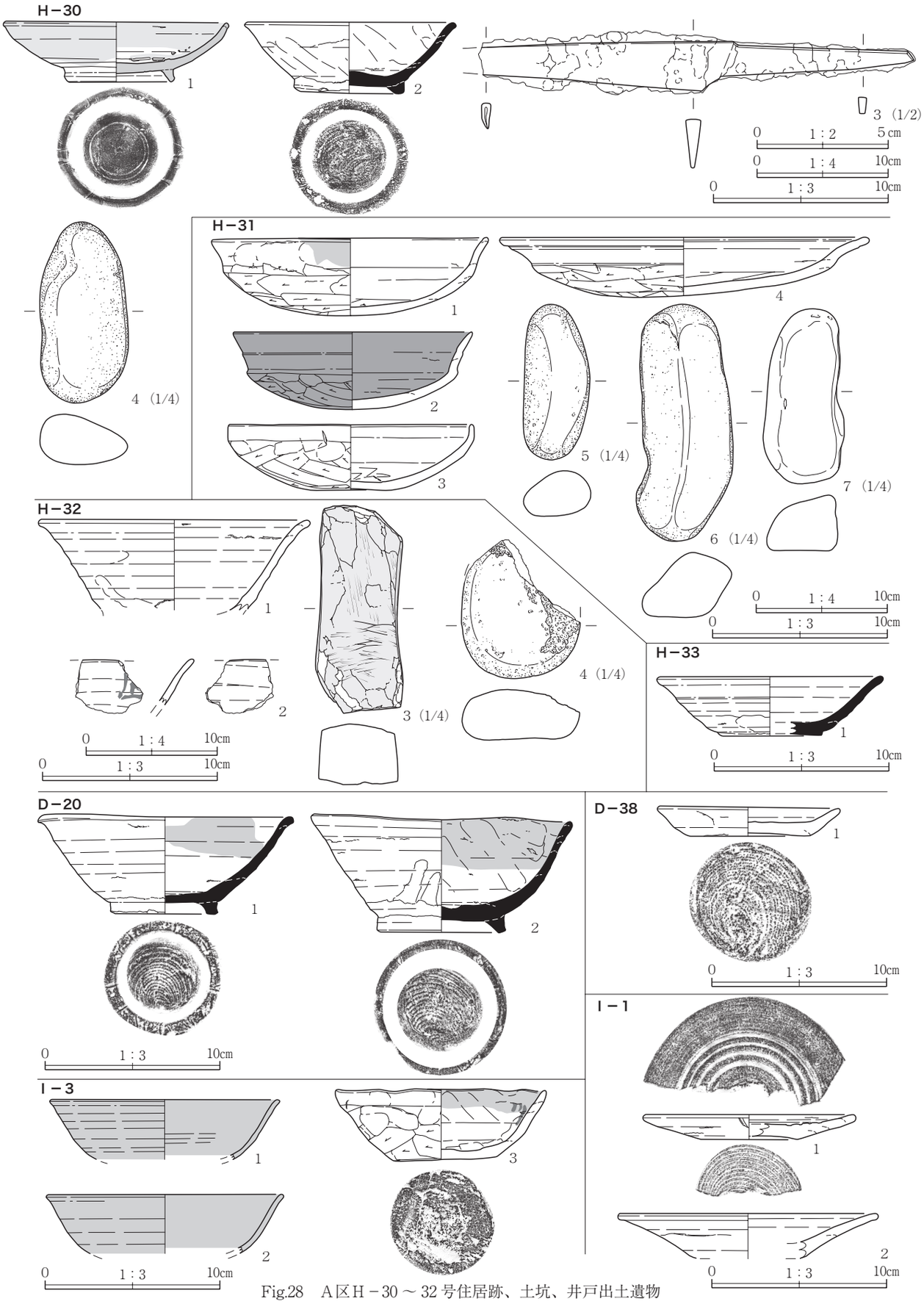
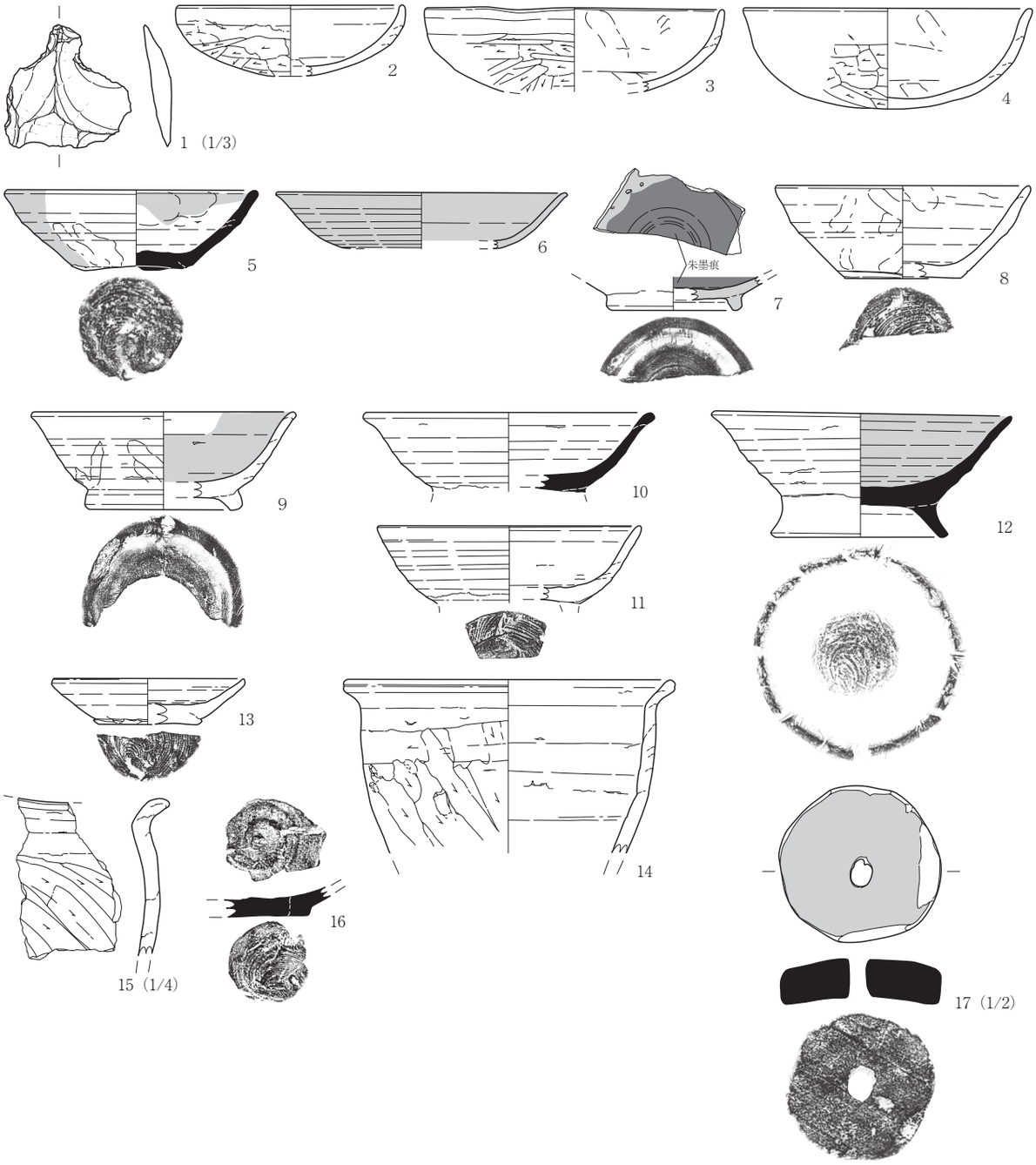


Fig.28　A区H－30～32号住居跡、土坑、井戸出土遺物

oumi60c.indd　39　　2014/07/16　11:10:10



0 1：2 5cm
0 1：4 10cm
0 1：3 10cm

Fig.29　A区遺構外出土遺物

oumi60c.indd　40　　2014/07/16　11:10:12

Tab. 3　A区出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	〔12.2〕	丸底	4.8	黒・茶色粒	良好	黒褐 にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/5 残存。 外面黒色処理か。
2	No.20	土師器 甕	-	4.5	16.8	白・黒色粗粒、黒雲母	やや軟質	赤褐 明赤褐	外面胴部斜位ヘラケズリ、下位横位ヘラケズリ、底部木葉痕あり。 内面ヘラナデ及びユビナデ。	胴部中位～底部残存。
3	No.21	土師器 甕	〔20.0〕	欠	(35.5)	白・黒・茶色粗粒、～ 1cm 大の小石	やや軟質	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、肩部ナデ、以下縦位ヘラケズリ、下位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/3 残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	No. 1	石器 こも編石	11.3	6.6	4.8	砂岩	-	-	514.6	-	完存。風化が著しい。
5	No. 2	石器 こも編石	14.8	6.1	4.2	礫岩	-	-	370.3	-	裏面上半部欠損。
6	No. 3	石器 こも編石	(13.2)	7.1	4.5	粗粒安山岩	-	-	541.5	-	3/4 残存。
7	No. 4	石器 砥石	10.2	5.4	5.6	角閃石安山岩	-	-	372.1	表・裏面、左右側面共に縦方向の擦痕が顕著。	完存。
8	No. 5	石器 こも編石	13.2	6.9	5.0	礫岩	-	-	600.4	表・裏面共に剥落が著しい。	ほぼ完存。
9	No. 6	石器 こも編石	14.2	6.0	4.7	粗粒安山岩	-	-	571.7	-	左側縁～裏面剥落。
10	No. 8	石器 こも編石	15.6	6.2	5.55	粗粒安山岩	-	-	646.1	-	完存。
11	No. 9	石器 こも編石	14.7	5.4	5.1	粗粒安山岩	-	-	648.2	裏面被熱。	完存。
12	No.10	石器 こも編石	16.1	6.7	5.4	粗粒安山岩	-	-	885.1	磨面は平坦で滑らかである。煤あるいは墨の付着あり。	完存。
13	No.11	石器 こも編石	16.1	5.4	5.4	黒色頁岩	-	-	671.8	左右側面の磨耗が顕著である。	裏面欠損。
14	No.12	石器 こも編石	13.8	6.2	4.55	頁岩	-	-	681.3	-	完存。
15	No.13	石器 こも編石	12.7	7.3	5.5	黒色頁岩	-	-	656.7	-	完存。
16	No.14	石器 こも編石	14.6	8.4	4.6	粗粒安山岩	-	-	840.3	中央付近の凹部下位に横の磨痕が顕著である。	完存。
17	No.15	石器 こも編石	14.7	5.9	4.4	粗粒安山岩	-	-	572.3	-	完存。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	須恵器 高台付坏	〔14.9〕	〔7.6〕	5.2	白・黒色粒、黒雲母、1cm 大の小石	酸化焔	橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。
2	No. 3	須恵器 坏	〔13.2〕	〔6.0〕	4.2	白・黒・茶色粒、小礫	酸化焔	にぶい橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
3	No.11	須恵器 高台付坏	13.7	7.0	5.2	白・黒・茶色粒	酸化焔	橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ（及びヘラナデ）	4/5 残存。 内面中位～底部光沢ある焔付着。
4	No.23	須恵器 高台付坏	〔15.9〕	〔5.8〕	6.5	白・黒色粒、小礫	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。
5	No.25	須恵器 高台付坏	〔14.3〕	〔7.2〕	4.8	白・黒・茶色粒	酸化焔	橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。
6	No.15	須恵器 高台付坏	12.7	5.8	3.5	白・黒色粒、小礫	やや酸化焔	灰黄、黄灰 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。
7	カマド堀方 覆土	須恵器 高台付坏	〔13.6〕	欠	(5.0)	白・黒・茶色粒、小礫	酸化焔	にぶい橙、褐 灰褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。高台部欠損。
8	No.20	須恵器 甕	15.6	-	(9.0)	白・黒色粗粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～頸部 4/5 残存。
9	No.14、27	土師器 甕	〔18.1〕	欠	〔11.4〕	白・黒色粒、チャート	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。	口縁～胴部上位 2/5 残存。

H－5

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	〔15.6〕	欠	(6.0)	白・黒・茶色粒	良好	にぶい褐 、黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～体部中位片。 外・内面漆塗布。
2	覆土	土師器 坏	〔12.0〕	丸底	4.6	白・黒色粒、チャート	良好	褐灰 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/4 残存。 外・内面漆塗布。

H－6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師質 坏	8.3	6.1	1.8	白・黒・茶色粒、黒雲母、チャート	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	5/6 残存。胎土に含まれる小石の抜けにより 2 ヶ所貫通した小穴あり。
2	No. 2	土師質 坏	8.8	5.3	2.4	白・黒色粒、黒雲母、小礫	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	5/6 残存。 底部回転糸切後に施された平行する約 2 mm 幅の沈線が 4 ヶ所にみられる。
3	覆土	土師質 坏	〔7.9〕	〔5.3〕	1.7	白・黒色粗粒、黒雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
4	No. 8	土師質 高台付坏	欠	欠	(3.3)	黒色粒、茶色粗粒	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）高台貼付け。 内面ロクロナデ。	坏（埦）底部～高台部中位残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No. 9	瓦 平瓦	(12.3)	(14.0)	3.2	白・黒色粒、石英、チャート	やや酸化焔	黄灰 にぶい褐	表面布目痕あり。左側面ヘラケズリ。 裏面ヘラナデ及びユビナデ	中位左側縁片。 左側縁付着物あり。

H－7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師質 坏	9.2	4.7	1.9	白・黒・橙色粗粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。歪みあり。

H－8

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド 覆土	土師器 高台付坏	〔13.1〕	8.5	6.1	白・黒色粗粒、黒雲母	良好	にぶい橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	坏部 1/3 欠損

H－9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	灰釉陶器 皿	11.8	6.9	2.2	黒色細粒	堅緻	灰黄、黄灰 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	5/6 残存。外・内面・口縁～体部中位に施釉。内面底部に重ね焼痕あり。
2	No. 2	土師質 高台付坏	14.8	8.2	6.2	黒色粒 、茶色粗粒	酸化焔	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後坏部下位回転ヘラケズリ。 底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	ほぼ完存。 外面口縁部に若干煤付着。
3	No. 4	土師質 高台付坏	欠	12.7	(5.2)	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面体部ロクロナデ、裾部ヨコナデ。 内面体部ロクロナデ、裾部ヨコナデ。	脚部 2/3 残存。高脚高台。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	No.14	石器 磨石	12.9	12.1	4.4	粗粒安山岩	-	-	115.8	表・裏平坦面は磨耗により滑らかである。	完存。煤付着。

H－10

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付坏	13.1	欠	(4.2)	白・黒色粒、チャート	酸化焔	橙、にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部（回転糸切り後）高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	坏部 4/5 残存。 高台部欠損。
2	No. 2	須恵器 羽釜	〔19.2〕	欠	-	白・黒色粒、黒雲母・小礫	やや酸化焔	灰、褐 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後胴部下位ユビナデ及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～胴部下位 1/5 残存。 外面煤付着。鍔部径〔24.0〕cm

oumi60c.indd　41　　2014/07/16　11:10:13

H－11

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 3	土師質 坏	〔8.6〕	4.8	1.6	白・黒・茶色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/3 残存。
2	上層	土師質 坏	〔9.6〕	〔6.4〕	1.4	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。
3	No. 6	土師質 坏	〔14.7〕	欠	(4.0)	白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土	土師質 転用紡錘車	6.2	(2.7)	1.0	黒色粒土		にぶい橙 灰	表面ロクロナデ 。 裏面回転糸切り。	1/2 残存。 中央には穿たれた円孔（径 0.9mm）及び紡錘車周縁には丁寧な研磨が施され比較的大形の紡錘車を作り出している。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No. 1	鉄製品 鐙	5.5	4.3	0.8	鉄	-	-	52.1	-	一部破損。部分的に緑青が付着する。
6	覆土	鉄製品 刀子	(6.4)	(0.6)	0.25	鉄	-	-	8.2	-	先端部・基部欠損。
7	覆土	椀型鍛冶滓	10.0	7.9	4.6	-	-	-	349.9	-	

H－12

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 3	須恵器 高台付坏	13.0	5.7	4.8	黒色粗粒	酸化焔	にぶい橙 ぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。
2	No. 2、覆土	須恵器 坏	〔12.2〕	4.9	4.0	白・黒色粒、小礫	良好	にぶい黄橙 黒	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後ミガキ。	2/5 残存。内面は光沢のある黒色処理が施されている。
3	No. 1	羽釜	〔26.6〕	欠	(6.5)	白・黒色粒、石英	酸化焔	橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔30.5〕cm

H－13

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド 覆土	須恵器 高台付坏	〔13.9〕	欠	5.1	白・黒色粒	普通	灰黄 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	土師器 転用紡錘車	(4.9)	(3.9)	1.2	白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	表・裏面共に回転ナデ	1/3 残存。 中央に穿たれた円孔（径 1.0cm）及び、紡錘車周縁には丁寧な研磨が施され、比較的大形の紡錘車を作り出している。
3	No. 1	瓦 軒平瓦	(20.5)	(18.2)	5.0	白・茶色粒、石英、小石	堅緻	灰 灰	瓦当直接施紋。顎部２条隆起線紋内に蓮唐草紋。 平瓦凹面縄目、凸面叩きしめ。	軒部大形片。 上面平瓦部煤付着。

H－15

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台坏坏	18.0	13.7	4.9	黒色細粒、 灰色粗粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部削り出し高台。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No. 4	石器 こも編石	11.3	5.6	4.4	粗粒安山岩	-	-	379.6	-	-

H－17

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 坏	〔10.8〕	5.8	3.2	白・黒色粒	酸化焔	にぶい黄 にぶい黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後ミガキ。	1/3 残存。 口縁部煤付着。
2	No. 1	土師質 坏	10.6	4.6	3.0	白・黒・茶色粒、 チャート粗粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ（回転ナデ）。底部ヘラナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ（回転ナデ）。	3/4 残存。 全体に粗雑な成・整形。

H－18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 盤	〔15.8〕	〔13.3〕	2.0	白色粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～底部片。 内面自釉付着。
2	覆土	土師器 坏	〔10.0〕	欠	(2.8)	白・黒色粒、水晶	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/5 残存。
3	覆土	土師器 坏	〔12.8〕	欠	(3.4)	白・黒・赤色粒	良好	明褐 明褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/4 残存。
4	覆土	土師器 坏	〔12.0〕	丸底	3.4	白・黒・茶色粒	良好	にぶい褐 にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/5 残存。
5	覆土	土師器 埦	〔15.0〕	欠	(5.0)	黒雲母	良好	にぶい赤褐 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下肩部横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～肩部片。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No.18	石器 こも編石	15.9	5.6	4.0	粗粒安山岩	-	-	509.3	右側面及び裏面は磨耗により滑らかである。	完存。

H－19

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師質 坏	9.0	4.7	2.1	白・黒色粒、 黒雲母	良好	明赤褐、褐灰 褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁部２ヶ所欠損。 底部歪みあり。
2	覆土	土師質 坏	〔9.5〕	〔7.4〕	1.8	白・茶色粒、 黒雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
3	覆土	土師質 坏	〔9.5〕	〔6.7〕	1.7	白・黒色粒、 黒雲母	良好	にぶい褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
4	カマド 覆土	埴輪 円筒埴輪	欠	欠	(9.3)	白・黒色粒、 チャート粗粒	良好	橙 明赤褐	外面やや太い斜位及び縦ハケ、ハケ目７条。２cm 幅。幅 1.2cm の突帯部は丸みをおびている。透孔あり。内面ユビナデ。	胴部片。 胴部厚さ 1.8cm、 突帯幅 1.2cm

H－20

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.10	土師質 坏	〔9.1〕	〔3.8〕	3.1	白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
2	No.12	土師質 坏	8.2	4.5	1.8	白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/3 残存。
3	覆土	土師質 坏	〔9.1〕	4.4	2.2	白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。
4	D・1 覆土	手捏土器	欠	3.0	(2.7)	白・黒色粒	良好	暗赤褐 暗赤褐	外面手捏ね。底部手捏ね及びヘラケズリ。 内面手捏ね。	体部中位～底部残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No.25	瓦 丸瓦	(27.5)	15.6	2.0	白・黒・茶色粒	やや酸化焔	褐 にぶい赤褐	表面ナデ。右側面、下側面ヘラケズリ。 裏面布目。左縁辺、下縁辺ヘラナデ	右下半分片
6	No.15	瓦 平瓦	(18.9)	(16.8)	2.2	白色粒・小礫	やや酸化焔	にぶい褐 にぶい褐	表面布目。上側面ヘラケズリ。 裏面ナデ	上半部片。 左右側縁付近煤付着。
7	No.26	瓦 平瓦	(25.0)	(19.0)	2.0	白・茶色粗粒、 石英	やや酸化焔	褐灰 褐灰	表面布目。上・左側面ヘラケズリ。 裏面ナデ。右上部に直径６mm、深さ７mm の円孔を有する。	左上半分片

oumi60c.indd 42 2014/07/16 11:10:13

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	D－1覆土	鉄製品	8.0	3.0	0.8	鉄	-	-	19.3	-	T字状
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	覆土	石器 磨石	11.4	(7.0)	3.3	火山礫凝灰岩	-	-	115.8	表・裏平坦面に若干の擦痕がみられる。 左側縁、上下側縁及び裏面中央付近に敲打痕がみられる。	右半分欠損。

H－21

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付坏	〔12.5〕	〔4.5〕	5.2	白・黒色粒少量	やや軟質	灰黄褐 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5残存。

H－23

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付坏	13.4	6.0	5.2	白・黒・茶色粒	普通	にぶい黄褐 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	5/6残存。
2	No. 6	須恵器 坏	〔12.7〕	欠	4.4	白・黒・茶色粒	やや酸化焔	にぶい黄褐 オリーブ黒 オリーブ黒	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位残存。

H－24

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	土師器 甕	〔18.5〕	欠	(14.4)	白・茶色粗粒、 石英	良好	明褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後胴位縦位ヘラケズリ、中位斜位ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ及びヘラナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部中位2/5残存。

H－25

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1.2.3	須恵器 高台付坏	〔13.4〕	〔6.5〕	5.3	黒色粒、石英粗粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2残存。 口縁部煤付着
2	No. 4	須恵器 高台付坏	13.8	6.3	4.8	白・黒色粒、 チャート粗粒	やや酸化焔	灰白、浅黄 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2残存。

H－26

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.22	灰釉陶器 高台塊	〔12.0〕	〔6.2〕	4.0	白色粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部削り出し高台。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4残存。 外・内面口縁～体部中位に灰釉施釉。
2	No.34	灰釉陶器 塊	欠損	〔6.8〕	(2.1)	長石	堅緻	灰白 オリーブ灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロナデ。	体部下半～底部残存。 外・内面に施釉。
3	No.39	須恵器 坏	〔11.8〕	〔6.2〕	3.2	白・黒色粒、小礫	酸化焔 やや軟質	黄灰 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4残存。
4	No. 1，9	羽釜	〔19.0〕	欠	(12.1)	白・黒色粒、小礫	やや酸化焔	黄灰、浅黄 にぶい黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクドナデ胴部上位縦位ヘラケズリ後ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。	口縁～胴中位片。 鍔部径〔229〕cm
5	No. 6，他	羽釜	〔19.8〕	欠	(20.8)	白・黒色粒、小礫 、チャート粗粒	やや酸化焔	黄灰、橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後胴部中位ユビナデ、下半部縦位ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～胴部下位1/3残存。 鍔部径230cm
6	No.18	土師器 土釜	12.5	欠	(8.1)	白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～胴部下位片。 外・内面に炭化物付着。
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	No.31	鉄製品 板状鉄製品	(13.3)	3.8	0.4～0.6	鉄	-	-	455.6	-	大形片。
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	No.23	石製品	2.05	2.0	0.6	長石	-	-	3.0	製品は全体に滑らかで、若干の擦痕がみられる。	白色碁石状。完存。
9	No.37	石器 磨石	13.6	11.6	4.4	粗粒安山岩	-	-	925.4	表・裏面の平坦部を磨面として使用している。側面には若干の敲打痕がみられる。全体に被熱している。	完存。

H－27

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	須恵器 高台付坏	〔12.9〕	〔6.6〕	3.7	白・黒・灰色粒	普通	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/6残存。
2	No. 5	須恵器 高台付坏	〔14.4〕	〔7.4〕	5.1	白・黒・茶色粒	酸化焔	にぶい黄橙 橙橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部(回転糸切り後)高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3残存。

H－28

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	須恵器 坏	〔12.3〕	〔6.5〕	4.1	白・黒色粒、石英 、小礫	やや軟質	灰黄 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5残存。
2	No. 3	羽釜	〔18.6〕	欠	(11.7)	白・茶色粒	やや酸化焔	にぶい黄橙 にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。胴部中位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～胴部中位片。外・内面煤付着。 鍔部径〔22.2〕cm

H－29

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	〔11.9〕	丸底	3.2	白・黒色粒、 チャート粗粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/2残存。
2	No. 2	土師器 坏	12.1	丸底	3.5	白・黒色粒、 チャート	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体部中位ユビナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	4/5残存。
3	No. 8	土師器 坏	12.7	丸底	4.2	白・黒色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	4/5残存。
4	No. 9	土師器 坏	〔11.7〕	丸底	3.5	白・黒・茶色粒、 チャート	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	2/3残存。
5	No. 3	土師器 坏	〔19.6〕	欠	(3.8)	白・黒色粒、 黒雲母、石英	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ヘラナデ及びユビナデ。	1/5残存。
6	No.11	土師器 甕	〔21.8〕	欠	(16.7)	白・黒・赤色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下肩部横位ヘラケズリ、以下斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部中位片。
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	No. 4	鉄製品 刀子	(16.9)	0.9	0.4	鉄	-	-	38.5	先端部若干曲がる	基部欠損。

H－30

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 7，9	灰釉陶器 塊	12.6	5.9	3.4	黒色粒、白色粗粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。体部下位ロクロナデ後回転ヘラケズリ。 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4残存。外・内面施釉。 内面底部に重ね焼き痕あり。
2	No. 1	須恵器 高台付坏	〔11.8〕	6.3	4.1	白・黒色粒、 4mm大の小石	やや軟質	灰白、灰 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びユビナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2残存。
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 8	鉄製品 刀子	(16.6)	1.9	0.6	鉄	-	-	37.4	-	刃部先端欠損。
No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	No. 6	石器 こも編石	13.9	6.8	3.9	粗粒安山岩	-	-	513.8	-	完存。

oumi60c.indd 43 2014/07/16 11:10:14

H－31

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.14	土師器 坏	15.7	丸底	4.5	白・黒色細粒、輝石	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	3/4 残存。 外面口縁部煤付着。
2	No.24,30	土師器 坏	〔13.6〕	丸底	4.4	白・黒色粒	良好	黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/2 残存。 外・内面黒色処理。
3	No.25,34	土師器 坏	〔13.9〕	丸底	3.8	白・黒色粒、輝石	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/2 残存。
4	No.28	土師器 皿	〔20.8〕	丸底	3.4	白・黒・茶色粒	良好	明褐 明褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/3 残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No.31	石器 こも編石	11.9	5.0	3.9	粗粒安山岩	-	-	293.3	-	完存。
6	No.32	石器 こも編石	18.1	7.3	5.2	砂岩	-	-	946.2	-	完存。
7	No.33	石器 こも編石	13.4	6.3	4.8	泥岩	-	-	637.1	-	完存。

H－32

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.10	土師質 高台付坏	〔15.3〕	欠	5.1	白・黒色粒、チャート	酸化焔	橙 明黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。
2	覆土	土師質 坏	〔6.4〕	欠	(3.1)	白・黒色粒	酸化焔	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁部片。外面墨書。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No.17	石器 砥石	15.9	6.6	4.7	角閃石安山岩	-	-	737.3	表・裏面は若干の鎬を有する。研磨面で、表面にはやや深い横位の線刻がみられる。左・右側面は滑らかな研磨面でやや凹む。	完存。
4	覆土	石器 磨石	(10.6)	9.1	3.7	粗粒安山岩	-	-	409.8	表面上部及び右半部に敲打痕を有し、裏面の平坦範囲を磨面使用している。	右上半分欠損。

H－33

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド 覆土	須恵器 坏	〔12.6〕	〔5.6〕	3.4	黒色粒、チャート粗粒	やや酸化焔	浅黄 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。

I－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	〔11.9〕	〔5.4〕	1.4	白・黒・茶色粒	やや酸化焔	にぶい黄橙 浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。内面底部沈線による深いロクロ目。
2	覆土	かわらけ	〔14.7〕	欠	(2.6)	白・黒・茶色粒、黒雲母、チャート	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁部片。

I－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	緑釉陶器 埦	〔12.9〕	欠	3.4	粘土質	堅緻	オリーブ灰 オリーブ灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。 外・内面緑釉施釉。
2	覆土	緑釉陶器 埦	〔13.3〕	欠	(3.4)	粘土質	堅緻	オリーブ灰 オリーブ灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。 外・内面緑釉施釉。
3	覆土	土師器 坏	11.9	5.9	4.1	白・黒・茶色粒	良好	灰褐、黒 黒	外面口縁部ヨコナデ、以下体部中位ユビナデ、以下ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	3/4 残存。 外・内面口縁部に煤及び炭化物付着。

D－20

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付坏	14.3	5.9	5.7	白・黒色粒、チャート粗粒	やや酸化焔	黄褐、黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。 内面煤付着。
2	No. 2	須恵器 高台付坏	14.8	7.3	6.8	白・黒・茶色粒、小礫	やや酸化焔	にぶい黄橙、黒 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。 内面口縁～体部中位に煤付着。

D－38

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師質 坏	10.3	6.9	1.7	黒・茶色粒、長石、黒雲母	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	表採	石器 石匙	6.0	6.1	1.4	砂岩	-	-	29.7	薄型の横長剥片である。若干の調整剥離を施し基部を作出か。	完存。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	表採	土師器 坏	〔10.8〕	丸底	3.4	黒色粒・輝石	良好	にぶい黄褐 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/4 残存。
3	表採	土師器 坏	〔14.3〕	欠	(4.1)	黒色粒	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/5 残存。
4	表採	土師器 坏	〔13.9〕	丸底	4.9	白・黒色粒、黒雲母	良好	にぶい褐 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/8 残存。
5	表採	須恵器 坏	11.9	5.2	3.9	白色粒、輝石、小礫	普通	灰黄褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 外・内煤付着。
6	H－26 No.28	緑釉陶器 埦	〔14.0〕	欠	(2.7)	白・黒色細粒	堅緻	オリーブ灰 オリーブ灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。 外・内面緑釉施釉。
7	H－31 覆土	灰釉陶器 埦 転用硯	-	6.1	(1.7)	白・黒色粒少量	堅緻	灰白 にぶい赤橙	外面体部ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け。 内面ロクロナデ。	体部下位～底部片。 内面底部朱墨痕あり。9 世紀後半。
8	表採	土師器 坏	〔12.1〕	〔5.5〕	4.5	白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
9	表採	土師質 高台付坏	〔12.6〕	7.3	4.7	黒・茶色粒	酸化焔	にぶい褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。 内面煤付着或いは黒色処理。
10	表採	須恵器 坏	〔13.8〕	欠	(3.8)	白・黒色細粒	やや酸化焔	にぶい黄褐 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
11	表採	土師質 高台付坏	〔12.6〕	欠	(3.7)	白・黒色粒、黒雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5 残存。
12	H－31 No. 1	須恵器 高台付坏	14.4	8.3	6.1	白・黒色粒、チャート粗粒、礫	やや酸化焔	にぶい黄褐 にぶい黄褐、黒	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。 内面煤付着。
13	表採	土師質　坏	〔9.1〕	〔4.7〕	2.2	黒・茶色粒、チャート	良好	にぶい橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
14	表採	土師質　土釜	〔15.6〕	欠	(8.4)	白・茶色粒	良好	灰黄褐 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、肩部横位ヘラナデ、以下斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	口縁～胴部中位片。
15	表採	土師質　土釜	不明	欠	(10.1)	白・茶色粒、黒雲母	良好	暗灰黄 暗灰黄	外面口縁部ヨコナデ、肩部ナデ、以下斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	口縁～体部中位片。
16	D－37 覆土	かわらけ	欠	(3.9)	(1.4)	白・黒・茶色粒	酸化焔	褐灰 にぶい黄橙	外面底部回転糸切り。 内面ロクロ。	底部片。 内部底面、ロクロ目残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	穿径	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
17	表採	転用紡錘車	5.1～5.2	0.9	1.4	白・黒色細粒、6 mm 大の小石	還元焔	灰	39.4	比較的大形の羽釜胴部破片を素材に、周縁上に丁寧な研磨を施し若干六角形を呈する円形を作り出している。	ほぼ完存。 実測面煤及び炭化物付着。

oumi60c.indd　44　　2014/07/16　11:10:15

２　Ｂ区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 30 ～ 32・36、PL. 10・16）

位置　Ｘ 87 ～ 90、Ｙ 236 ～ 239　**主軸方向**　Ｎ－ 70°－Ｅ　**規模**　東西軸 9.73 m、南北軸 9.98 m、壁現高 0.42 m。　**面積**　83.27 ㎡　**床面**　平坦で硬化が弱い。　**重複**　Ｗ－３・４、Ｄ－１と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－４、Ｄ－１→Ｗ－３である。　**カマド**　東壁やや南寄りに１基検出。確認長 1.89 m、燃焼部幅 0.69 m。天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右側（南）が 0.57 m、左側（北）が 0.64 m、煙道は壁外に 0.87 m突出している。両袖の構築部材として、面取りされた砂岩が１対出土している。さらに焚口側には、石材の抜き取り痕と考えられるピット状の掘り込みが右袖に２基、左袖に１基検出した。掘り方は煙道部のみを住居外へ掘り進め、住居壁面を境として内側に燃焼部および袖を構築している。カマド崩落土は床面南方向に堆積しているが、焼土および灰層の混入は少ない。　**貯蔵穴**　南側Ｐ１・２の間に長軸 3.11 m、短軸 1.63 m、深さ 0.23 mの間口が広く浅い掘り込みが確認された。貯蔵穴かは不明であるが、周囲の貼床面が掘り込み内部にまで及んでいることから、何らかの住居内施設であると考えられる。　**柱穴**　床面において主柱穴と想定されるＰ１～４が検出された。規模（長軸×短軸×深さ）はＰ１が 0.97 m× 0.88 m ×0.65 m、Ｐ２が 0.92 m ×0.84 m ×0.65 m、Ｐ３が 0.70 m ×0.68 m× 0.61 m、Ｐ４が 0.79 m× 0.71 m ×0.66 mである。　**掘り方**　黄色砂粒を少量、As-C 軽石を微量含む黒褐色土により構築されている。住居中央部では北西から南東方向へ鉄製耕具（鋤）による掘削痕が筋掘り状に約 11 条検出されている。　**出土遺物**　覆土中より須恵器坏蓋（１～３）、須恵器円面硯（４）、須恵器長頸瓶（５・６）、須恵器短頸壺（７）、須恵器高台付坏（８・９・13）、須恵器坏（10 ～ 12）、須恵器盤（14）土師器鉢（15 ～ 17）、土師器坏（18 ～ 25）、床面直上より棒状鉄製品（26）、こも編石（27）が出土している。　**備考**　壁際を中心とした堆積土層（住居断面６層）に、直径３～ 10cm 程度の Hr-FA ブロックがやや多く混入している。床面から間層を挟んでの堆積であるため、埋没過程に他から流入したものであろう。住居の規模に対して、床面硬化が弱く、住居内施設が貧弱で床面直上の遺物は少ない一方で、覆土遺物は破片数で 1466 点と極めて多く、重量比で 70.5％を須恵器が占める。　**時期**　出土遺物の傾向から７世紀末～ ８世紀初頭と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 33・36・37、PL. 10・11・16）

位置　Ｘ 86・87、Ｙ 235　**主軸方向**　Ｎ－ 73°－Ｅ　**規模**　東西軸（3.62）m、南北軸（2.92）m、壁現高 0.51 m。調査区北壁において南半のみ検出であり、北半は調査区外となる。　**面積**　（6.64）㎡　**床面**　やや凹凸があり、締まりが強い。　**重複**　Ｈ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－３である。　**カマド**　東壁南寄りに１基検出。確認長 1.24 m、燃焼部幅 0.41 m、袖の残存長は右側（南）が 0.45 m、左側（北）が 0.43 m、煙道は壁外に 0.50 m突出している。両袖の構築部材として、砂岩が１対出土している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを微量含む黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　須恵器坏蓋（１）、須恵器長頸壺（２）、土師器坏（３～９）、土師器甕（10）、砥石（11）、こも編石（12 ～ 15）が出土している。１～８・10 ～ 15 が床面直上、９が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から７世紀後半と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 33・37、PL. 11・16）

位置　Ｘ 87・88、Ｙ 235　**主軸方向**　Ｎ－ 79°－Ｅ　**規模**　東西軸（3.48）m、南北軸（2.19）m、壁現高 0.43 m。調査区北壁において南半のみ検出であるが、南側の大半も撹乱により削平されているため、カマドから調査区壁付近と西端部のみの検出となっている。　**面積**　（1.93）㎡　**床面**　平坦で締まりが強い。　**重複**　Ｈ－２と重複し、新旧関係はＨ－２→本遺構である。　**カマド**　東壁に１基検出。確認長 1.16 m、燃焼部幅 0.31 m、煙道は壁外に 0.81 m突出している。右袖（南側）の構築部材として、砂岩が１点出土している。　**貯蔵穴**　検出さ

oumi60c.indd　45　　2014/07/16　11:10:15

れず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸面に黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　床面直上より土師器坏（１～３）、こも編石（４～７）が出土している。２・４～７は住居南西隅床面に並んだ状態で確認されている。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀前半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 34・37、PL. 11・16）

位置　X 90、Y 235・236　**主軸方向**　N－4°－W　**規模**　東西軸（1.39）m、南北軸（4.50）m、壁現高 0.26 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（3.84）㎡　**床面**　平坦で締まりの強い地山硬化床。　**重複**　無し。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　住居南西側に１基検出。長軸 0.63 m、短軸 0.54 m。深さ 0.44 mを測り、断面箱状で上部は台形状に開く。　**柱穴**　北側に１基検出。長軸（0.64）m、短軸（0.08）m、深さ（0.21）mを測るが、調査区壁際での検出であり、大半は調査区外となる。　**掘り方**　大半は地山を直接床面としているが、細かい凹面に黒褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　北西壁際から土師質坏（１）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig. 35・37、PL. 11・16）

位置　X 89・90、Y 238～240　**主軸方向**　N－100°－E　**規模**　東西軸 3.12 m、南北軸 4.55 m、壁現高 0.17 m。　**面積**　（11.06）㎡　**床面**　やや凹凸があり、締まりが強い。　**重複**　Ｈ－６と重複し、新旧関係はＨ－６→本遺構である。　**カマド**　東壁南寄りに１基検出。確認長 0.94 m、燃焼部幅 0.72 m、天井部は完全に崩落しており、覆土中から構築部材と考えられる面取りされた砂岩が倒れた状態で出土している。煙道は壁外に 0.52 m 突出している。　**貯蔵穴**　南東隅に１基検出。長軸 0.58 m × 短軸 0.54 m、深さ 0.12 mを測り、断面弧状を呈する。　**柱穴**　南側と北西隅から、ピット状の浅い掘り込みを計２基検出。南側（Ｐ１）は長軸 0.37 m、短軸 0.34 m、深さ 0.25、北西隅（Ｐ２）は長軸 0.30 m、短軸 0.30 m、深さ 0.15 m、覆土中には炭化物が多く混入し、底面は硬く締まる。　**掘り方**　As-C 軽石粒と黄色砂粒を微量含む暗褐色土により構築される。　**出土遺物**　須恵器坏（１～３）、須恵器高台付坏（４～６）、土師器甕（７）、土師器台付甕（８）、こも編石（９・10）が出土している。１・２・４・８～10 が床面直上、３・６がカマド、５・７が貯蔵穴付近からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig. 34・38、PL. 11）

位置　X 89・90、Y 238・239　**主軸方向**　N－90°－E　**規模**　東西軸（1.68）m、南北軸（2.34）m、壁現高 0.14 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（2.85）㎡　**床面**　やや締まりが強い。　**重複**　Ｈ－５と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－５である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂粒をやや多く、As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土により構築される。　**出土遺物**　床面直上より土師器坏（１）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から７世紀前半と想定される。

（２）溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.35、PL.11・12）

位置　X 87～90、Y 241・242　**主軸方向**　N－84°－E　**規模**　長さ（11.52 m）、上幅（2.83 m）、下幅（0.60 m）、深さ（1.36 m）。　**形状等**　東西方向に走向する。南側の立ち上がりは調査区外になり不明ではあるが、断面形状は台形状を呈すると思われる。　**出土遺物**　なし　**時期**　蒼海城の堀跡の一部と考えられ、15 世紀後半から 17 世紀前半と想定される。　**備考**　調査区南端の検出で道路際であるため、安全を考慮としトレンチ調査とした。なお、検出位置、走向方向及び山崎氏の縄張り図から『元総社蒼海遺跡群（38）』８区Ｗ－１号溝跡へ延びると想定される。

oumi60c.indd　46　　2014/07/16　11:10:15

Ｗ－２号溝跡（Fig.35、PL.12）

位置　Ｘ 87 ～ 90、Ｙ 240・241　**主軸方向**　Ｎ－ 91°－Ｅ　**規模**　長さ（12.78 m）、上幅 1.98 m 、下幅 0.88 m、深さ 0.57 m。　**形状等**　東西方向に走向し、断面台形状を呈する。底面は弧状に下がっている。　**重複**　Ｗ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－３である。　**出土遺物**　須恵器、土師器が出土しているが、図示にはいたらず。　**時期**　Ｗ－１上層に堆積している砂質土と同質なものを覆土としていることから、Ｗ－１より新しいと考える。　**備考**　試掘トレンチから東側調査区壁の溝上部は重機により削平されている。

Ｗ－３号溝跡（Fig.35・38）

位置　Ｘ 90、Ｙ 237 ～ 240　**主軸方向**　Ｎ－ 1°－Ｅ　**規模**　長さ（12.53 m）、上幅 0.82 m、下幅 0.59 m、深さ 0.11 m。　**形状等**　南北方向に走向し、断面弧状を呈する。　**重複**　Ｈ－１・５　、Ｗ－２と重複し、本遺構が最も新しい。　**出土遺物**　須恵器、土師器が少数出土しているが、図示にはいたらず。　**時期**　出土遺物は本遺構に付随するものではなく重複するＨ－１号住居跡からの混入と考えられる。また、覆土の堆積状況から判断すると、本調査区内で最も新しい以降であり、近世から近代のものと想定される。

Ｗ－４号溝跡（Fig.35、PL.12・17）

位置　Ｘ 86 ～ 90、Ｙ 236・237　**主軸方向**　Ｎ－ 90°－Ｅ　**規模**　長さ（15.54 m）、上幅 1.51 m、下幅 0.83 m、深さ 0.56 m。　**形状等**　東西方向に走向し、断面台形状を呈する。　**重複**　Ｈ－１と重複し、新旧関係はＨ－１→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器、土師器、石製品が出土している。須恵器坏（１）、平瓦（２）、こも編石（３）を図示する。　**時期**　出土遺物は本遺構に付随するものではなく、重複関係から８世紀以降と考える。　**備考**　本遺構に関連すると考えられるピットが 19 基検出され、南壁面に集中する傾向がある。規模は長軸 0.21 m～ 0.46 m、短軸 0.19 m～ 0.34 m、深さは 0.10 m～ 0.45 mである。中央から東側調査区壁の溝上部は攪乱により削平されている。

（３）土坑（Fig.32）

Ｂ区では土坑１基を確認している。各計測値については「Tab. 4　Ｂ区土坑計測表」を参照のこと。

Tab. 4　Ｂ区土坑計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
Ｄ－１	Ｘ 89、Ｙ 237	2.61	2.24	0.51	不整形

oumi60c.indd　47　　2014/07/16　11:10:15

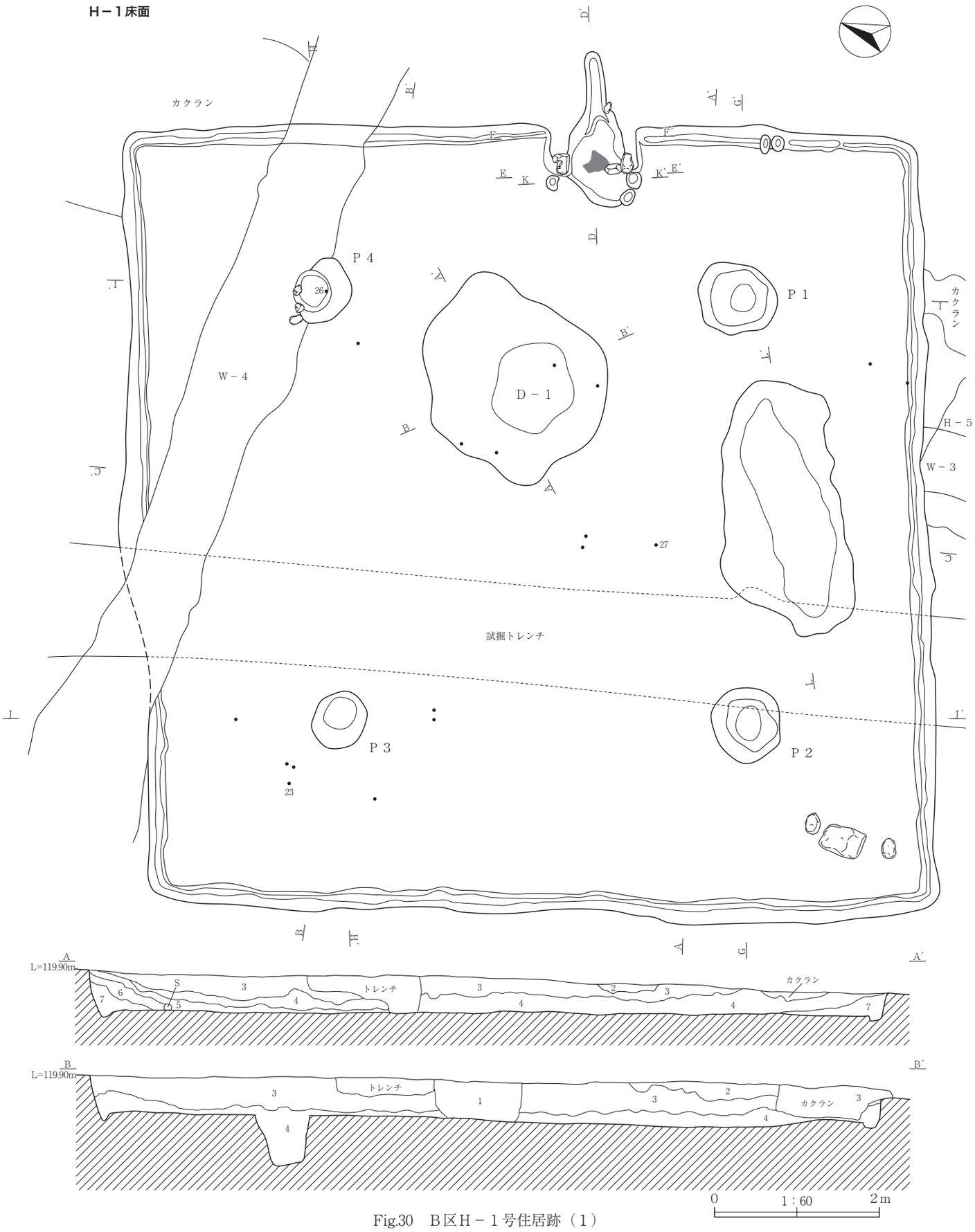


Fig.30　B区H－1号住居跡（1）

oumi60c.indd　48　　2014/07/16　11:10:15

Ｈ－１掘り方

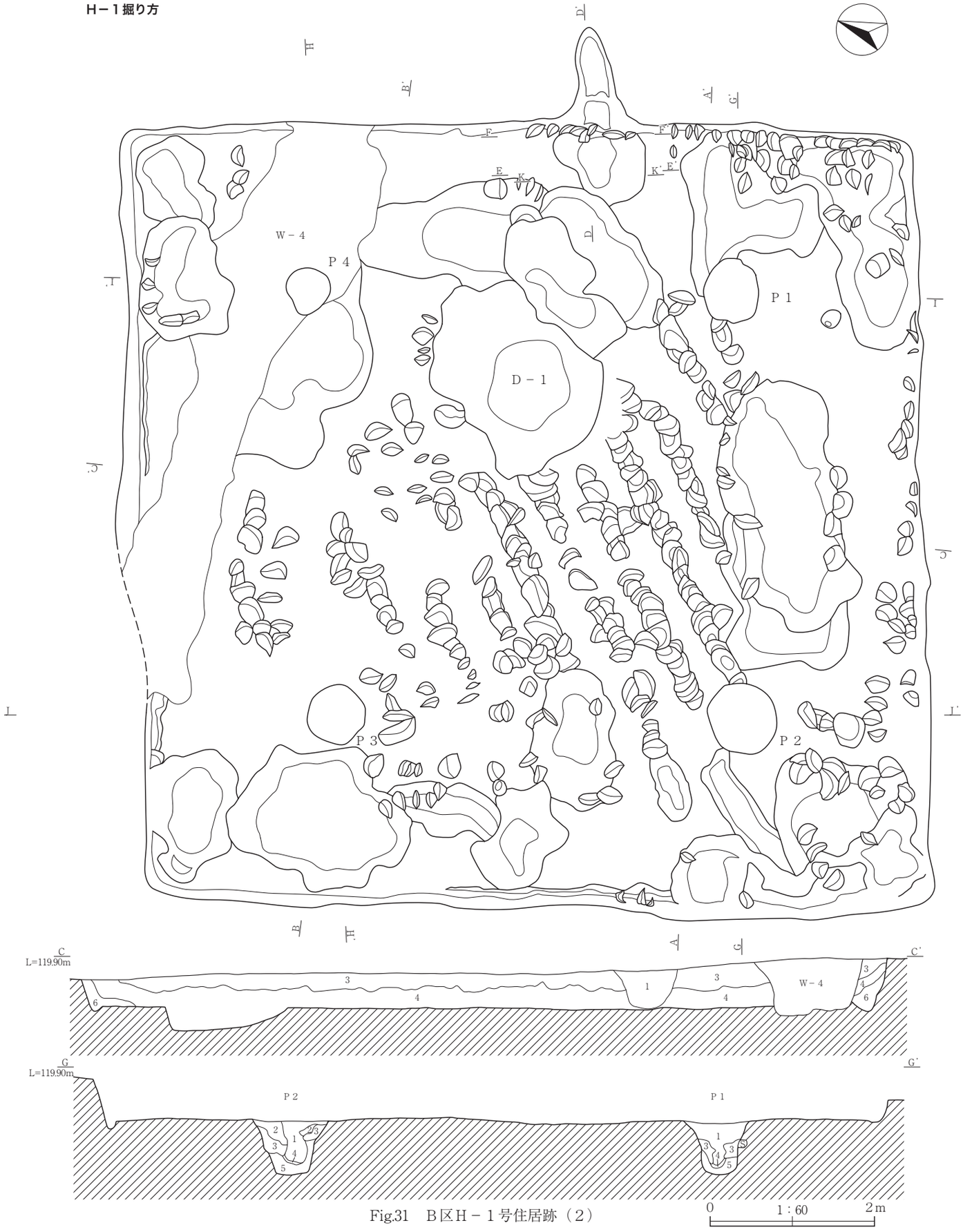
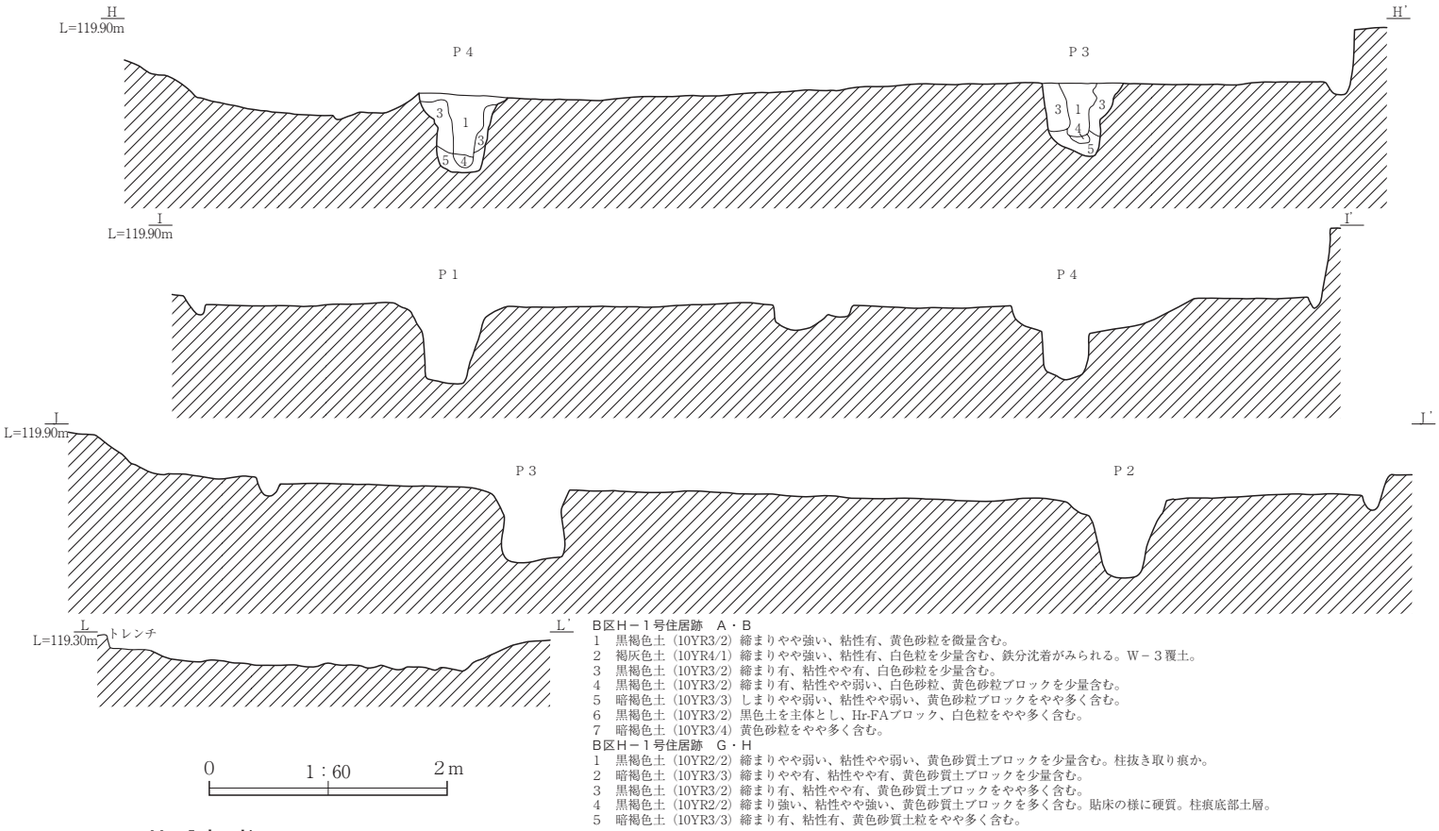


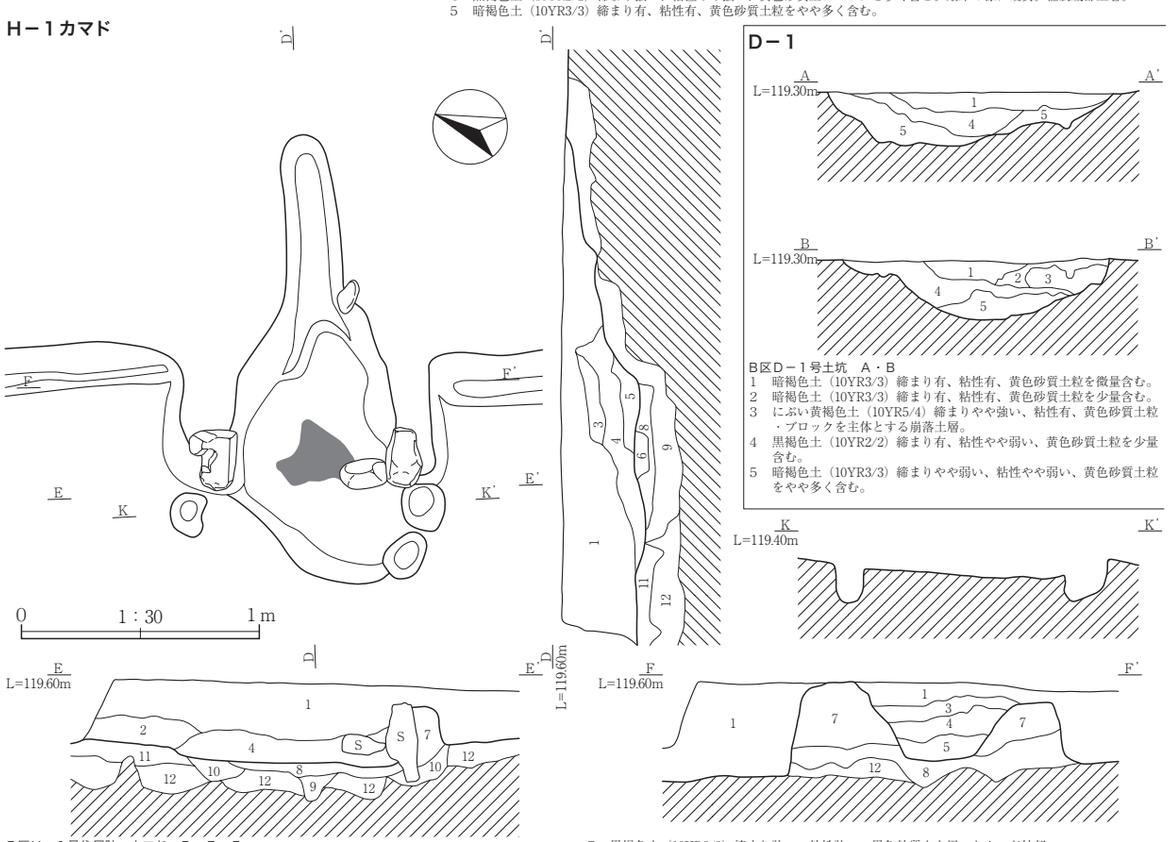
Fig.31　Ｂ区Ｈ－１号住居跡（２）

oumi60c.indd　49　　2014/07/16　11:10:15



B区Ｈ－１号住居跡　Ａ・Ｂ
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強い、粘性有、白色粒を少量含む、鉄分沈着がみられる。Ｗ－３覆土。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、白色砂粒を少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや弱い、白色砂粒、黄色砂粒ブロックを少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）黒色土を主体とし、Hr-FAブロック、白色粒をやや多く含む。
7　暗褐色土（10YR3/4）黄色砂粒をやや多く含む。

B区Ｈ－１号住居跡　Ｇ・Ｈ
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂質土ブロックを少量含む。柱抜き取り痕か。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや有、黄色砂質土ブロックを少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性やや有、黄色砂質土ブロックをやや多く含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり強い、粘性やや強い、黄色砂質土ブロックを多く含む。貼床の様に硬質。柱痕底部土層。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂質土粒をやや多く含む。



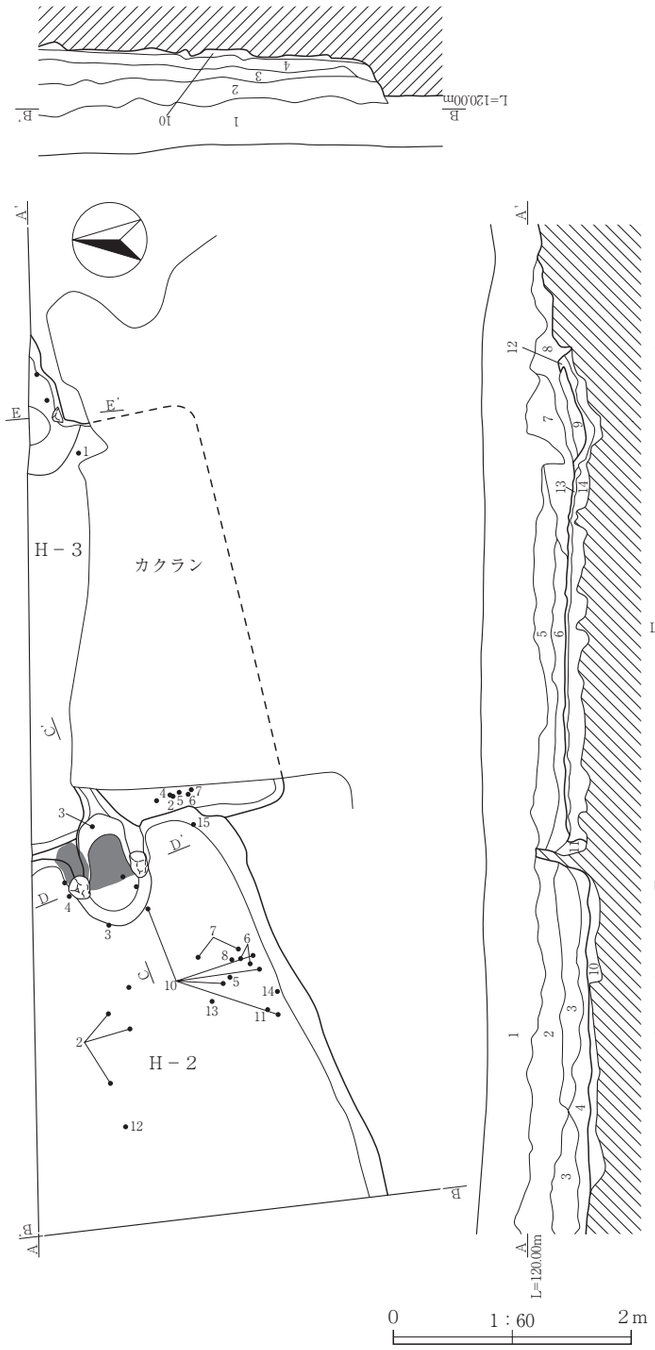
B区Ｄ－１号土坑　Ａ・Ｂ
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂質土粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂質土粒を少量含む。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりやや強い、粘性有、黄色砂質土粒・ブロックを主体とする崩落土層。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性やや弱い、黄色砂質土粒を少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂質土粒をやや多く含む。

B区Ｈ－１号住居跡　カマド　Ｄ・Ｅ・Ｆ
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、白色粒をやや多く、焼土ブロックを少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、崩落した黒色粘質土ブロックを多く含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒をやや多く含む。
4　暗赤褐色土（５YR3/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、焼土粒を多く含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性弱い、焼土粒、灰を主体とする。
6　にぶい赤褐色土（５YR5/4）締まり強い、粘性弱い、カマド火床面。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり強い、粘性強い、黒色粘質土を用いたカマド袖部。
8　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、黄色砂粒をやや多く含む。
9　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。
10　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性やや弱い、袖石の掘り込み痕跡。
11　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性有、黄色砂粒ブロックを少量含む、貼床面。
12　褐色土（10YR4/4）締まり有、粘性やや有、黄色砂粒ブロックを主体とする。

Fig.32　Ｂ区Ｈ－１号住居跡（３）、Ｄ－１号土坑

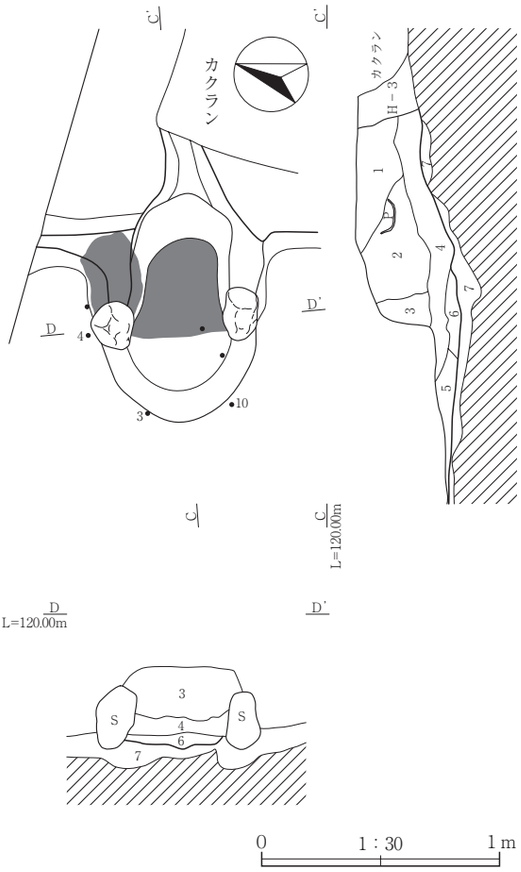
oumi60c.indd　50　　2014/07/16　11:10:16

H－2・3



B区H－２・３号住居跡A・B・E
1　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや有、表土層。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや有、直径３～10mm程度の小石と黄色砂粒を少量、白色砂を微量含む。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや有、直径３～10mm程度の小石をやや多く、焼土粒を微量含む。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、白色砂を少量、焼土粒を微量含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、白色砂および黄色砂粒ブロックをやや多く、焼土ブロックを微量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、焼土ブロックをやや多く含む。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、カマド崩落の焼土ブロックを主体とし、粘土ブロック、灰を少量含む。
9　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性弱い、灰を主体とし、焼土ブロックを少量含む。
10　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強い、粘性有、黄色砂粒ブロックを多く含む、やや弱い貼床層。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒を少量含む。
12　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、灰を主体として、粘土ブロック、焼土を微量含む、カマド使用面。
13　褐灰色土（10YR4/1）締まり強い、粘性強い、白色粒・黄色砂粒を少量含む、硬質な貼床層。
14　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂粒、ブロックをやや多く含む、掘り方層。

H－2カマド



B区H－２号住居跡カマドC・D
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、白色粒を含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性弱い、焼土ブロック、白色灰をやや多く含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、白灰色粘質土ブロック、焼土ブロックをやや多く含む。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり弱い、粘性やや弱い、焼土粒を多く、焼土ブロック・灰を少量含む。
5　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり弱い、粘性やや弱い、焼土粒を多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まり弱い、粘性やや弱い、灰層。
7　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。

H－3カマド

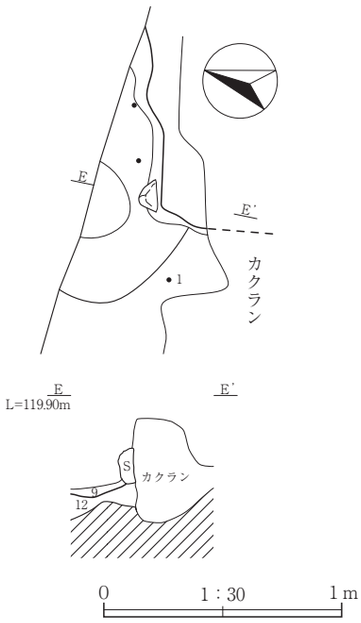


Fig.33　B区H－２・３号住居跡

oumi60c.indd　51　　2014/07/16　11:10:17

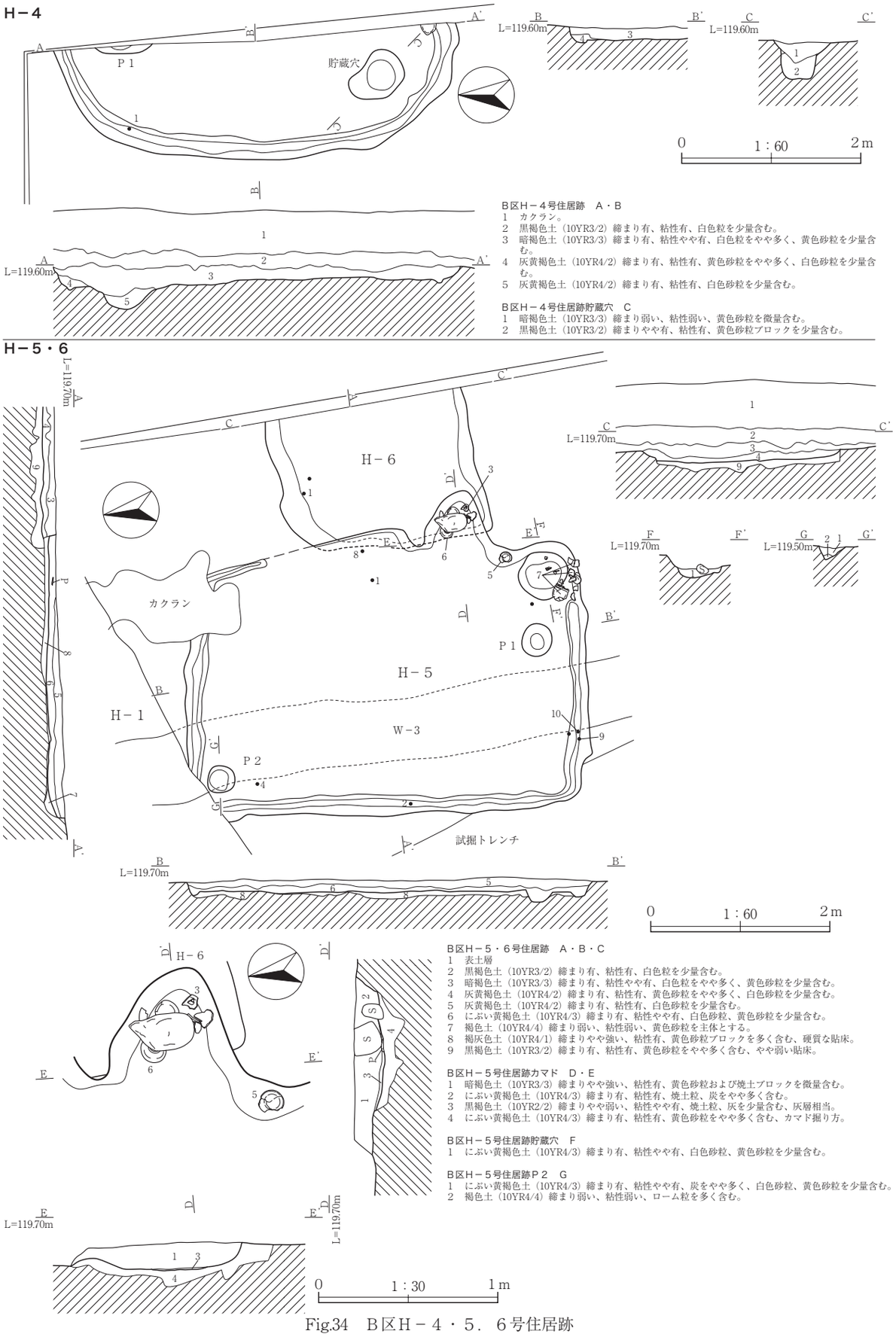
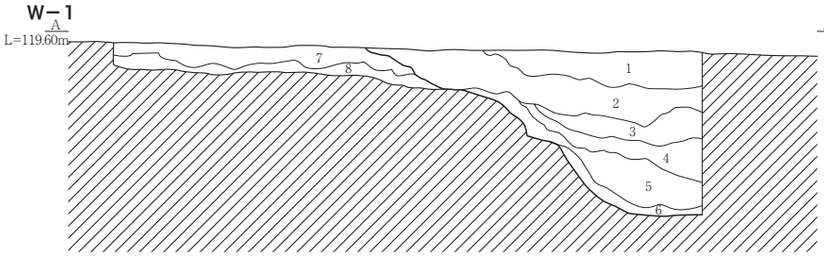


Fig.34　B区H－４・５．６号住居跡

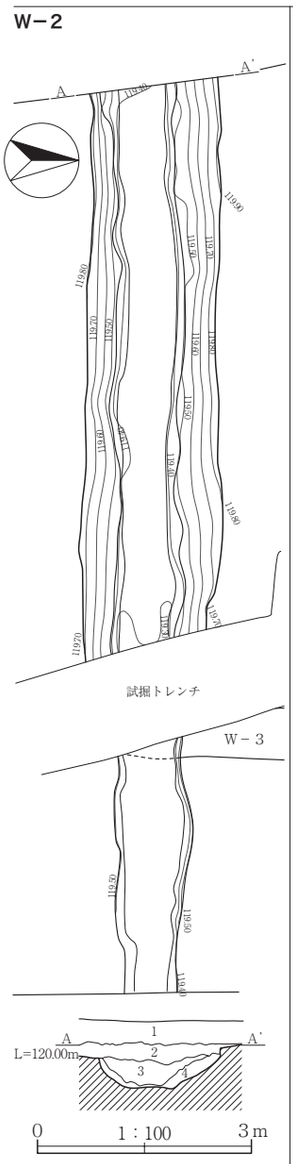
oumi60c.indd　52　　2014/07/16　11:10:17



B区W－１号溝　A

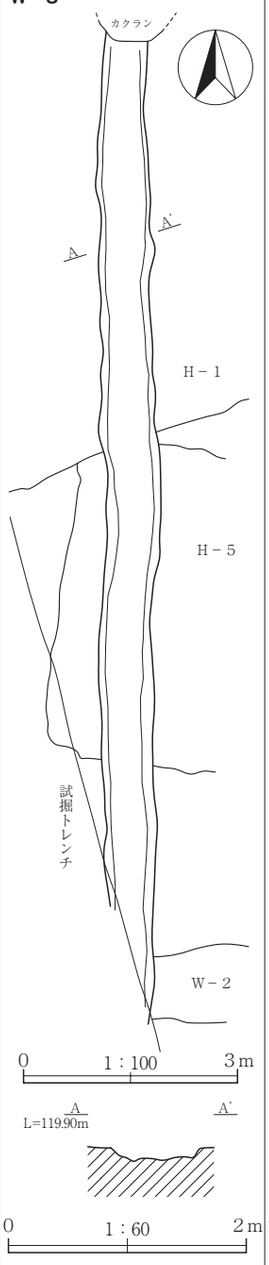
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや弱い、粘性弱い、褐色砂粒をやや多く含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、褐色砂粒および黄褐色粘質土を少量含む。
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂粒ブロックを少量含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性有、褐色砂粒および黄褐色砂粒ブロックを少量含む。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや有、粘性有、黄褐色砂粒ブロックを少量、炭化物を微量含む。
6　にぶい黄褐色土（10YR5/3）締まりやや弱い、粘性粘性やや強い、全体的に黄褐色砂粒を多く含む。
7　暗褐色（10YR3/3）締まり有、粘性やや有、白色粒および黄褐色砂粒を少量含む地山層。
8　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄褐色砂粒を主体とする地山層。

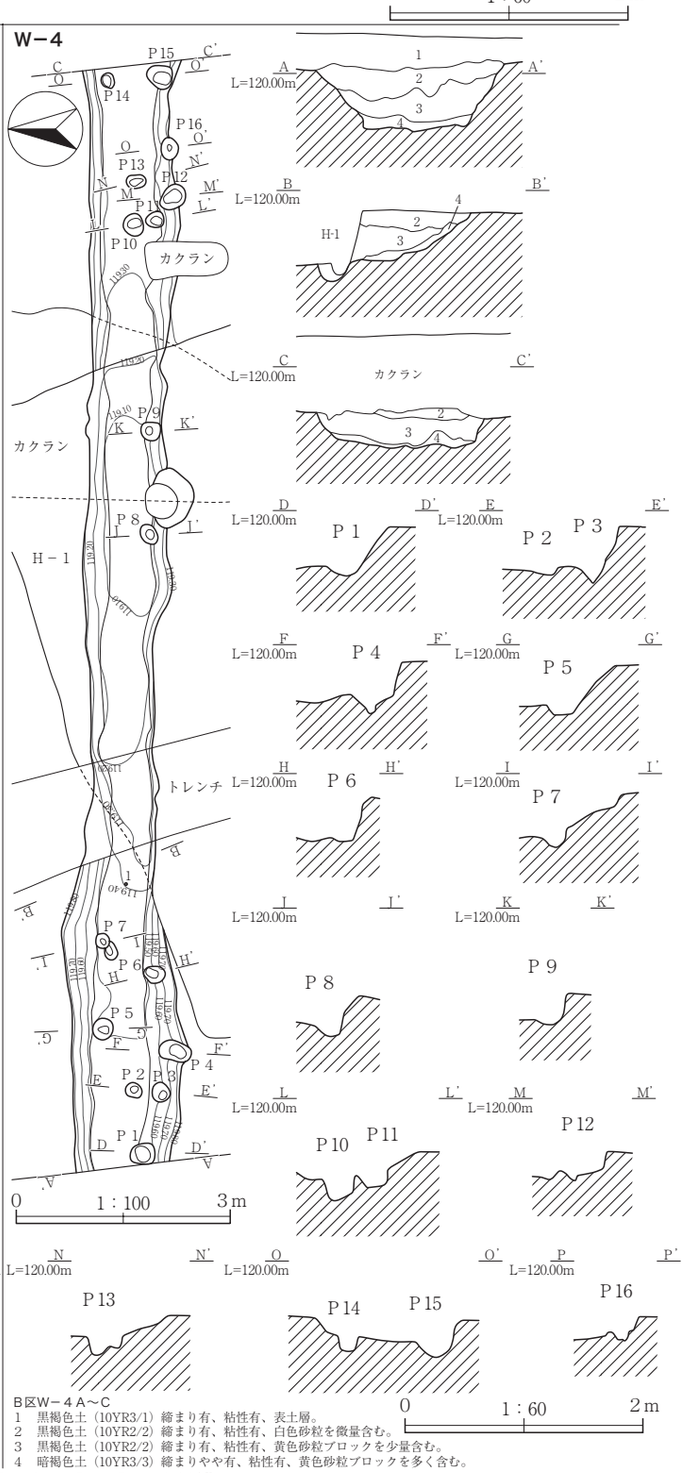
0　1：60　2m



B区W－２　A

1　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、表土層。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、白色砂粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱い、粘性やや弱い、混入物がほぼなく、軟質な土層。
4　暗褐色土（10YR4/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。





B区W－４A～C

1　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、表土層。
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、白色砂粒を微量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロックを少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒ブロックを多く含む。

Fig.35　B区W－１・２・３・４号溝

oumi60c.indd　53　　2014/07/16　11:10:18

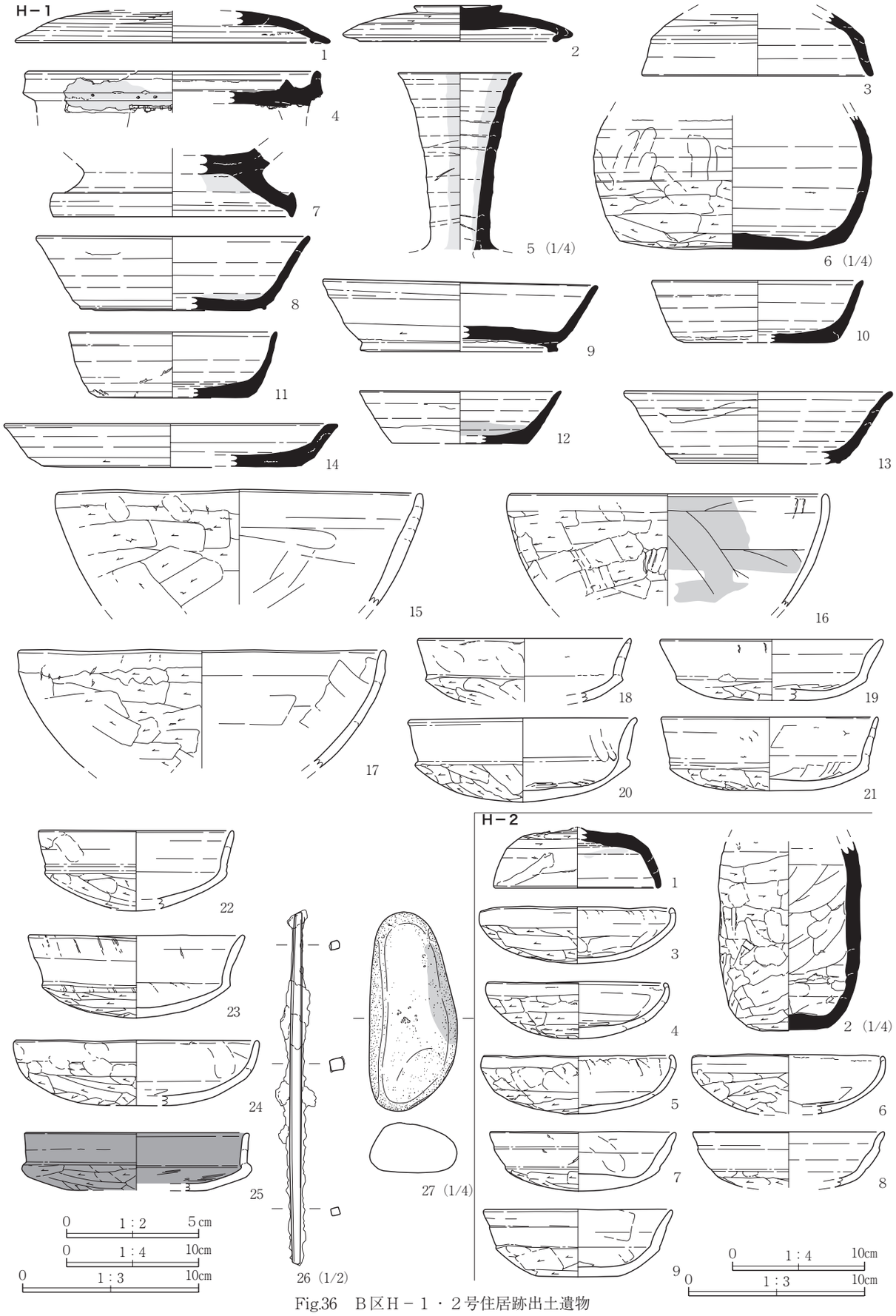


Fig.36　Ｂ区Ｈ－１・２号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　54　　2014/07/16　11:10:19

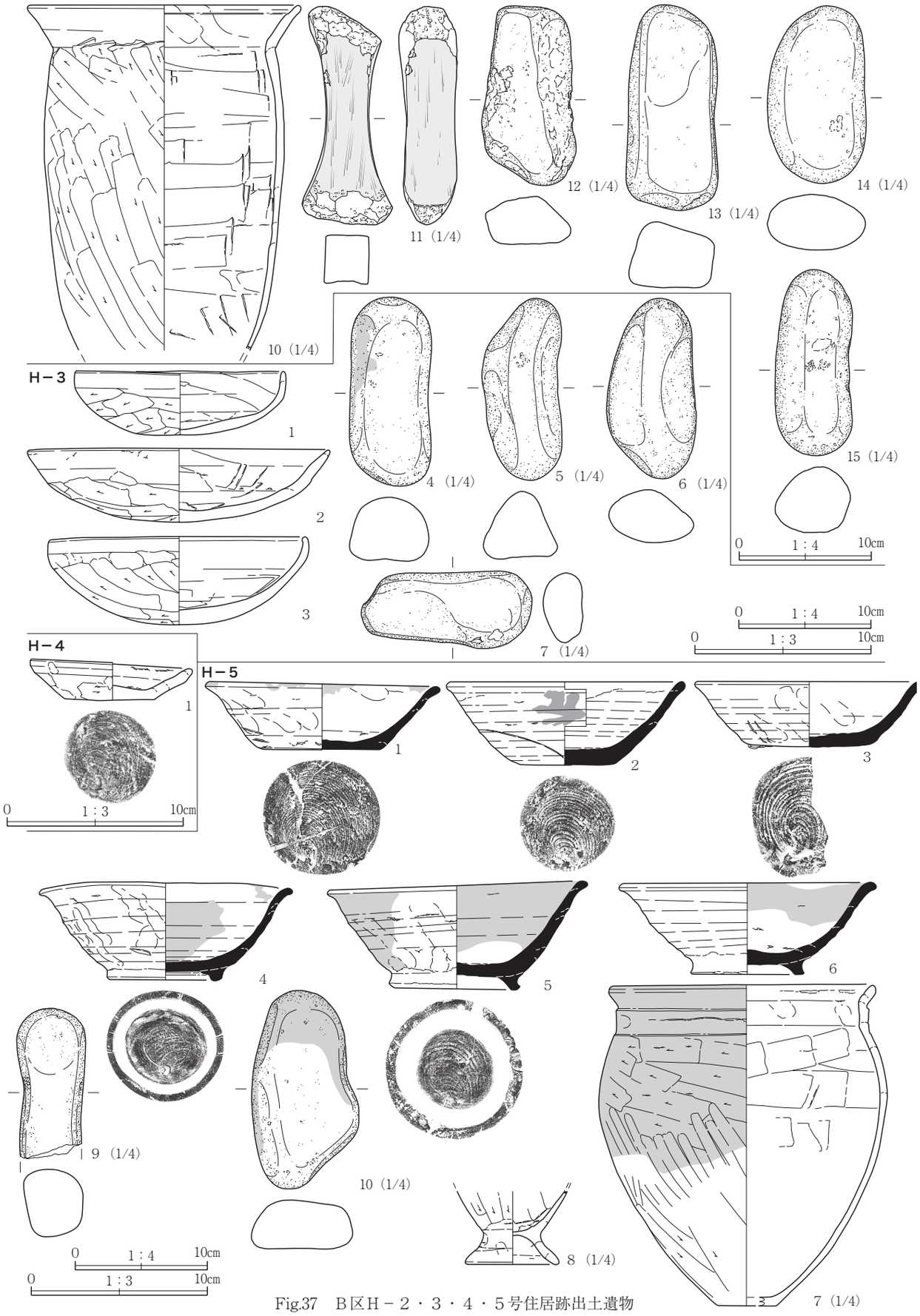


Fig.37　B区H－2・3・4・5号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　55　　2014/07/16　11:10:20

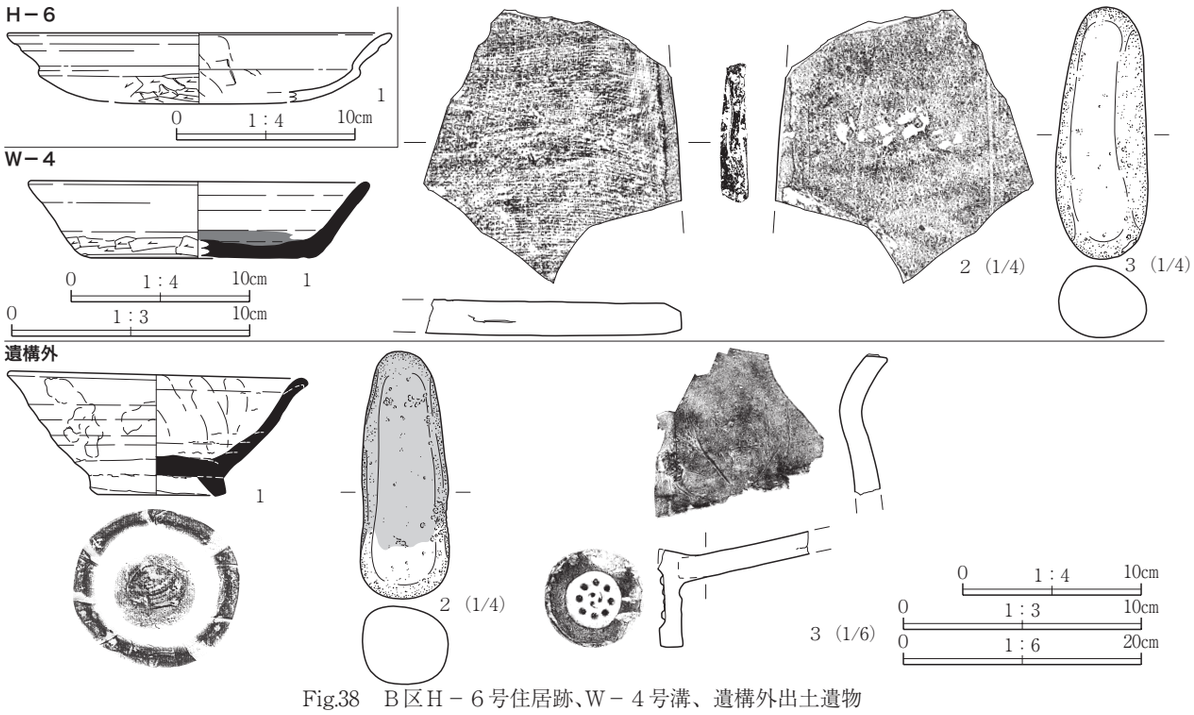


Fig.38　B区H－6号住居跡、W－4号溝、遺構外出土遺物

Tab. 5　B区出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	〔17.8〕	-	(1.9)	白・黒色粒	堅緻	褐灰 褐灰	外面上半部ロクロナデ後回転ヘラケズリ、以下ロクロナデ、口縁部ヨコナデ。 内面体部ロクロナデ、口縁部ヨコナデ。	中位～口縁部片。
2	覆土	須恵器 蓋	〔11.1〕	〔13.9〕	2.1	白・黒色細粒、 3mm大の小石	堅緻	黄灰 灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ後上半分回転ヘラケズリ。天囲部回転糸切り後摘み部貼付け後回転ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ。	2/3残存。 摘み部径5.0cm
3	覆土	須恵器 蓋	〔13.0〕	-	3.6	白・黒色粒	普通	灰白 灰白	外面上半部ロクロナデ後回転ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面体部ロクロナデ、口縁部ヨコナデ。	中位～口縁部片。
4	覆土	須恵器 円面硯	〔16.5〕	欠	(2.3)	白・黒色粒	堅緻	黄灰 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。内面硯面口縁部及び口縁から1.7cm内側の稜部ヨコナデ。硯面ロクロナデ後回転ヘラケズリ。脚部ロクロナデ。	硯部片。脚部欠損。 硯面は磨耗により滑らかである。脚部はカマド土及び自釉付着。
5	覆土	須恵器 長頸瓶	〔9.3〕	欠	(13.4)	白・黒色粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	長頸部2/3残存。 外・内面自然釉付着。
6	覆土	須恵器 長頸瓶	-	〔17.0〕	10.1	白・黒色粒、 チャート	堅緻	褐灰、灰 褐灰	外面胴中位ロクロナデ後ユビナデ、下位ロクロナデ後横位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	胴部下半～底部1/2残存。
7	覆土	須恵器 短頸壺	-	〔13.6〕	(3.8)	白・黒色粒	堅緻	灰 灰	外面ロクロナデ、脚部縁辺ヨコナデ。脚部は八の字状に開き、脚端部(接地部)は狭少する。 内面硯面ロクロナデ後回転ヘラナデ。脚部ロクロナデ、脚端部ロクロナデ	脚部片。 内面自然釉付着。
8	覆土	須恵器 高台付坏	〔15.5〕	〔10.3〕	4.2	白・黒色粒少量	堅緻	灰白、灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後高台上部回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ、削り出し高台。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3残存。 内面自然釉付着。
9	覆土	須恵器 高台付坏	15.4	11.2	4.1	白・黒色細粒、 4mm大の小石	堅緻	明赤褐 暗褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後体部下位回転ヘラケズリ。底部(回転糸切り後)回転ヘラケズリ後高台貼付け。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/3残存。
10	覆土	須恵器 坏	〔11.8〕	〔8.6〕	3.7	白・黒色粒少量	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後回転ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5残存。
11	覆土	須恵器 坏	〔11.9〕	〔8.6〕	3.5	白・黒色粒少量	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部（回転糸切り後）回転ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～底部片。
12	覆土	須恵器 坏	〔11.4〕	〔7.7〕	3.0	白・黒色粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、下位ロクロナデ後回転ヘラケズリ。底部（回転糸切り後）回転ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/8残存。 内面底部付近墨付着か。
13	覆土	須恵器 高台付坏	〔15.1〕	〔9.3〕	4.1	白・黒色粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部削り出し高台。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/5残存。
14	覆土	須恵器　盤	〔18.8〕	〔14.5〕	2.4	白色細粒、黒色粗粒、チャート	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後体部下位回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～底部片。 外面自然釉付着。
15	覆土	土師器 鉢	〔20.6〕	欠	(6.5)	白・黒色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁～体部片。
16	覆土	土師器 鉢	〔17.8〕	欠	(6.3)	白・黒色粒、輝石	良好	灰褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下（ヘラナデ及び）ユビナデ。	口縁～体部片。 内面煤付着。
17	覆土	土師器 鉢	〔20.6〕	欠	(6.7)	白・黒色粒	良好	明褐 明褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～体部片。
18	覆土	土師器 坏	〔12.0〕	丸底	(3.6)	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/5残存。
19	覆土	土師器 坏	〔12.5〕	丸底	3.5	黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びナデ。	1/6残存。
20	覆土	土師器 坏	12.8	丸底	4.8	白色粒・茶色粗粒	やや軟質	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びナデ。	5/6残存。
21	覆土	土師器 坏	12.1	丸底	4.2	白・茶色粒、 黒雲母、チャート	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/3残存。
22	覆土	土師器 坏	〔11.0〕	丸底	(4.4)	白・黒・茶色細粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁～体部片。
23	No. 7	土師器 坏	12.1	丸底	4.7	黒・茶色粒、石英	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位ヘラナデ、ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	4/5残存。
24	覆土	土師器 坏	〔13.8〕	丸底	(3.7)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラナデ。	1/3残存。
25	覆土	土師器 坏	〔12.5〕	-	3.3	白・黒色粒	やや軟質	黒 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。黒色処理。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。黒色処理。	1/5残存。 内面ハゼている。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
26	No.10	棒状鉄製品	13.4	0.5	0.5	鉄	-	-	12.2	-	完存。鉄製紡錘車の軸部か。

oumi60c.indd　56　　2014/07/16　11:10:24

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
27	No.15	石器 こも編石	15.0	6.7	4.1	粗粒安山岩	-	-	607.6	-	完存。表面石側縁付近に煤付着。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	〔9.3〕	-	(3.4)	白・灰色粒	堅緻	暗灰黄 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、中位ロクロナデ後回転ヘラケズリ。天囲部回転糸切り後回転ナデ。内面口縁部ヨコナデ、以上ロクロナデ。	1/2 残存。 内面自然釉若干付着。
2	No.2,3,4	須恵器 長頸壺	欠	5.3	(14.3)	白・黒色粒、 チャート粗粒	堅緻	灰、灰白 灰白	外面上半部横位ヘラナデ及びユビナデ。下半部斜位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ及びユビナデ。	胴部～底部。坪Gか。
3	No. 6	土師器 坏	11.0	丸底	3.3	白・黒色粒	良好	オリーブ黒 橙橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラナデ。	完存。
4	No. 7	土師器 坏	10.1	丸底	3.2	白色粒、 チャート、輝石	良好	褐灰 にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁部一部欠損。 外面煤付着。
5	No.17	土師器 坏	〔10.7〕	丸底	3.3	白・黒・茶色粒、 輝石	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	1/2 残存。
6	No.19,23	土師器 坏	〔10.8〕	丸底	3.4	白・黒・茶色粒、 輝石	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/5 残存。
7	No.21,22	土師器 坏	〔10.4〕	丸底	3.4	白・黒・茶色粒	良好	明赤褐 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	3/5 残存。
8	No.20	土師器 坏	〔10.7〕	欠	(3.1)	白・黒色粒、 チャート	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	1/3 残存。
9	覆土	土師器 坏	〔10.6〕	丸底	3.9	黒色粒、石英、 チャート粗粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びナデ。	1/5 残存。
10	No. 9, 他	土師器 甕	〔20.3〕	欠	(26.3)	白・黒・茶色粒、 石英	良好	明赤褐 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラナデ。	2/5 残存。 内面ヘラナデ顕著。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
11	No.12	石器 砥石	16.5	6.9	4.4	角閃石安山岩	-	-	503.1	平坦な上面と厚さを狭少する下面には敲打による剥離と磨滅痕が顕著である。表裏面、左右側面は研磨により滑らかで若干の擦痕がみられる。左右側面は局面を呈して凹む。	完存。
12	No. 1	石器 こも編石	13.6	7.1	4.0	粗粒安山岩	-	-	549.6	-	完存。
13	No.11	石器 こも編石	15.6	7.0	5.0	粗粒安山岩	-	-	800.1	-	完存。
14	No.13	石器 こも編石	13.4	7.5	4.2	粗粒安山岩	-	-	616.1	裏面下位に剥離欠損部あり	完存。
15	No.24	石器 こも編石	14.1	5.9	5.0	粗粒安山岩	-	-	646.5	-	完存。

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 8	土師器 坏	11.8	丸底	3.7	白・黒・茶色粒、 輝石	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラナデ。	完存。
2	No. 2	土師器 坏	17.0	丸底	4.2	白・黒・茶色粒、 輝石	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	ほぼ完存。 内面黒色処理か。
3	No. 1	土師器 坏	14.5	丸底	5.0	白・黒色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びヘラナデ。	ほぼ完存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	No. 4	石器 こも編石	14.3	6.1	5.4	粗粒安山岩	-	-	773.2	表面と左右側面中央付近は磨耗により滑らかである。	完存。左側面に煤付着。
5	No. 5	石器 こも編石	13.8	6.1	5.3	粗粒安山岩	-	-	527.7	-	完存。
6	No. 6	石器 こも編石	13.7	6.8	4.2	粗粒安山岩	-	-	490.4	-	完存。
7	No. 7	石器 こも編石	12.9	5.9	3.3	粗粒安山岩	-	-	371.4	-	完存。

H－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師質 坏	9.1	5.1	2.3	白・黒・茶色粒、 石英	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下回転ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	完存。

H－5

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	須恵器 坏	13.0	6.5	3.9	黒・茶色粒、石英	酸化焔	灰黄褐 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。外・内面口縁部に煤付着。 灯明皿使用痕あり。
2	No. 4	須恵器 坏	13.1	5.4	4.7	黒・茶色粗粒	普通	黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。 外面に墨書煤の付着もあり。
3	No.11	須恵器 坏	〔12.8〕	〔6.8〕	3.7	黒・茶色粒、 チャート、石英	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
4	No. 3	須恵器 高台付坏	14.3	6.4	5.55	白・黒色粒、石英	酸化焔	にぶい黄 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びユビナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。上面形状は楕円形を呈する。 内面には光沢のある煤付着。
5	No.10	須恵器 高台付坏	14.4	6.9	6.2	石英、チャート粗粒、8mm 大の小石	普通	灰黄褐、黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。 外・内面煤付着。黒色処理か。
6	No.16	須恵器 高台付坏	14.3	6.3	5.2	白・灰・茶色粒、 3mm 大の小石	やや酸化焔	にぶい黄橙黒褐 にぶい黄橙、灰褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。 内面煤付着。
7	No. 9,12	土師器 甕	〔19.8〕	〔4.3〕	24.3	白・黒色粒、石英	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下胴部上半部横位ヘラケズリ、中位ヘラケズリ後ユビナデ。下位斜位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	2/3 残存。 外面煤付着。
8	No. 1	土師器 台付甕	-	-	(5.6)	白・灰色粒、 黒雲母	良好	黒褐 にぶい褐	外面体部下位縦位ヘラケズリ、台部回転ナデ。 内面体部下位ヘラナデ及びユビナデ。台部回転ナデ。	体部下位～底部残存。 台部内面に光沢ある付着物あり。漆。 台部底径 4.3cm、台部裾径〔6.8〕cm。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	No. 5	石器 こも編石	(11.4)	5.2	5.1	粗粒安山岩	-	-	489.6	-	一部欠損。
10	No. 6	石器 こも編石	15.1	8.1	4.0	粗粒安山岩	-	-	730.1	表面は磨耗により滑らかである。	完存。左側縁～上部煤付着。

H－6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	土師器 坏	〔15.9〕	欠	3.0	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～体部片。

W－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 坏	〔14.2〕	〔9.1〕	3.2	白・黒色粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、下位ロクロナデ後回転ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。 内面底部墨付着。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	瓦 平瓦	(15.4)	(14.5)	2.0	白・黒色粒、小礫	還元焔	灰 灰	表面布目痕。側面ヘラケズリ。裏面叩きしめ後ヘラナデ。	一部に側縁を有する剥片。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石器 こも編石	14.1	5.2	4.1	粗粒安山岩	-	-	454.2	-	完存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	W－2 付近	須恵器 高台付坏	12.3	5.3	5.2	白・黒色粒、小礫	普通	褐灰 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びナデ。	3/4 残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	攪乱覆土	石器 こも編石	13.9	5.0	4.3	粗粒安山岩	-	-	466.6	-	完存。ほぼ全面に煤が付着している。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	試掘 トレンチ	軒桟瓦	(12.6)	-	-	白色粒少量	堅緻	暗灰 暗灰	軒部八球左三つ巴紋。表面側面ヘラケズリ、内面瓦当接合面ユビナデ。漆喰付着。 裏面平瓦部糸切り痕。	軒部片。現代物の可能性有。

oumi60c.indd 57 2014/07/16 11:10:24

３　Ｃ区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 39 ～ 42、PL. 12・13・17）

位置　Ｘ 89・90、Ｙ 246・247　**主軸方向**　Ｎ－ 88°－Ｅ　**規模**　東西軸 5.32 m、南北軸 5.26 m、壁現高 0.26 m。上層からの撹乱が全体的に入っており、確認面は床面近くとなった。　**面積**　16.77 ㎡　**床面**　やや凹凸があり、締まりは強い。　**重複**　Ｈ－２・４、Ｗ－１と重複し、新旧関係はＷ－１→Ｈ－４→Ｈ－２→本遺構である。。　**カマド**　東壁に１基検出。確認面が床面近くであったため、煙道等の構築は不明。焼土層と白色灰が堆積した、長軸 0.87 m、短軸 0.63 m、深さ 0.15 mの燃焼部と想定される浅い掘り込みを確認したのみである。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　中央北西寄りに検出。長軸 0.57 m、短軸 0.56 m、深さ 0.35 mを測り、楕円形を呈する。　**掘り方**　黄色砂粒ブロックを少量含む黒褐色土により構築される。　**出土遺物**　床面直上から、灰釉陶器埦（１・３）、灰釉陶器折縁皿（２）、須恵器高台付坏（４～ 13）、須恵器坏（14・15）土師質高台付坏（16・17）、土師器坏（18）、羽釜（19）、土師器甕（20・21）、鉄製鎌（22）、こも編石（23）が出土している。17・18 はやや新相を示す。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 39・40・42、PL. 13・17）

位置　Ｘ 89・90、Ｙ 247・248　**主軸方向**　Ｎ－ 89°－Ｅ　**規模**　東西軸 4.68 m、南北軸（1.94）m、壁現高 0.43 m。調査区南壁において北半のみ検出であり、南半は調査区外となる。　**面積**　（5.09）㎡　**床面**　平坦で締まりは強い。　**重複**　Ｈ－１・４、Ｗ－１と重複し、新旧関係はＷ－１→Ｈ－４→本遺構→Ｈ－１である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　浅い凹凸面に黄色砂粒を微量含む黒褐色土を充填して構築される。　**出土遺物**　床面直上から、底部外面に「大□」と墨書された灰釉陶器埦（１）、土師質坏（２・３）、土師器甕（４）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 39・40・42、PL. 13・17）

位置　Ｘ 90、Ｙ 246・247　**主軸方向**　Ｎ－ 72°－Ｅ　**規模**　東西軸（1.60）m、南北軸（3.71）m、壁現高 0.55 m。調査区東壁において西半のみ検出であり、東半は調査区外となる。　**面積**　（3.40）㎡　**床面**　平坦な地山硬化床。　**重複**　Ｗ－１と重複し、新旧関係はＷ－１→本遺構となる。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。　**出土遺物**　土師器坏（１）、土師器盤（２）こも編石（３）が出土している。１は床面直上、２・３は覆土である。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀前半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 39・40・42、PL. 13・17）

位置　Ｘ 88・89、Ｙ 247・248　**主軸方向**　Ｎ－ 86°－Ｅ　**規模**　東西軸（2.07）m、南北軸（3.50）m、壁現高 0.30 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西および南側は調査区外となる。　**面積**　（6.15）㎡　**床面**　やや凹凸があり、締まりは弱い。　**重複**　Ｈ－１・２、Ｗ－１と重複し、新旧関係はＷ－１→本遺構→Ｈ－１である。　**カマド**　東壁に１基検出、南半は調査区外となる。確認長（1.08）m、燃焼部幅（0.18）m、煙道は壁外に 0.66 m突出している。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**掘り方**　黄色砂層を地山として、凹凸面に黒褐色土を充填して構築される。　**出土遺物**　床面直上より土師器坏（１・２）、土師器盤（３）、土師器甕（４）が出土している。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀前半と想定される。

（２）溝跡

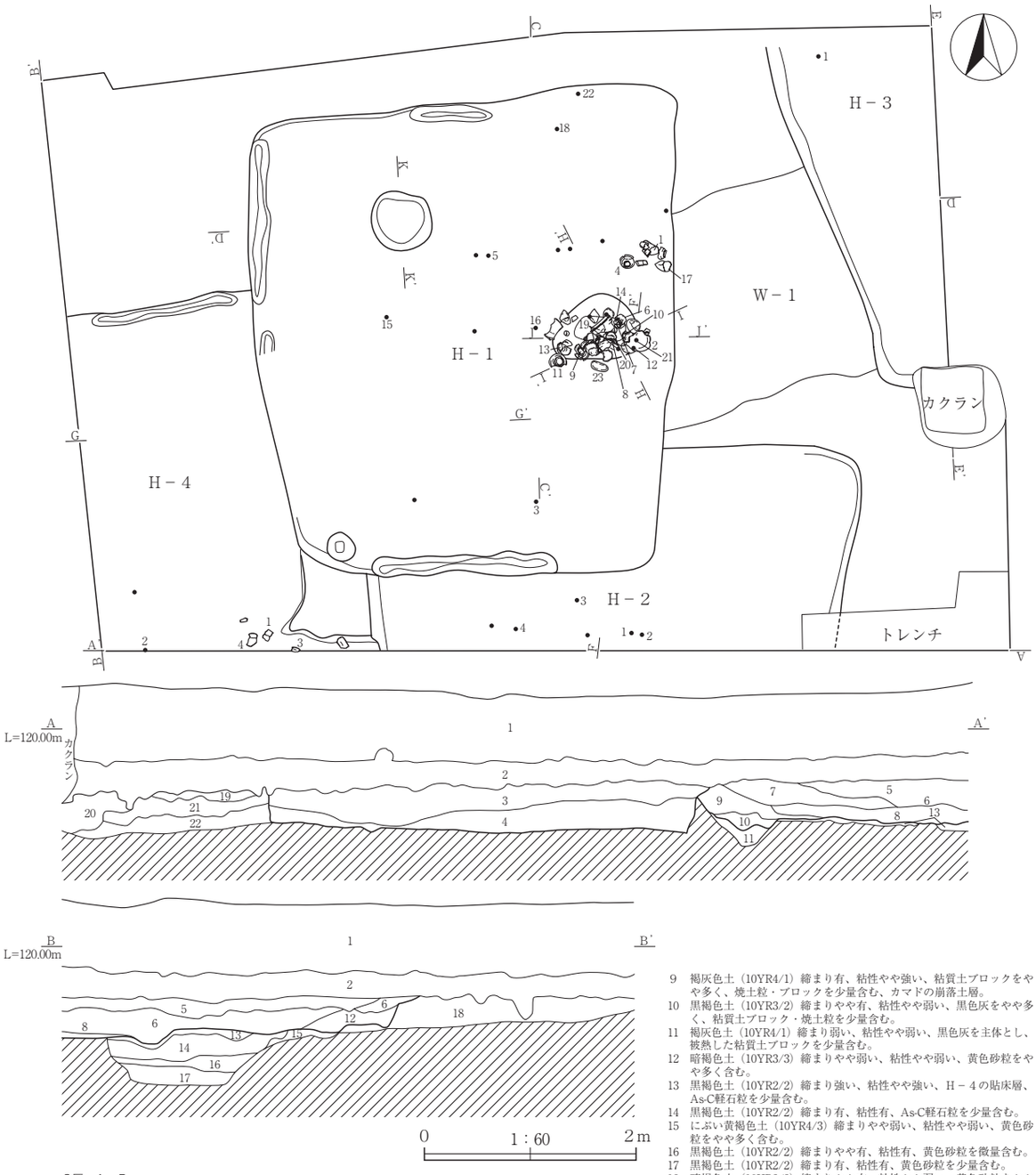
Ｗ－１号溝跡（Fig.40・42、PL.13・17）

位置　Ｘ 88 ～ 90、Ｙ 246 ～ 248　**主軸方向**　Ｎ－ 71°－Ｅ　**規模**　長さ（8.55 m）、上幅 2.02 m、下幅 1.13 m、

oumi60c.indd　58　　2014/07/16　11:10:25

深さ0.74ｍ。　**形状**　東西方向へ走向し、断面台形状を呈する。　**重複**　Ｈ－１・３・４と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－３・４→Ｈ－１である。　**出土遺物**　須恵器、土師器を出土し、土師器２点を図示する。　**時期**　出土遺物から７世紀後半から８世紀初頭であり、重複関係からは８世紀半ばまでには埋没したと想定される。

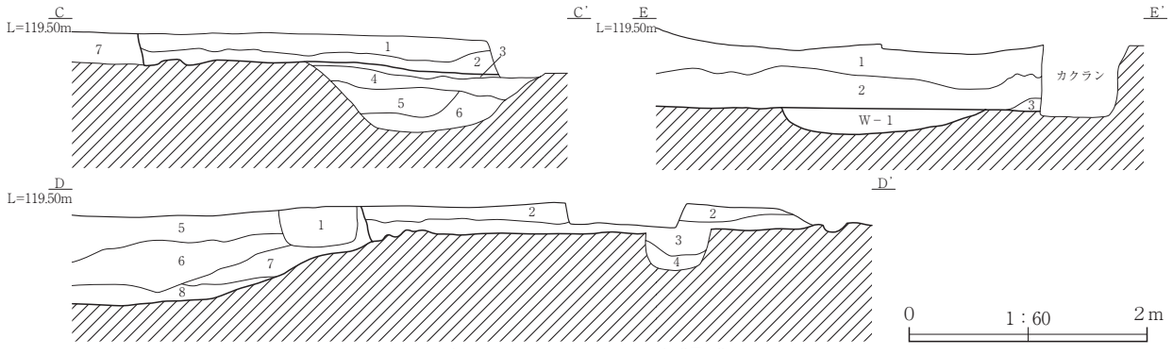
備考　通水の痕跡は認めらない。溝底面から立ち上がり箇所にかけて反復した凹凸面があり、主軸方向に約1.10ｍの間隔で掘削単位を持つことを確認された。

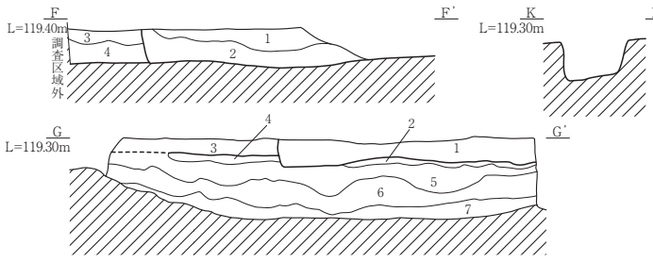


C区　A・B
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、現表土造成土層、部分的に黄褐色土ブロックが造作されている。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強い、粘性有、旧表土層、水田の床土か。鉄分沈着が下位にみられる。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性やや有、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量、焼土粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、、焼土粒を多く、黄色砂粒をやや多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
7　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性有、焼土ブロック、粘質土ブロックを少量含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、焼土粒を少量含む。
9　褐灰色土（10YR4/1）締まり有、粘性やや強い、粘質土ブロックをやや多く、焼土粒・ブロックを少量含む、カマドの崩落土層。
10　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや有、粘性やや弱い、黒色灰をやや多く、粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。
11　褐灰色土（10YR4/1）締まり弱い、粘性やや弱い、黒色灰を主体とし、被熱した粘質土ブロックを少量含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。
13　黒褐色土（10YR2/2）締まり強い、粘性やや強い、Ｈ－４の貼床層、As-C軽石粒を少量含む。
14　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
15　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。
16　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
17　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量含む。
18　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。
19　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む地山層。
20　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む地山層
21　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、黄色砂粒をやや多く含む地山層。
22　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有黄色砂粒を少量含む地山層。

Fig.39　Ｃ区Ｈ－１・２・３号住居跡（１）

oumi60c.indd　59　　2014/07/16　11:10:25





C区　C
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性強い、As-C軽石粒を少量含む。H－1の貼床層。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂粒ブロックをやや多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや弱い、黄色砂粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量含む地山層。

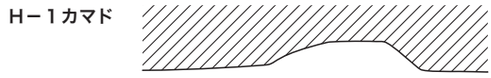
C区　D
1　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや弱い、粘性弱い、
2　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱い、粘性弱い、黄色砂粒を多く含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒を極微量含む。
8　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや弱い、黄色砂粒を微量含む。

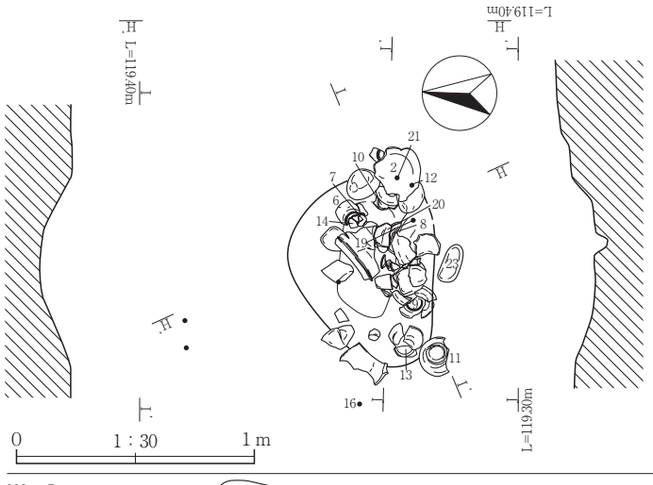
C区　E
1　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、As-C軽石粒、黄色砂粒を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや有、粘性やや有、黄色砂粒を多く含む。

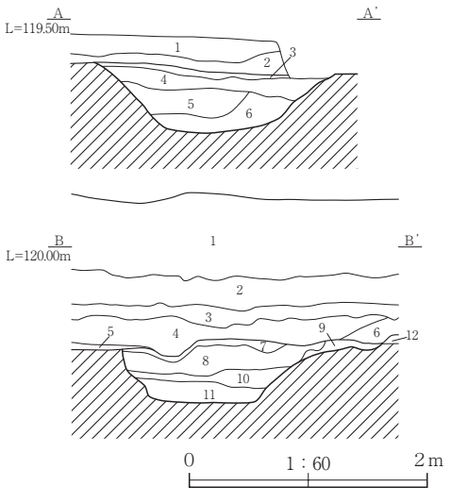
C区　F
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性やや有、As-C軽石粒、黄色砂粒を微量含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量、焼土粒を微量含む。

C区　G
1　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性強い、As-C軽石粒を少量含む。H－1の貼床層。
3　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり強い、粘性やや強い、H－4の貼床層、As-C軽石粒を少量含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
6　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量含む。

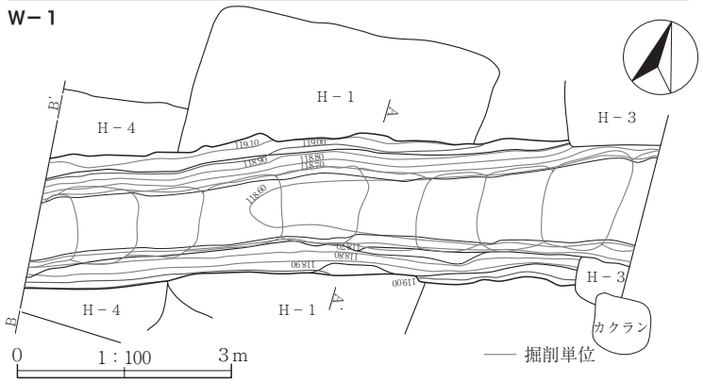
H－1カマド







W－1



C区W－1号溝　A
1　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を微量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強い、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり強い、粘性強い、As-C軽石粒を少量含む。H－1の貼床層
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、As-C軽石を微量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性有、黄色砂ブロックをやや多く含む。
6　黒褐色土（10YR3/1）締まりやや有、粘性やや弱い、黄色砂ブロックを微量含む。

C区W－1号溝　B
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有、粘性有、現表土造成土層、部分的に黄褐色土ブロックが造作されている。
2　褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強い、粘性有、旧表土層、水田の床土か。鉄分沈着が下位にみられる。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり有、粘性有、、焼土粒を多く、黄色砂粒をやや多く含む。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性有、焼土粒を少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。
7　黒褐色土（10YR2/2）締まり強い、粘性やや強い、H－4の貼床層、As-C軽石粒を少量含む。
8　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、As-C軽石粒を少量含む。
9　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。
10　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや有、粘性有、黄色砂粒を微量含む。
11　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性有、黄色砂粒を少量含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有、粘性やや弱い、黄色砂粒をやや多く含む。

Fig.40　C区H－1・2・3号住居跡（2）、W－1号溝

oumi60c.indd　60　　2014/07/16　11:10:26

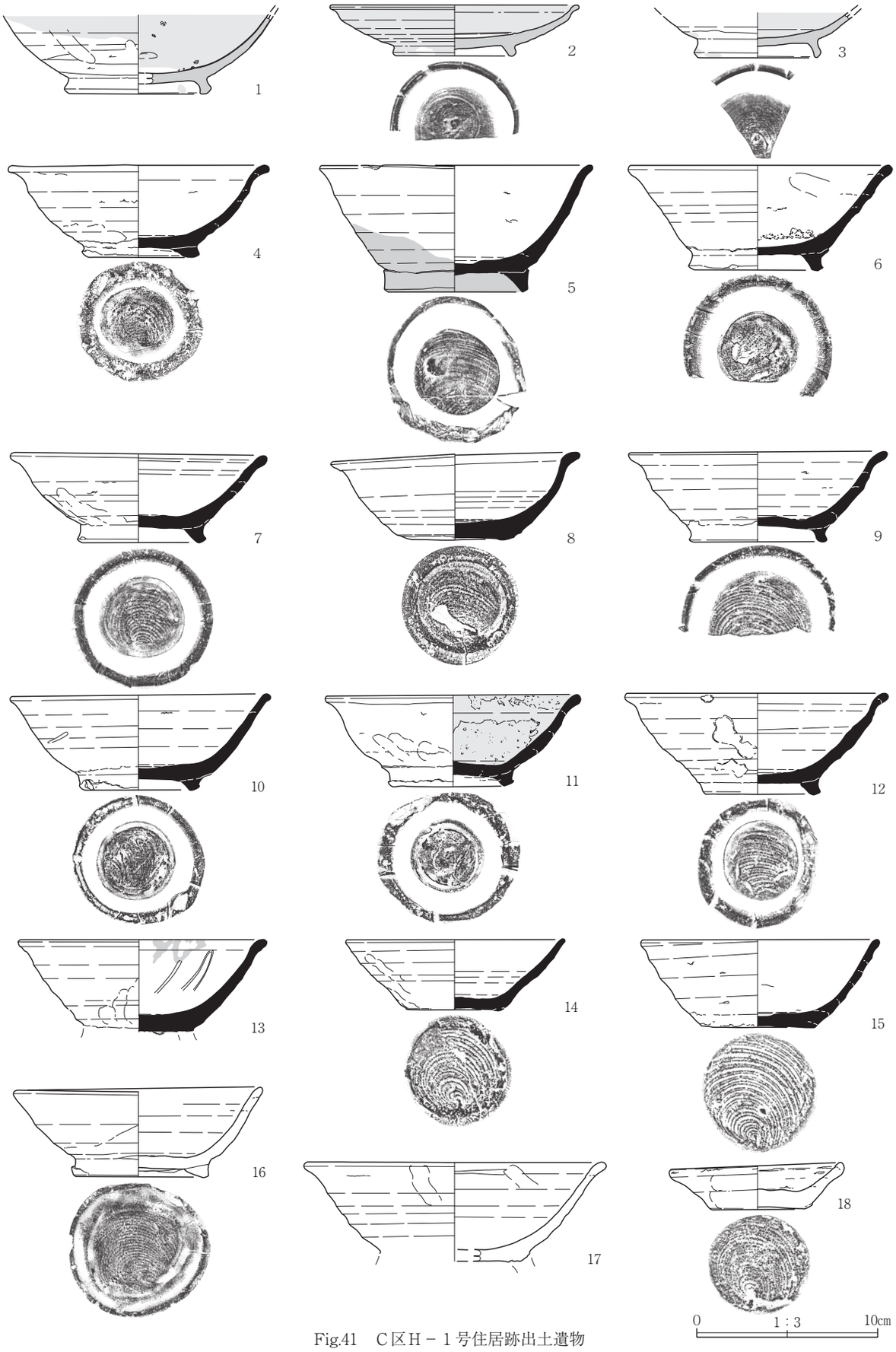


Fig.41　C区H－1号住居跡出土遺物

oumi60c.indd　61　　2014/07/16　11:10:29

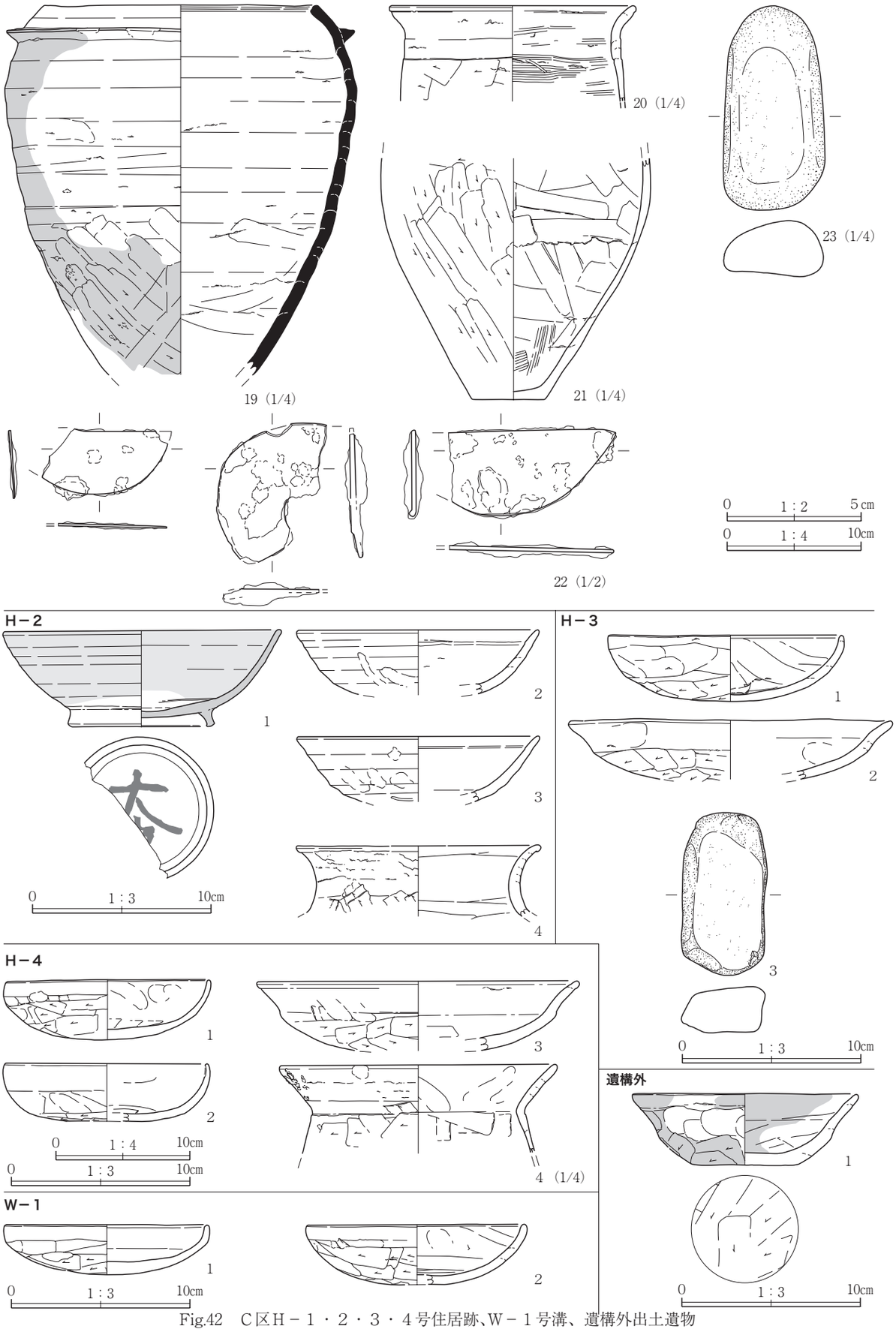


Fig.42　C区H－1・2・3・4号住居跡、W－1号溝、遺構外出土遺物

oumi60c.indd　62　　2014/07/16　11:10:29

Tab. 6　C区出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 4	灰釉陶器 埦	欠	〔7.5〕	(4.4)	白・黒色細粒、黒色粗粒、粘土質	堅緻	灰白 灰白	外面ロクロナデ後坏部下位回転ヘラナデ。底部削り出し高台。坏上半部施釉。 内面ロクロナデ。中心付近を残し施釉。	体部～底部片。 三日月高台。
2	No.19	灰釉陶器 皿	〔13.6〕	〔6.5〕	2.8	白・黒色粒、5mm 大の長石	堅緻	灰白 灰オリーブ	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部削り出し高台。全面に施釉。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。 重ね焼き痕あり。
3	No.35	灰釉陶器 埦	欠	〔6.6〕	(2.5)	白・黒色細粒、粘土質	堅緻	灰白 灰白	外面ロクロナデ。底部削り出し高台。 内面ロクロナデ。屈曲部から上方施釉。	体部下位～底部片
4	No. 2	須恵器 高台付坏	〔14.4〕	6.2	5.1	白・黒色粒、チャート粗粒	若干酸化焔	灰黄褐 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/5 残存。 高台貼付けは粗く坏全体に歪みあり。
5	No. 7	須恵器 高台付坏	〔15.0〕	〔7.4〕	7.0	白・黒・橙色粒	やや軟質	灰黄 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。 煤付着。
6	No.16	須恵器 高台付坏	〔14.3〕	6.9	5.8	黒色粒、白色粗粒	堅緻	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	1/2 残存。 内面下位に重ね焼痕あり。
7	No.17	須恵器 高台付坏	13.9	6.4	5.0	白・黒色粒、チャート粗粒	若干酸化焔	灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	3/4 残存。 歪みあり。
8	No.31	須恵器 高台付坏	13.5	5.1	4.9	～３mm の小石	普通	灰白、灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	高台部欠損。底部は高台部欠損後に研磨している。外内面口縁付近煤付着。
9	No.24	須恵器 高台付坏	〔14.1〕	〔7.3〕	4.9	白・黒色粒	普通	灰白 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。
10	No.30	須恵器 高台付坏	〔14.1〕	5.8	5.3	白・黒色粒、輝石	普通	黄灰 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
11	No.36	須恵器 高台付坏	13.9	6.3	5.1	白・黒色粒	普通	灰黄 黒、にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/3 残存。 内面煤及び炭化物付着。
12	No.48	須恵器 高台付坏	〔14.3〕	6.0	5.6	黒・橙色粒、輝石	やや酸化焔	浅黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。 内面上半部に煤付着。
13	No.37	須恵器 高台付坏	〔13.6〕	欠	(5.1)	灰色粒、粘土質	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。ミガキ痕か。	2/5 残存。 外・内面煤付着。内面口縁付近に灯芯痕か。及び内容物の痕跡（付着物）あり。
14	No.15	須恵器 坏	12.0	5.3	3.9	白・黒・茶色粒	若干酸化焔	黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 外・内面煤付着。
15	No.52	須恵器 坏	〔13.0〕	6.2	4.8	白色粒、チャート、黒雲母	普通	黒 黒	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
16	No.10	土師質 高台付坏	13.6	7.1	5.0	白･黒色粒、チャート・茶色粗粒	酸化焔	褐灰 褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。 歪みあり。
17	No. 6	土師質 高台付坏	〔16.4〕	欠	(5.5)	白・黒・茶色粒	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。 高台部欠損。
18	No.51	土師器 坏	9.4	5.1	2.6	白・黒・橙色粒	良好	にぶい橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	5/6 残存。
19	No.18, 他	須恵器 羽釜	〔20.4〕	欠	(27.7)	白・茶色粒、チャート粗粒	酸化焔	明黄褐 にぶい黄褐、にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。中位以下ロクロナデ後斜位ヘラナデ後ユビナデ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～胴部下位 2/5 残存。 外面煤付着。鍔径〔26.0〕cm
20	No.13	土師器 甕	〔18.1〕	-	(7.3)	白・黒・茶色粒	軟質	にぶい赤褐 暗赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ。下位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。	口縁～肩部片。
21	No.21	土師器 甕	-	5.4	(18.0)	白・黒・茶色粒	軟質	黒褐 暗赤褐	外面胴部中位～下位縦位及び斜位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内胴部中位～下位ヘラナデ及びユビナデ。	胴部中位～底部 2/5 残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
22	No. 1	鉄製鎌	(4.6)	2.7	0.8				5.2	-	先端部片。
			(6.2)	3.4	0.8	鉄			11.9	刃部中央付近は（使用により）折り返されてる。	先端部片。
			5.3	(4.0)	0.9				12.2	-	基部片。

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
23	No.41	石器・こも編石	15.3	7.7	4.2	粗粒安山岩	-	-	829.3	使用による磨耗で全体はなめらかである。左側面に若干の痘痕が見られる。	完存。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	灰釉陶器 埦	15.4	7.2	5.4	黒・茶色粒、白色粗粒	堅緻	灰白、にぶい黄橙 橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転ヘラナデ後高台貼り付け、墨書あり。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。重ね焼き痕あり。	1/2 残存。 底部以外施釉。
2	No. 1	土師器 坏	〔13.5〕	欠	(3.6)	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。 (No. 3 と同一と思われるが接合は不可。)
3	No. 3	土師器 坏	〔13.5〕	欠	(3.6)	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部下位片。 (No. 1 と同一と思われるが接合は不可。)
4	No. 4	土師器 甕	〔18.0〕	欠	(5.3)	白・黒・茶色粒、チャート	良好	橙、灰褐 にぶい橙	外面口縁～頸部ヨコナデ、以下斜位ヘラケズリ。 内面口縁～頸部ヨコナデ、以下横位ヘラナデ。	口縁～頸部片。

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	13.0	丸底	3.7	白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/3 残存。
2	覆土	土師器 盤	〔18.0〕	丸底	(3.4)	白・黒色粒、黒雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ。	口縁～体部片。 内面付着物あり。(煤)

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石器 こも編石	12.2	6.5	3.6	粗粒安山岩	-	-	484.4	磨耗により石器全体は滑らかな手ざわりである。	完存。

H－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	11.3	丸底	3.4	白色粒、黒雲母	良好	灰黄褐 にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ及びユビナデ。	2/3 残存。
2	No. 8	土師器 坏	〔11.3〕	丸底	3.3	白・黒・茶色粒	良好	橙 にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ及びヘラナデ。	1/6 残存。
3	No. 5	土師器 盤	〔17.9〕	欠	(3.8)	白色粒、黒雲母	良好	橙、褐灰 にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ及びヘラナデ。	口縁～体部下位片
4	No. 4	土師器 甕	〔20.5〕	欠	(6.6)	白・黒色粒	良好	橙 にぶい橙	外面口縁ヨコナデ、以下斜位及び横位ヘラケズリ。 内面口縁ヨコナデ、以下横位ヘラナデ。	口縁～肩部片。 外面口縁付近にカマド土付着。

W－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	一括	土師器 坏	〔11.6〕	丸底	2.9	白・黒・茶色粒、黒雲母	良好	橙、黒 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	3/5 残存。
2	一括	土師器 坏	〔12.1〕	丸底	3.4	白・黒色粒、黒雲母	良好	にぶい橙 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	1/3 残存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺構外	土師器 坏	12.6	5.8	4.0	白色粒、チャート粗粒、石英	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ後下半部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ後ヘラナデ。	2/3 残存。 外面煤付着。　内面煤付着。

oumi60c.indd　63　　2014/07/16　11:10:29

Ⅵ　発掘調査の成果と課題

今回の元総社蒼海遺跡群（60）の調査では、竪穴住居跡44軒、溝跡６条（うち堀跡１条）、井戸跡３基、土坑39基、ピット18基を検出した。個別遺構の詳細については前章に記したが、ここでは集落の動向を従来の編年観に基づいて若干の考察を加え、まとめとしたい。

１　集落の変遷

６世紀後半の住居跡はＡ区Ｈ－５号住居跡である。出土遺物は所謂、模倣坏で体部は丸みを帯び、中位の稜からやや直立気味の口縁部へと至り、口端部は外反するものと、中位の明確な稜から、口縁部は外反するものがある。両方とも内外面に漆が塗布されている。１軒のみの検出であり、集落としての詳細は不明である。７世紀の住居跡はＡ区Ｈ－１・34、Ｂ区Ｈ－２・６号住居跡の計４軒が検出された。出土遺物から判断すると、７世紀後半が主体となり、散発的な検出状況となっている。７世紀末から８世紀初頭にかけての住居跡はＡ区Ｈ－16・18・29・31号住居跡、Ｂ区Ｈ－１号住居跡の計５軒が検出された。Ａ区南半からＢ区中央にかけての検出であり、まとまった集落展開がなされていたことが想定される。一辺10ｍ近い大型住居であるＢ区Ｈ－１号住居跡は、突出した住居規模と須恵器を主体とした遺物構成の一方で、住居内施設の貧弱さと覆土中位からのまとまった遺物出土状況からは、通常の当該期の住居とは違う、やや特異なものを感じさせる。元総社蒼海地区内の発掘調査において類似する大型住居として、蒼海（43）Ｈ－１号がある。規模は長軸9.20ｍ、短軸8.60ｍで、遺物は須恵器が多く、盤や円面硯が出土する器種構成の多様さは本遺構と共通するものであり、時期も８世紀前半から中葉と連続性を窺わせる。８世紀の住居跡はＡ区Ｈ－15・24号住居跡、Ｂ区Ｈ－３号住居跡、Ｃ区Ｈ－３・４号住居跡の計５軒が検出された。出土遺物から判断すると、８世紀前半が主体となり、立地は散発的な検出となっている。Ｃ区Ｈ－３・４号住居跡は共に８世紀前半であり、区画溝と考えられるＷ－１号溝は、それ以前には埋没していたと考えられる。９世紀の住居跡はＡ区Ｈ－２・21・25・33号住居跡、Ｂ区Ｈ－５号住居跡、Ｃ区Ｈ－２号住居跡の計６軒が検出された。すべてが９世紀後半の住居である。10世紀の住居跡はＡ区Ｈ－８・10・12～14・17・22・23・26～28・30・32号住居跡、Ｃ区Ｈ－１号住居跡の計14軒が検出された。９世紀後半から10世紀台は最も集落が展開する時期であり、重複関係や遺物の時期からも連綿と集落が営まれていたことが想像できる。11世紀の住居跡はＡ区Ｈ－６・７・９・11・

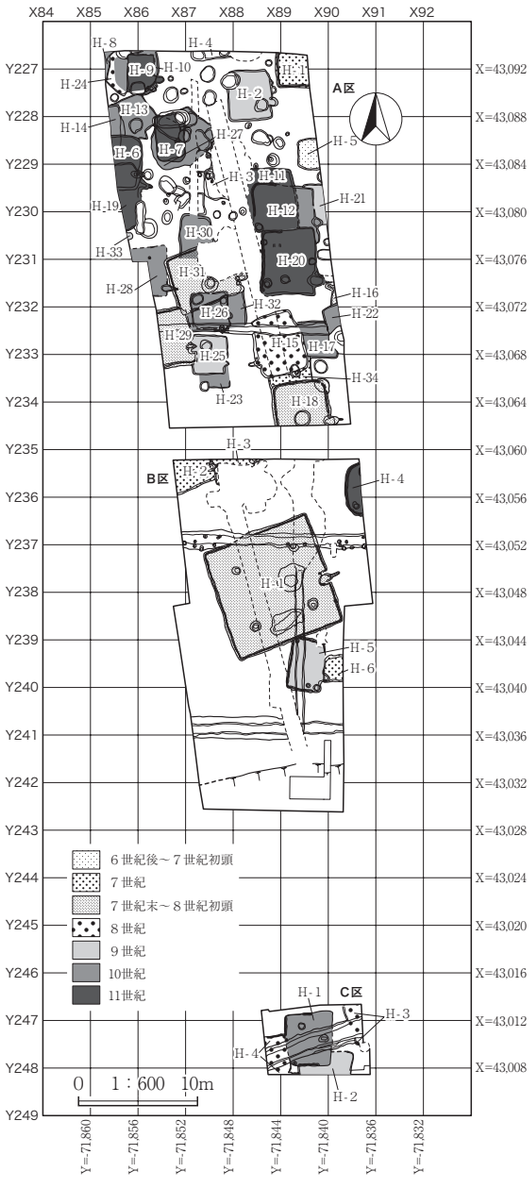


Fig.43　集落の変遷

oumi60c.indd　64　　2014/07/16　11:10:31

19・20号住居跡、B区H－4号住居跡の計7軒が検出された。重複関係により新旧が区分でき、H－19よりH－6、H－11よりH－20が新相を示す。H－9号住居跡出土の灰釉陶器皿は口径が11cmと小型で、高台は小さく、断面は丸みを帯びた三角形となっており、丸石2号窯式の様相を呈する。土師質の坏はいずれも「かわらけ状の坏」で、器高と口径の比率を住居の重複関係で追った場合は、新しくなるにつれ小型化する傾向が窺える。A区H－6号住居跡は床面から10～15cmの間層を挟んで、天仁元年（1108）に降下したAs-B軽石一次堆積層が覆土中に確認されている。本遺跡の南方に位置する鳥羽遺跡SK - 332土坑では、底面から15～20cmの間層を挟んで軽石層が検出しており、出土した皿状土器は口径8cm、器高1.5cm以下の斉一性が認められ、12世紀第1四半期と考えられている。[1] この遺物から遡る鳥羽第25段階（11世紀第4四半期）は口径8～10cm、器高はすべて2cm以内に収まり、11世紀第4四半期を想定している。この口径・法量の小型化は、古代末期の坏（皿形土器）の変遷として捉えられており、その形態的変化を考慮すると、H－6号住居跡は11世紀中葉と考えられる。

しかしながら、軽石層の検出が住居跡や出土遺物の時期認定の根拠となる一方で、高崎市箕郷町の生原・天神前遺跡では10世紀後半の住居跡において、床面から約30cmの覆土上層に軽石層を検出し、[2] 前橋市の上西原遺跡では、8世紀台の住居床面から約20cmに、軽石層がレンズ状に堆積している。[3] いずれもAs-B軽石一次堆積層を覆土に含む住居跡であるが、立地や環境による埋没速度の時間差を考慮する必要があろう。

2　鍛冶関連遺構について

A区H－11号住居跡は、H－20号住居跡との重複や撹乱により判然としないが、残存している床面範囲から長軸7m以上と想定される。東壁中央付近床面の焼土域に、長軸0.79m、短軸0.35m、2cm程の窪みをもつ炉様施設、住居内西側の土坑は覆土に焼土や灰ブロックを含み、壁面上部に焼土化が認められる。鍛造剥片などは検出されなかったが、覆土中には大きさが手のひら大の椀形鍛冶滓が出土している。なお、出土遺物の中には床面直上で鉄製鐔、刀子が出土している。炉様施設は焼土域の範囲や椀形鍛冶滓を考慮すると小型鍛冶炉であると考えられる。より詳細に椀形鍛冶滓を観察すると、下面は発泡しており、磁着は認められない。上手側には炉底部の胎土が付着、下手側は一段下がった部分に植物繊維痕が確認できることから、炉壁との接地面と思われる。上面は鍛造剥片の付着は認められない。下手側から中央部にかけて薄い流動状の滓に覆われており、この部分には磁着は認められない。右側面に破面が認められるがほぼ完形である。上面の状態から鍛冶の工程として焼き入れ・焼きなましを想定できるが、正確な結果を得るには分析が必要である。また、H－11号住居跡は小型鍛冶炉を備えているが、床面や椀形鍛冶滓から鍛造剥片が検出されていないため、鍛錬以外の作業が行われたと考えられる。

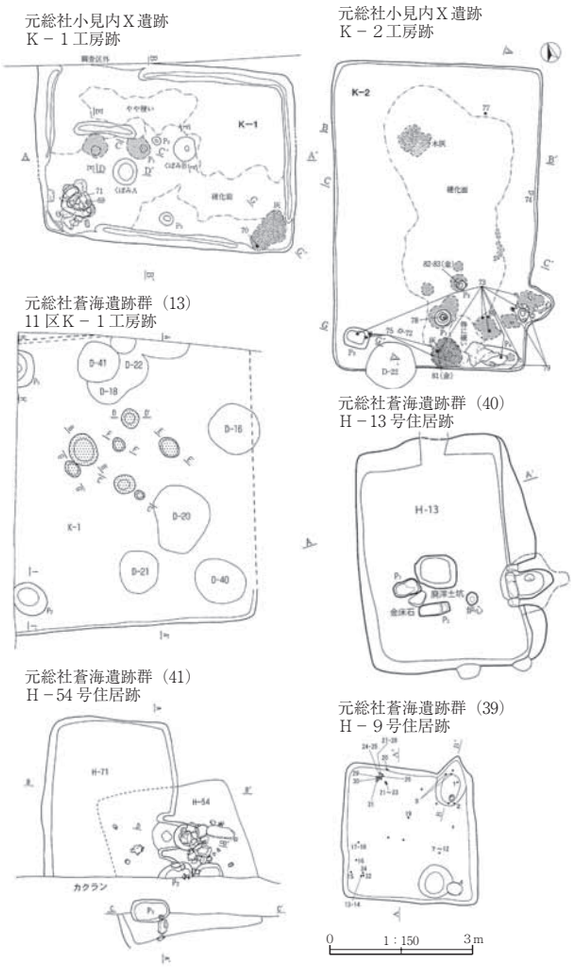


Fig.44　元総社蒼海地区の鍛冶関連遺構

oumi60c.indd　65　　2014/07/16　11:10:32

3　鉄製鐔について

Ａ区Ｈ－11号住居跡から出土した、鉄製鐔について若干の考察を加えたい。この鉄製十字鐔は、縦幅5.5cm、横幅4.3cm、厚さ0.8cmで住居床面から約９cmの高さで出土した。破損部内外面には緑青が付着しているが、鐔本体は鉄地であることから、他の装具に銅が使用されていたか、あるいは鐔の作製時に付着したと考えられるが、判然としない。金銅製・銅製の十字鐔は島根県馬場遺跡（10世紀後半～11世紀）や神奈川県真土六の域遺跡（11世紀前半）に出土例があるが、鉄製は東北地方、主に出羽から津軽にかけて分布している。時期的には９世紀後半から10世紀中葉の間に位置付けられ、東北北部における鉄生産の隆盛と重なるが、製作技法は金銅･銅製とは異なり、あくまで形態の模倣に留まっている[(4)]。本遺跡出土鐔の製作過程としては、棒状の鉄を曲げて内輪は下部（刃側）で接合し、外輪は破損面の下側が接合部になると考えられ、さらに長方形部品を十字に配置して内外輪を繋いで鐔としている。これは金銅・銅製鐔と同一の製作技法であることから、形態模倣を主とした東北地方の鉄製鐔とは異なり、技法が伝播した状況下において、製作されたものと考えられる。

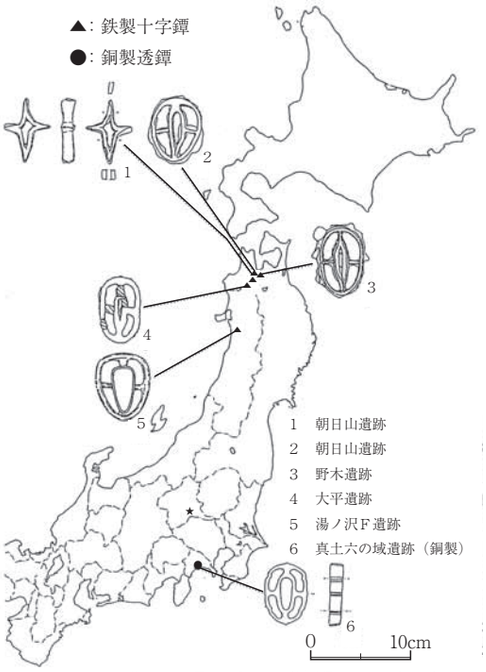


Fig.45　鉄製十字鐔の分布（津野2008より）

最後に当初の想定を大幅に上回る遺構・遺物数量となった今回の調査において、協力した下さったすべての方に謝意を記し、結びとしたい。

註

（1）群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『鳥羽遺跡』Ｉ・Ｊ・Ｋ区本文編

（2）高崎市教育委員会　2010　『生原・天神前遺跡』

（3）群馬県教育委員会　1999　『上西原遺跡』

（4）津野　2008

参考文献

前橋市教育委員会　2005　「元総社小見内Ｘ」

前橋市教育委員会　2008　「元総社蒼海遺跡群（13）」

前橋市教育委員会　2013　「元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50）」

高崎市教育委員会　2010　『生原・天神前遺跡』

群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『鳥羽遺跡』Ｉ・Ｊ・Ｋ区本文編

群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992「上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）」第二編

群馬県教育委員会　1999　『上西原遺跡』

群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007「南原間遺跡」

（社）日本鋼鉄協会社会鉄鋼工学部会　2005　「鉄関連遺物の分析に関する研究会報告書　－鉄関連遺物の発掘・整理から分析調査・保存まで-」

津野　仁　2008「蝦夷の武装」『考古学研究』54巻４号　通巻216号　考古学研究会

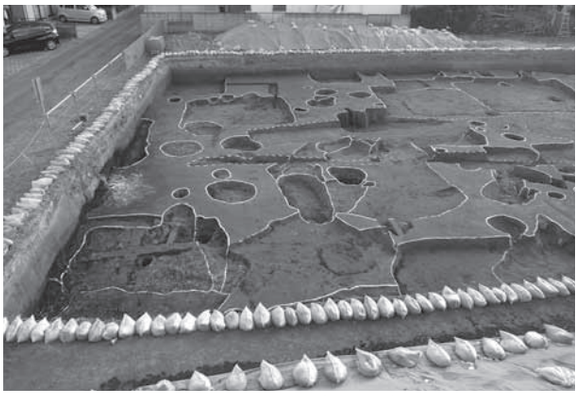
津野　仁　2010「日本刀の成立過程　－木柄刀と古代刀の変遷－　」『考古學雑誌』第94巻第３号　日本考古學会

津野　仁　2011『日本古代の武器・武具と軍事』吉川弘文館

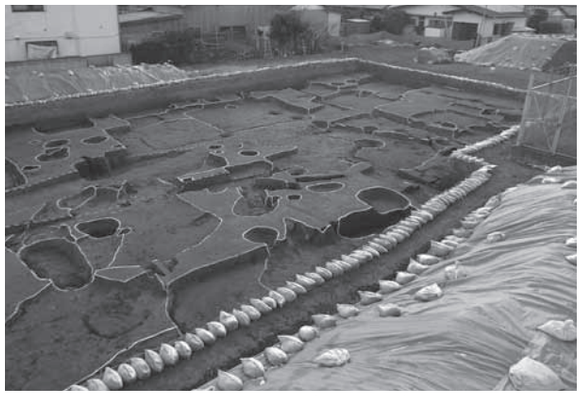
oumi60c.indd　66　　2014/07/16　11:10:33

Ａ区全景（南から）

Ａ区全景（南東から）



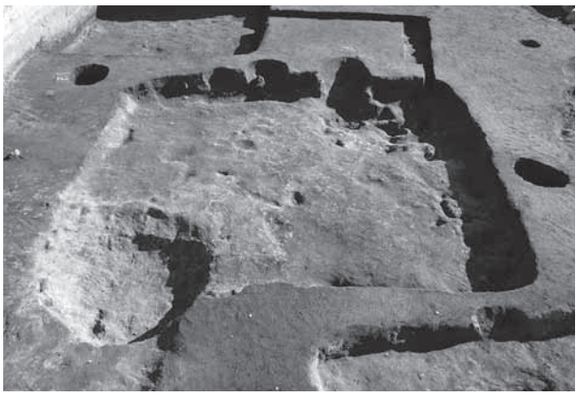
Ａ区北半全景（西から）



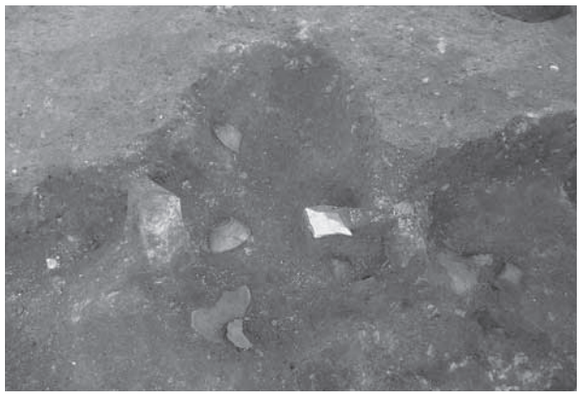
Ａ区南半全景（北西から）

Ａ区北半全景（南東から）

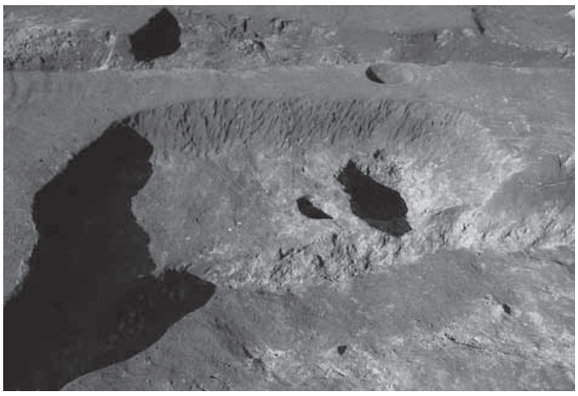
Ａ区Ｈ－１全景（南から）



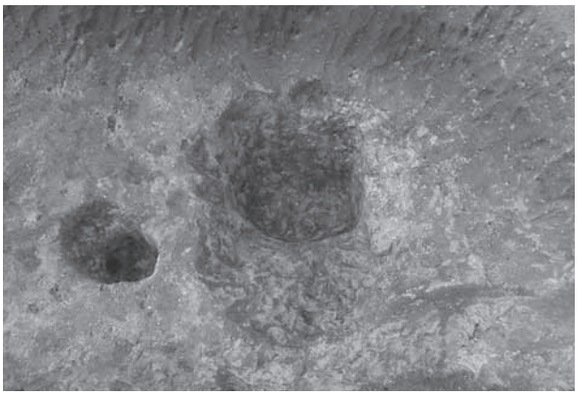
Ａ区Ｈ－２全景（西から）



Ａ区Ｈ－２カマド全景（西から）



A区H－３全景（東から）



A区H－３貯蔵穴全景（東から）

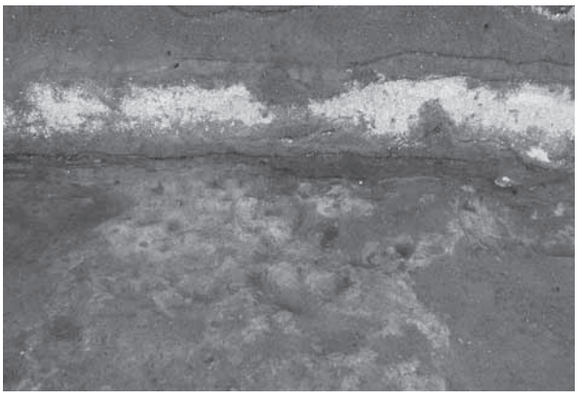
A区H－４全景（南から）

A区H－５全景（西から）

A区H－６全景（東から）

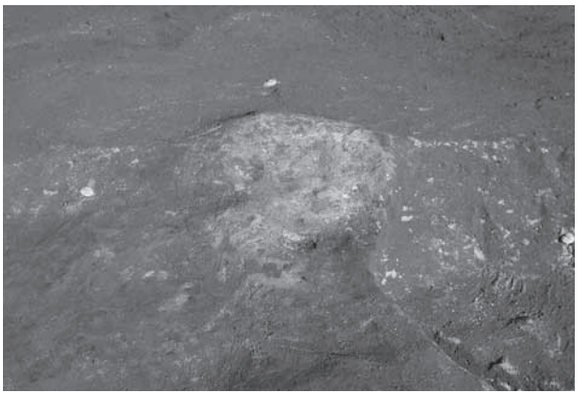
A区H－６ As-B軽石堆積状況（南から）

A区H－６ As-B軽石堆積状況（南東から）



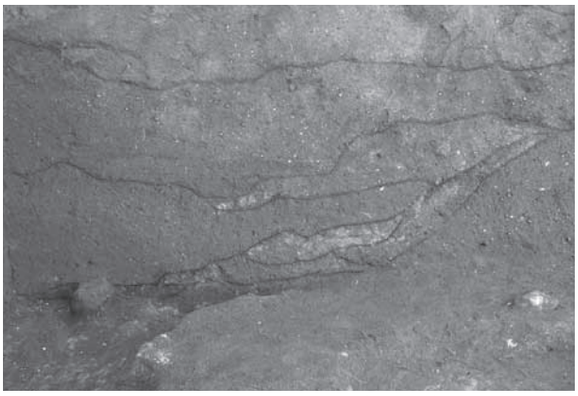
A区H－６ 火床面検出状況（東から）

A区H－７全景（南から）

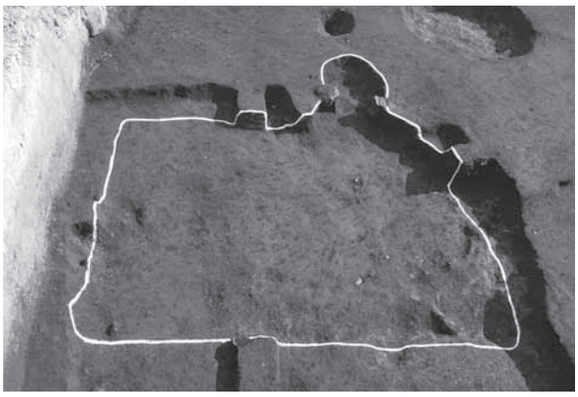


A区H－７カマド全景（南から）

A区H－８全景（南東から）



A区H－８カマド断面（南から）

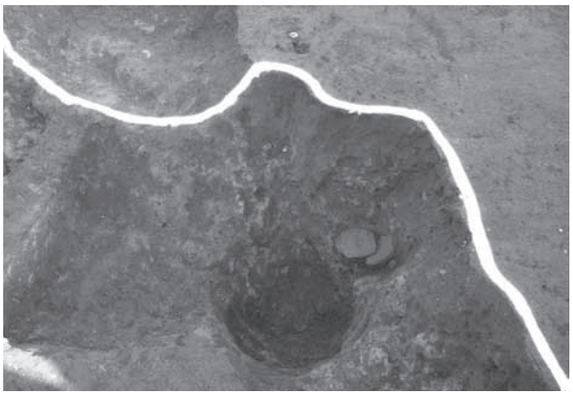


A区H－９全景（西から）

A区H－９カマド遺物出土状況（西から）

A区H－９カマド全景（西から）

A区H－10全景（西から）

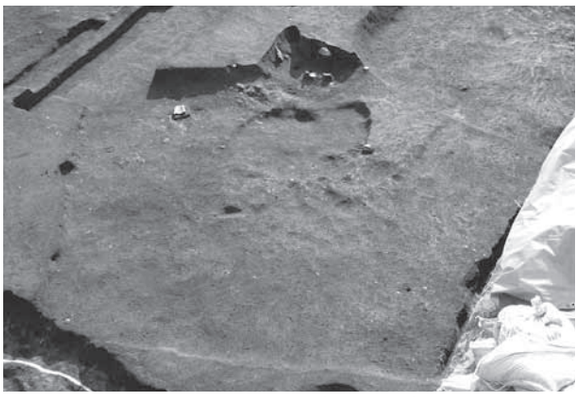


Ａ区Ｈ－10カマド全景（西から）

Ａ区Ｈ－11・12・20全景（西から）

Ａ区Ｈ－11・12全景（東から）

Ａ区Ｈ－12カマド全景（西から）



Ａ区Ｈ－13全景（北西から）

Ａ区Ｈ－13カマド全景（北西から）

Ａ区Ｈ－14全景（西から）

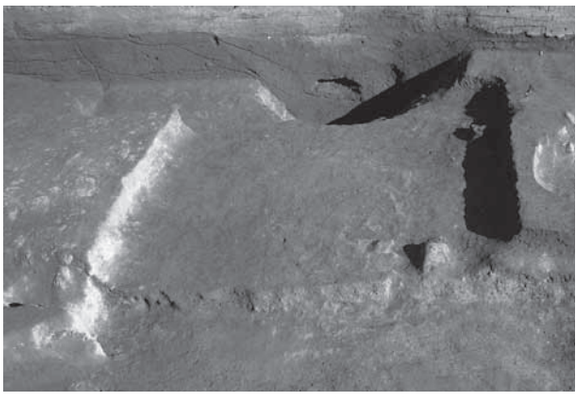
Ａ区Ｈ－15全景（東から）

A区H－15カマド全景（東から）

A区H－16全景（東から）

A区H－16カマド検出状況（東から）

A区H－16カマド全景（東から）



A区H－17全景（西から）

A区H－18全景（西から）

A区H－18カマド遺物出土状況（西から）

A区H－18カマド全景（西から）

A区H－19全景（西から）

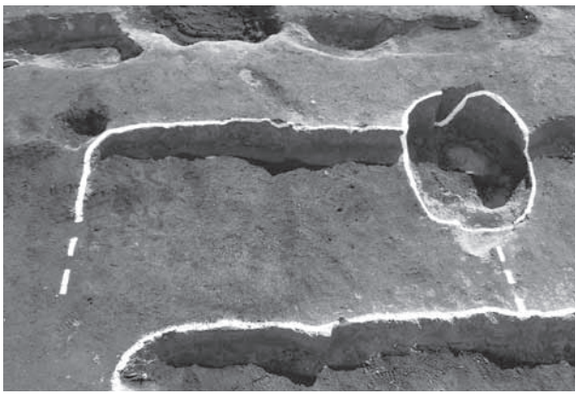
A区H－19カマド全景（西から）

A区H－20全景（西から）

A区H－20カマド全景（西から）

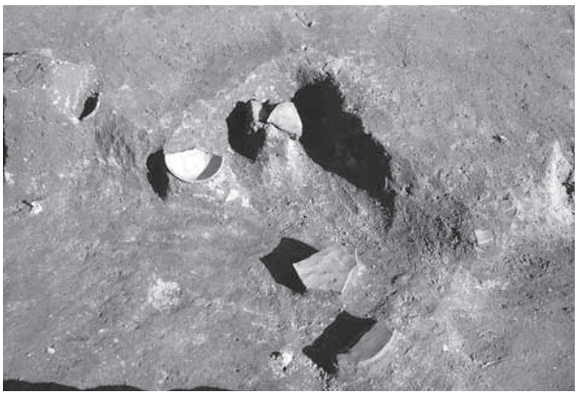
A区H－21全景（西から）

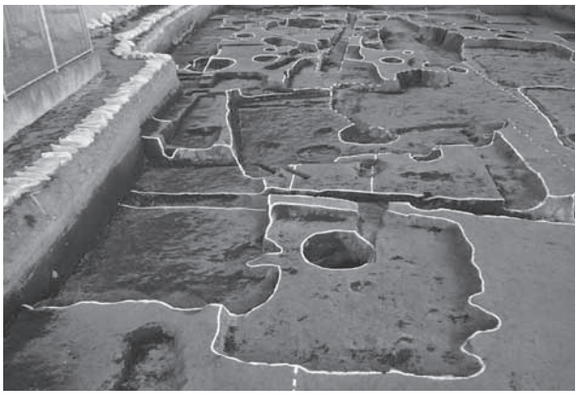
A区H－22全景（東から）


A区H－23全景（北から）

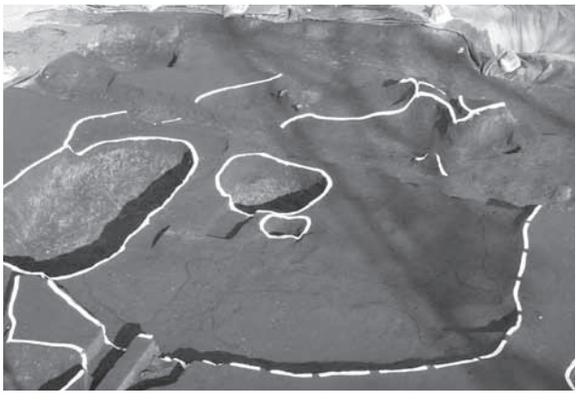
A区H－23遺物出土状況（北西から）

A区H－25全景（西から）


A区H－25カマド全景（西から）

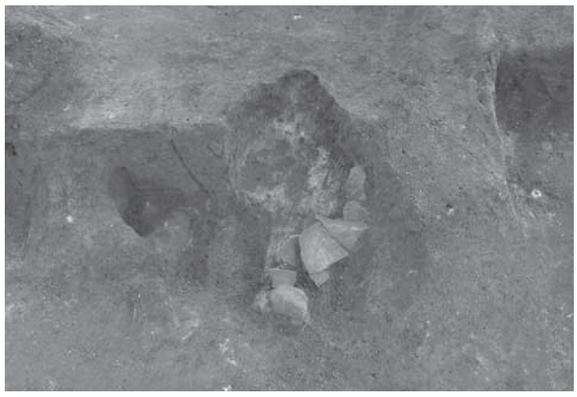

A区H－25・26・29・32全景（南から）

A区H－26カマド全景（西から）


A区H－27全景（南西から）

A区H－27カマド全景（南西から）

A区H－28カマド全景（西から）


A区H－29カマド全景（西から）

A区H－31全景（西から）

A区H－31カマド全景（西から）

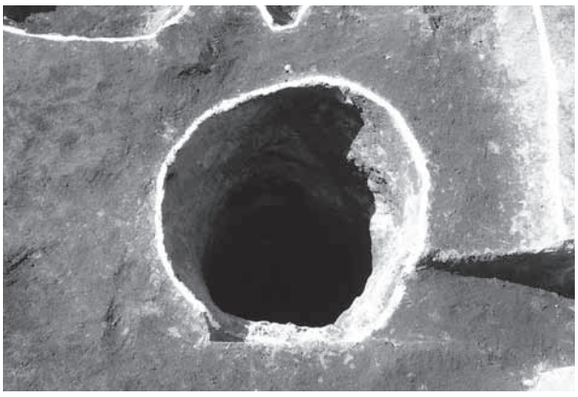
A区H－31遺物出土状況（北西から）

A区H－32カマド全景（北から）

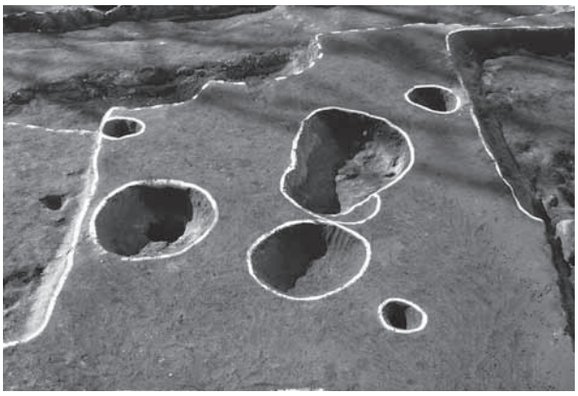
A区H－33カマド全景（南から）

A区W－１全景（西から）

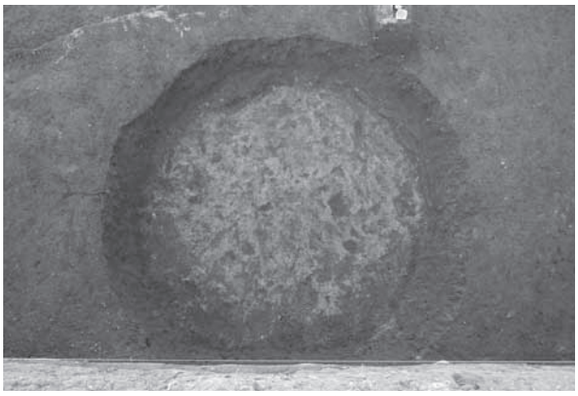
A区Ｉ－１全景（西から）


A区Ｉ－２全景（南から）

A区Ｉ－３全景（東から）

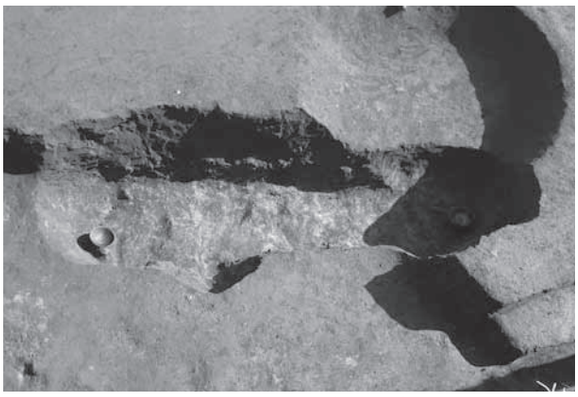


A区D－２・３・10、Ｐ－２・３・10全景（東から）

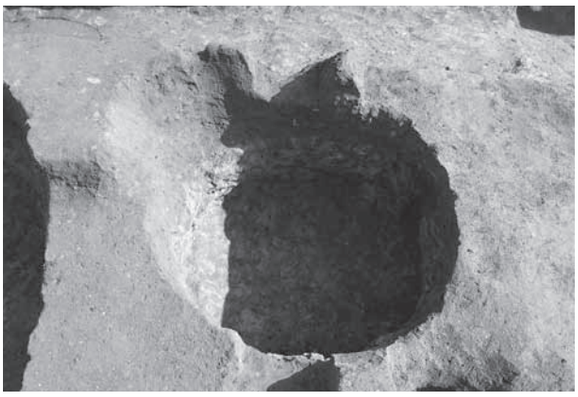


A区D－17全景（南から）

A区D－18全景（南から）

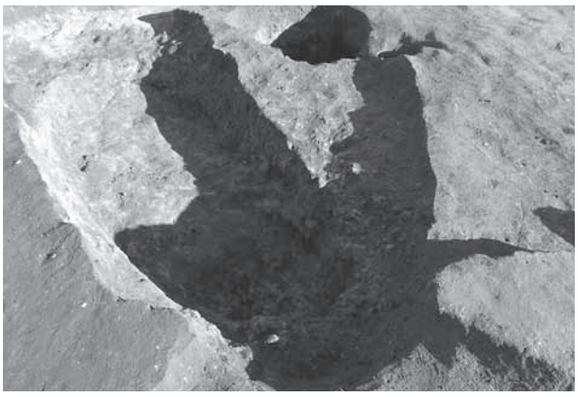


A区D－20全景（西から）



A区D－23全景（西から）

A区D－25全景（西から）



A区D－37全景（西から）

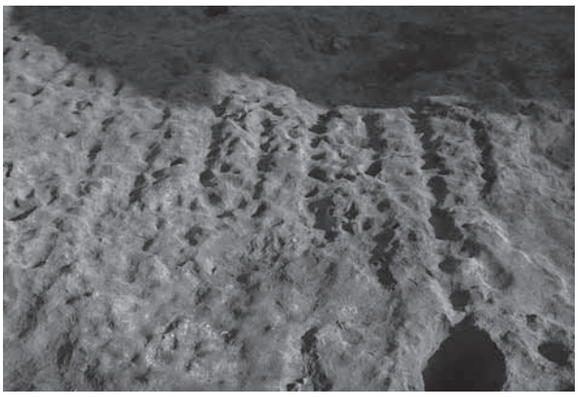
Ｂ区全景（南から）

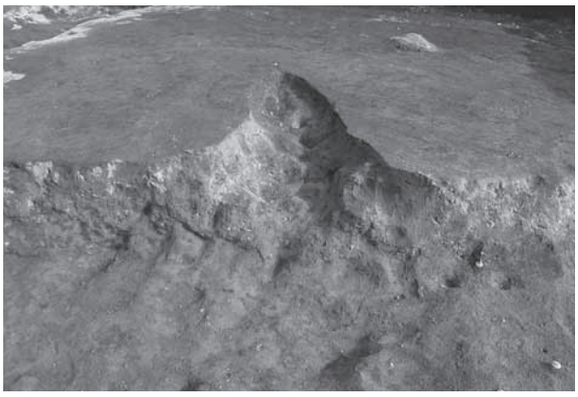
Ｂ区北半全景（南西から）

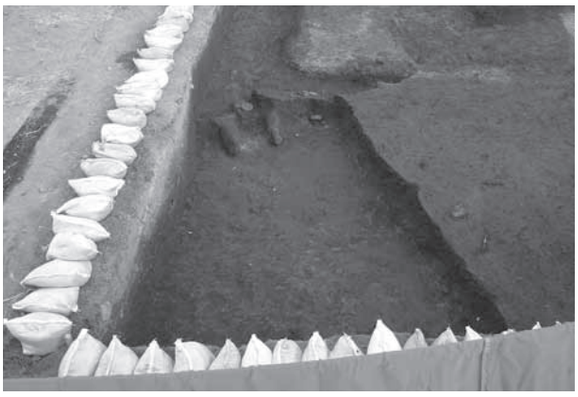
Ｂ区全景（西から）

Ｂ区Ｈ－１全景（西から）

Ｂ区Ｈ－１カマド全景（西から）


Ｂ区Ｈ－１掘り方掘削痕検出状況（南西から）


Ｂ区Ｈ－１カマド掘り方全景（西から）


Ｂ区Ｈ－２全景（西から）

Ｂ区Ｈ－２カマド全景（西から）

Ｂ区Ｈ－２遺物出土状況（北西から）

Ｂ区Ｈ－３全景（西から）

Ｂ区Ｈ－４全景（西から）

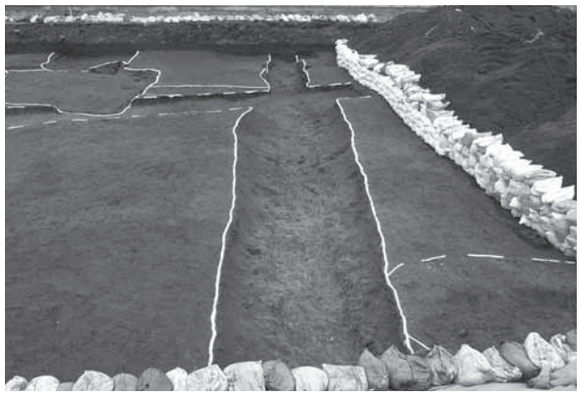
Ｂ区Ｈ－５・６全景（西から）

Ｂ区Ｈ－５カマド全景（西から）

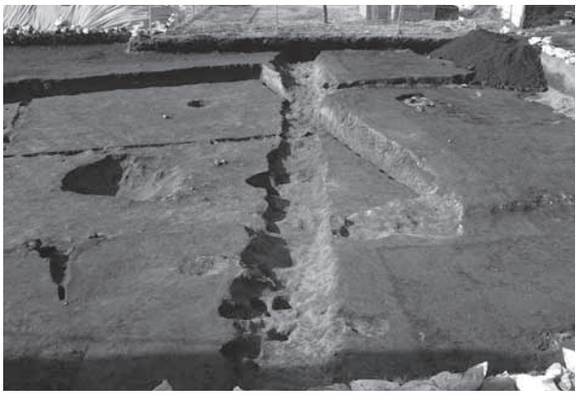
Ｂ区Ｈ－５遺物出土状況（北から）

Ｂ区Ｗ－１確認状況（西から）

Ｂ区Ｗ－１断面（西から）



Ｂ区Ｗ－２全景（西から）



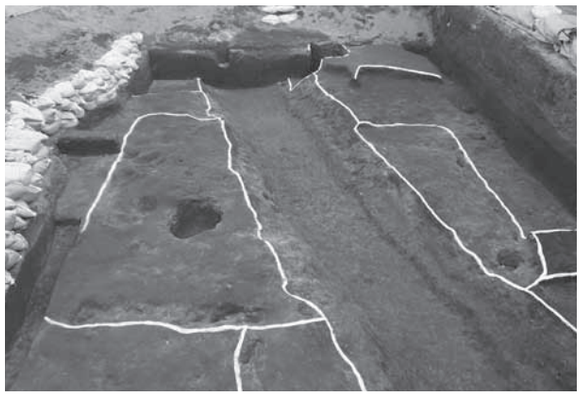
Ｂ区Ｗ－４全景（東から）

Ｃ区全景（東から）

Ｃ区全景（北から）

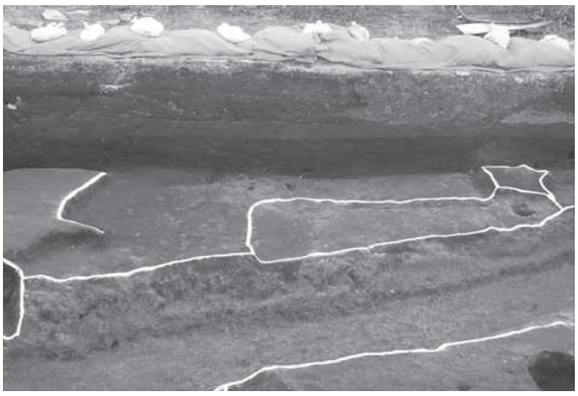
Ｃ区南壁断面（北東から）

Ｃ区西壁断面（東から）



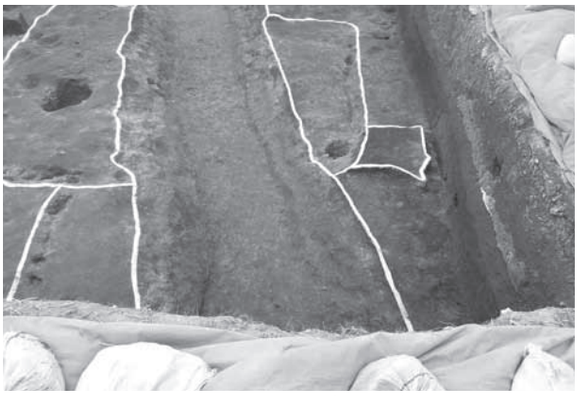
Ｃ区Ｈ－１全景（西から）

Ｃ区Ｈ－１遺物出土状況（北から）



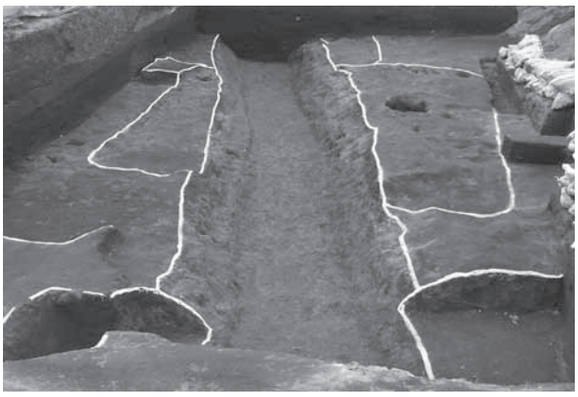
Ｃ区Ｈ－２全景（北から）

Ｃ区Ｈ－３全景（北から）



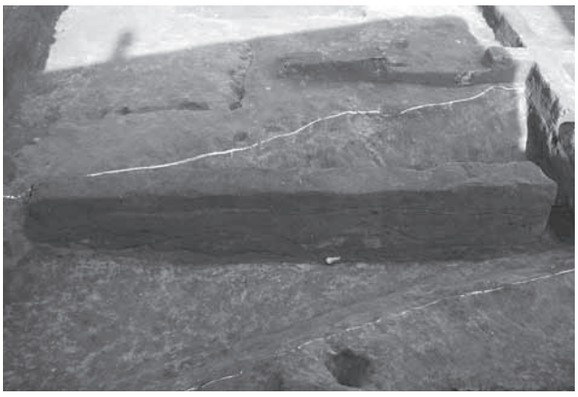
Ｃ区Ｈ－４全景（西から）

Ｃ区Ｈ－４カマド全景（西から）

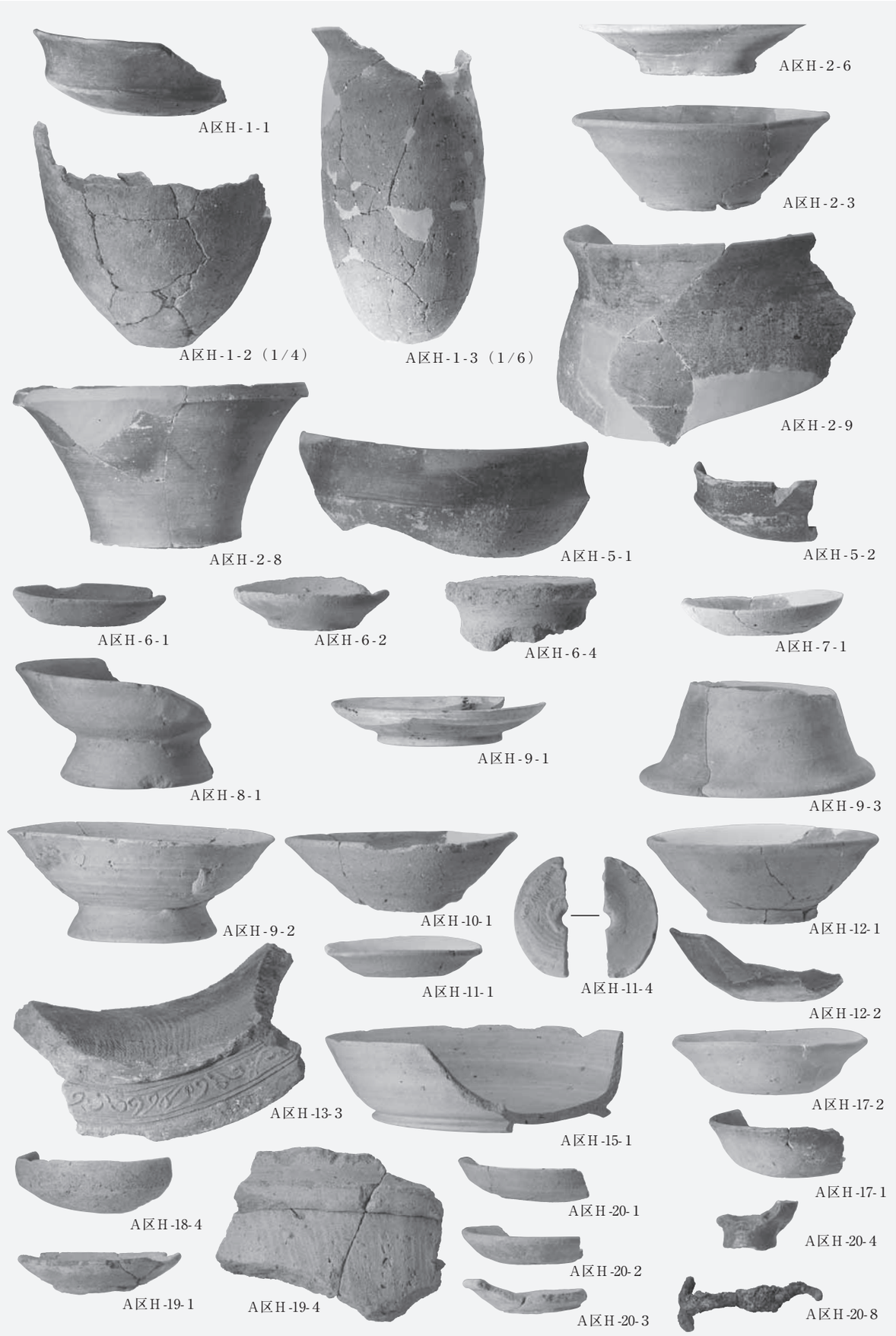


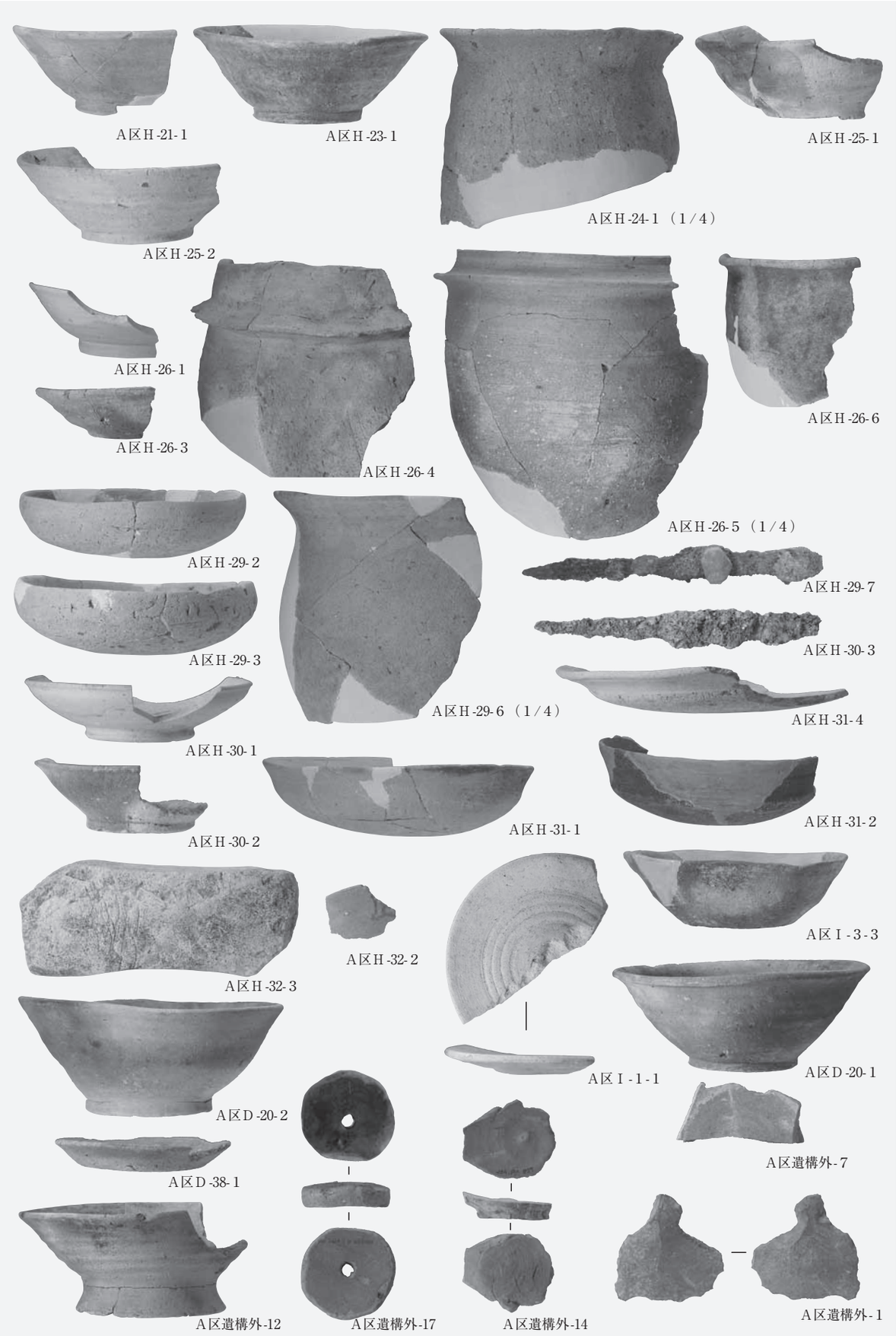
Ｃ区Ｗ－１全景（東から）

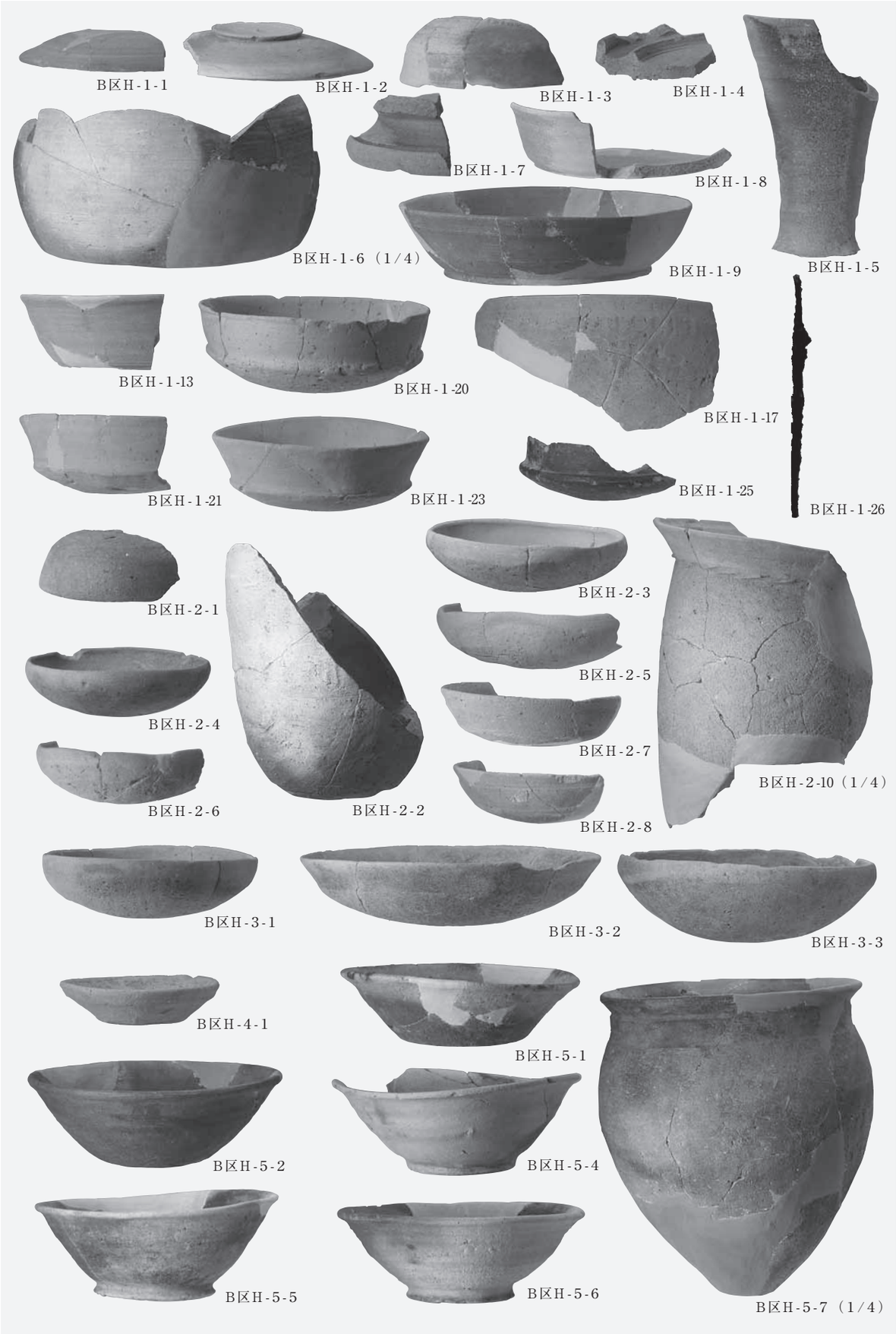
Ｃ区Ｗ－１東壁断面（西から）



Ｃ区Ｗ－１東西断面（南から）


A区H-1-1
A区H-1-2（1/4）
A区H-1-3（1/6）
A区H-2-6
A区H-2-3
A区H-2-9
A区H-2-8
A区H-5-1
A区H-5-2
A区H-6-1
A区H-6-2
A区H-6-4
A区H-7-1
A区H-8-1
A区H-9-1
A区H-9-3
A区H-9-2
A区H-10-1
A区H-11-1
A区H-11-4
A区H-12-1
A区H-12-2
A区H-13-3
A区H-15-1
A区H-17-2
A区H-17-1
A区H-18-4
A区H-20-1
A区H-20-4
A区H-20-2
A区H-19-1
A区H-19-4
A区H-20-3
A区H-20-8


A区H-21-1
A区H-23-1
A区H-24-1（1/4）
A区H-25-1
A区H-25-2
A区H-26-1
A区H-26-3
A区H-26-4
A区H-26-5（1/4）
A区H-26-6
A区H-29-2
A区H-29-3
A区H-29-6（1/4）
A区H-29-7
A区H-30-3
A区H-31-4
A区H-30-1
A区H-30-2
A区H-31-1
A区H-31-2
A区H-32-3
A区H-32-2
A区Ⅰ-3-3
A区Ⅰ-1-1
A区D-20-1
A区D-20-2
A区D-38-1
A区遺構外-7
A区遺構外-12
A区遺構外-17
A区遺構外-14
A区遺構外-1


B区H-1-1
B区H-1-2
B区H-1-3
B区H-1-4
B区H-1-5
B区H-1-6（1/4）
B区H-1-7
B区H-1-8
B区H-1-9
B区H-1-13
B区H-1-20
B区H-1-17
B区H-1-21
B区H-1-23
B区H-1-25
B区H-1-26
B区H-2-1
B区H-2-2
B区H-2-3
B区H-2-4
B区H-2-5
B区H-2-6
B区H-2-7
B区H-2-8
B区H-2-10（1/4）
B区H-3-1
B区H-3-2
B区H-3-3
B区H-4-1
B区H-5-1
B区H-5-2
B区H-5-4
B区H-5-5
B区H-5-6
B区H-5-7（1/4）

B区W-4-1
B区遺構外-1
B区遺構外-3
C区H-1-1
C区H-1-6
C区H-1-14
C区H-1-16
C区H-1-7
C区H-1-8
C区H-1-9
C区H-1-12
C区H-1-13
C区H-1-15
C区H-1-19（1/4）
C区H-1-11
C区H-1-18
C区H-2-1
C区H-3-1
C区H-4-1
C区W-1-1

oumi60c.indd 18 2014/07/16 11:15:49

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン（60）
書名	元総社蒼海遺跡群（60）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	福田貫之・前田和昭・岡野　茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１-15-３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
発行年月日	2014年３月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	位置 北緯	位置 東経	調査期間	調査面積	調査原因
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 （60）	マエバシ シ モトソウジャマチ 前橋市元総社町 1309-１ほか	102021	25A159	36°23'19	139°1'44	20131203 ～ 20140213	1,190㎡	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （60）	集落 城館跡 その他	平安時代 中・近世	住居跡　44基 溝　５条 堀跡　１条 井戸　３基 土坑　39基 ピット　18基	緑釉陶器 灰釉陶器 須恵器・土師器 かわらけ 鉄製品 石製品	７世紀末から11世紀半ばまでの集落遺跡 蒼海城の堀跡

元総社蒼海遺跡群（60）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年３月20日　印刷
2014年３月26日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
TEL　027-231-9531

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社

oumi60c.indd　19　　2014/07/16　11:15:49

oumi60c.indd 20 2014/07/16 11:15:49

oumi60c.indd 21 2014/07/16 11:15:49

oumi60c.indd 22 2014/07/16 11:15:49

oumi60c.indd 23 2014/07/16 11:15:49

oumi60c.indd 24 2014/07/16 11:15:49